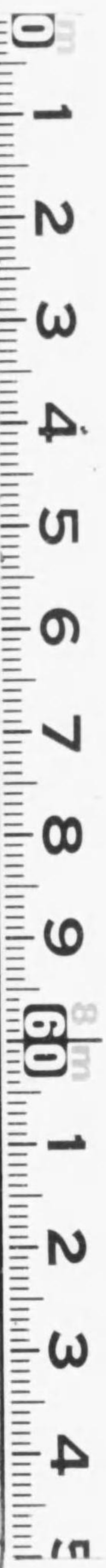


始



特

558

改正電氣工作物規程

附 電氣用品・電氣工事人取締規則

會社 電氣之友社發行

電氣工作物規程

大正八年十月十三日 逓信省令第八十五號
 大正十三年三月十三日 逓信省令第八十四號
 大正十四年十一月二十一日 逓信省令第五十三號
 昭和七年十一月二十一日 逓信省令第五十三號
 改正

第一編 本則

第一章 總則	一
第一節 通則	一
第二節 機械及器具	三
第三節 電線、電路及附屬設備	七
第二章 送電線路、配電線路及饋電線路	二
第一節 通則	二
第二節 低壓及高壓架空電線路	三
第三節 特別高壓架空電線路	五
第四節 地中電線路	五
第五節 隧道其ノ他之ニ類スル場所ヲ通過	五

電氣工作物規程 目次

スル電線路	六
第六節 保安通信設備	六
第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事	四
第一節 屋外工事	四
第二節 屋内工事	四
第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類スル場所ノ工事	四
第四節 臨時工事	四
第四章 電氣鐵道	六
第一節 通則	六
第二節 電車線路及第三軌條	六
第三節 歸線	六
第四節 電車	六



第二編 細則

第一章 總則	六九
第一節 機械及器具	七〇
第二節 電線、電路及附屬設備	七一
第二章 送電線路、配電線路及饋電線路	八五
第一節 通則	八五
第二節 低壓及高壓架空電線路	九五
第三節 特別高壓架空電線路	一〇一
第四節 保安通信設備	一一四
第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事	一二二
第一節 屋外工事	一二二
第二節 屋内工事	一二四
第四章 電氣鐵道	一三三
第一節 通則	一三三
第二節 電車線路及第三軌條	一三四
第三節 歸線	一三五
附則	一三六

電氣工作物規程

第一編 本則

第一章 總則

第一節 通則

第一條 電氣工作物ノ施設及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一 發電所トハ發電機、原動機其ノ他ノ機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル所ヲ謂フ

二 變電所トハ構外ヨリ送電セラルル電氣ヲ更ニ構外ニ送電又ハ配電スル爲構内ニ設備シタル變壓器、電動發電機、廻轉變流機其ノ他ノ機械器具ニ依リ變成スル所ヲ謂フ

電氣工作物規程 本則 總則

三 開閉所トハ發電所、變電所、需用場所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲構内ニ設備シタル開閉器其ノ他ノ裝置ニ依リ電路ヲ開閉スル所ヲ謂フ

四 電線トハ強電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ

五 電線路トハ電線及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

六 送電線路トハ發電所又ハ變電所相互間ヲ連絡スル電線路ヲ謂フ

七 配電線路トハ發電所、變電所又ハ送電線路ヨリ他ノ發電所又ハ變電所ヲ經過セズシテ需用場所ニ至ル電線路ニシテ引込線以外ノモノヲ謂フ

八 引込線トハ配電線路ヨリ分岐シテ需用場所ノ引込口ニ至ル部分ノ電線ヲ謂フ

九 架空引込線トハ配電線路ノ支持物ヨリ他

- ノ支持物ヲ經過セズシテ需用場所ノ取付點ニ至ル架空電線ヲ謂フ
- ハ 饋電線路トハ發電所又ハ變電所ヨリ他ノ發電所又ハ變電所ヲ經過セズシテ電車線又ハ第三軌條ニ至ル電線路ヲ謂フ
- ハ 電車線路トハ電車線及之ヲ支持スル工作物ヲ謂フ
- 十二 電車線トハ電車ニ其ノ動力タル電氣ヲ供給スルニ用フル架空接觸電線ヲ謂フ
- 十三 支持物トハ電線路ニ使用スル木柱、鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ヲ謂フ
- 十四 弱電流電線トハ電信線、電話線、電氣信號線其ノ他弱電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ
- 十五 地中管路トハ地中ニ施設シタル電線路弱電流電線及之ヲ保護スル管、瓦斯管、水道管、下水管、空氣管竝ニ之ニ附屬スル地

- 中面及接續面等ヲ謂フ
- 第三條 電壓ハ左ノ區別ニ依リ低壓、高壓及特別高壓ノ三種トス
 - 一 低壓トハ直流ニ在リテハ六百「ヴォルト」、交流ニ在リテハ三百「ヴォルト」ヲ超過セザルモノヲ謂フ
 - 二 高壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ三千五百「ヴォルト」ヲ超過セザルモノヲ謂フ
 - 三 特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過スルモノヲ謂フ
- 第四條 本令ニ明文ナキ施設ニ關シテハ其ノ設計ニ付選信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ
- 第五條 本令ニ依リ選信大臣又ハ選信局長ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由、工事方法及關係圖面ヲ具シ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ選信大臣ニ認可ヲ申請スルモノナルトキハ申請書ノ副本ヲ所轄選信局長ニ提出ス

ベシ

- 第六條 電氣事業法施行規則ニ依リ選信大臣又ハ選信局長ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ申請事項中本令ニ依リ選信大臣又ハ選信局長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ施設シ得ザル事項又ハ之ニ關係スルモノアルトキハ其ノ申請書中ニ特ニ其ノ旨ヲ明記スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ本令ニ依リ別ニ認可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ選信局長ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ申請事項中本令ニ依リ選信大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ施設シ得ザル事項又ハ之ニ關係スルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第七條 電氣事業者ハ三年間本令ノ規定ニ依ル記錄書類ヲ保存スルコトヲ要ス
- 第二節 機械及器具
- 第八條 發電機、電動機、調相機等ハ其ノ最大

- 使用電壓ノ一。五倍ノ電壓ヲ以テ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絕緣耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス
- 前項ノ機械ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピ」ダンス(消弧線輪ノ類ヲ除ク)ヲ通ジテ中性點ヲ接地シタル電路ニ接續スル場合ハ特別高壓ノモノニ限り前項ノ試驗電壓ヲ最大使用電壓ノ一。二五倍迄ニ輕減スルコトヲ得
- 迴轉變流機ハ其ノ直流側ノ最大使用電壓ノ一倍ノ交流電壓ヲ以テ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絕緣耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス
- 水銀整流器ハ其ノ直流側ノ最大使用電壓ノ二倍ノ交流電壓ヲ以テ主陽極ト外面トノ間ノ絕緣耐力ヲ試驗シ且直流側ノ最大使用電壓ノ一倍ノ交流電壓ヲ以テ陰極及外面ト大地トノ間ノ絕緣耐力ヲ試驗シ各十分間以上之ニ耐フル

コトヲ要ス

第一項、第三項及前項ノ試験電壓ハ最低五百「ヴォルト」トス

第九條 變壓器(計器用變成器ヲ含マズ)ハ特殊

ノモノ(細則第五條參照)以下細則參照ノ場合

ヲ除クノ外其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別

ニ依ル絶縁耐力試験ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 低壓ノモノニ在リテハ其ノ捲線ト他ノ捲

線、鐵心及外面トノ間ノ絶縁耐力ヲ交流千

「ヴォルト」ニテ試験シ十分間以上之ニ耐フ

ルコト但シ二十五「ヴォルト」以下ノ低壓ノ

モノニ在リテハ交流五百「ヴォルト」ニテ試

験スルモノトス

二 高壓ノモノニ在リテハ其ノ捲線ト他ノ捲

線、鐵心及外面トノ間ノ絶縁耐力ヲ最大使

用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以

上之ニ耐フルコト但シ五百「ヴォルト」以下

ノ高壓ノモノニ在リテハ交流千「ヴォルト」

ニテ試験スルモノトス

三 特別高壓ノモノニ在リテハ左ノ區別ニ依

ル試験電壓ヲ以テ其ノ捲線ト他ノ捲線、鐵

心及外面トノ間ノ絶縁耐力ヲ試験シ十分間

以上之ニ耐フルコト

最大使用電壓

試験電壓

(イ) 五千「ヴォルト」未滿

最大使用電壓ノ二倍

(ロ) 五千「ヴォルト」以上

最大使用電壓ニ五

千「ヴォルト」ヲ加

(ハ) 一萬「ヴォルト」以上

最大使用電壓ノ一

五萬「ヴォルト」未滿

・五倍

(ニ) 五萬「ヴォルト」以上

最大使用電壓ニ二

萬五千「ヴォルト」

ヲ加ヘタルモノ

第十條 特別高壓用變壓器其ノ他ノ機械器具ハ

別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外發電所、變電

所其ノ他之ニ準ズル場所ニシテ取扱者ノ外出

入シ得ザル様設備シタル場所ニ裝置スルコト

ヲ要ス

第十一條 市街地外ニ於テ特別高壓電線路ニ接

續スル配電變壓器ニシテ屋外ニ設置スルモノ

ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施

設スルコトヲ要ス(細第六條)

一 一次電壓ハ三萬五千「ヴォルト」以下、二

次電壓ハ高壓ナルコト但シ第十三條但書ノ

規定ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 總出力ハ百五十「キロヴォルトアムペア」

特別高壓用變壓器ヲ一定限度ヲ超過セザル
「インピーダンス」消弧線輪ノ類ヲ除ク)ヲ通
ジテ中性點ヲ接地シタル電路ニ接續スル場合
ハ前項第三號ノ試験電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕
減スルコトヲ得

電氣工作物規程 本則 總則

線其ノ他ノ器具ハ地表上六米以上ノ高サニ施設スルコト但シ其ノ周圍ニ藩籬ヲ設ケ藩籬ノ高サ及藩籬ヨリ充電部分ニ至ル距離ノ和ヲ六米以上ニ保持スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

市街地ニ於テハ前項ノ配電變壓器ヲ施設スルコトヲ得ズ但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十二條 高壓架空電線路ニ接続スル配電變壓器ニシテ屋外ニ設置スルモノハ地表上四・五米以上ノ高サニ於テ支持物ニ堅牢ニ取付クルコトヲ要ス

高壓地中電線路ニ接続スル配電變壓器ハ地中ニ適當ニ施設シ又ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬製變壓塔内又ハ石造、煉瓦造若ハ「コンクリート」造ノ變壓塔内ニ裝置スルコトヲ要ス

二 低壓ノモノ 第三種地線工事

乾燥シタル場所ニ施設スル交流百五十「ヴォルト」直流三百「ヴォルト」以下ノモノニ限リ前項ノ接地ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 高壓又ハ特別高壓用開閉器、自動遮斷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具ト木製ノ壁、天井其ノ他ノ可燃質物トハ高壓用ノモノニ在リテハ二米以上、特別高壓用ノモノニ在リテハ二米以上離隔スルコトヲ要ス但シ耐火質物ヲ以テ兩者間ヲ離隔シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 高壓又ハ特別高壓電氣ヲ以テ充電スル器具及電線ハ人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様適當ニ裝置スルコトヲ要ス但シ取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所ニ裝置スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 非包裝可熔片ハ定格電流ノ一・二五

危險ノ虞ナキ様適當ニ施設シタル場合（細第七條）又ハ特殊ノ設計ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第十三條 特別高壓ヲ直ニ低壓ニ變成スル變壓器ハ特殊ノ場合（細第八條第一項）又ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ一萬五千「ヴォルト」以下ノモノニシテ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スル場合（細第八條第二項）ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 發電機、電動機、廻轉變流機、調相機等ノ鐵臺及變壓器ノ外面（外面ナキ場合ハ鐵心）ハ左ノ各號ニ依リ接地スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ様適當ノ施設ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ（細第九條）

一 特別高壓及 第一種地線工事 高壓ノモノ

倍ノ電流ニ耐ヘ一定時間内ニ一定電流ニ依リ確實ニ熔斷スルモノナル事ヲ要ス（細第十條）非包裝可熔片ハ特殊ノモノ（細第十一條）ヲ除クノ外硬キ金屬製ノ端片ヲ附着シタルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第三節 電線、電路及附屬設備

第十八條 絕緣電線ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外使用ノ目的ニ依リ第一種絕緣電線、第二種絕緣電線、第三種絕緣電線又ハ第四種絕緣電線ヲ使用スルコトヲ要ス（細第十二條乃至第十六條）但シ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 可撓紐線ニハ使用ノ目的ニ依リ第一種可撓紐線、第二種可撓紐線、第三種甲可撓紐線、第三種乙可撓紐線又ハ第四種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ要ス（細第十七條乃至第二十二條）但シ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合

ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 絕緣電線及可撓紐線ハ使用電流ニ因ル温度上昇ノ爲絶緣物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス(細第二十三條)

第二十一條 電路中必要ナル箇所ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スルコトヲ要ス

第二十二條 機械器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス

地線工事ノ接地線、多線式電路ノ中性線及變壓器ノ低壓側ノ一端子ヲ接地シタル場合ニ於ケル接地側ノ低壓架空電線ニハ自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第二十三條 高壓及一萬五千「ヴォルト」以下ノ特別高壓電路中必要ナル箇所ニハ適當ナル檢漏器ヲ裝置スルコトヲ要ス(細第二十五條)

第二十四條 高壓及特別高壓電路中必要ナル箇所(細第二十六條)ニハ避雷器ヲ適當ニ裝置スルコトヲ要ス

避雷器ノ接地ハ第一種地線工事ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 電路ニ裝置シタル開閉器、自動遮斷器、誘導調整器、計器用變成器等ノ器具ハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ其ノ電氣ヲ通ズル部分ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試験シ十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス

最大使用電壓

試験電壓

一 五萬「ヴォルト」未滿 最大使用電壓ノ一・五倍但シ最低五百「ヴォルト」トス

二 五萬「ヴォルト」以上 最大使用電壓ニ二萬五千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

前項ノ器具ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」(消弧線輪ノ類ヲ除ク)ヲ通ジテ中性點ヲ接地シタル電路ニ接續スル場合ハ特別高壓ノモノニ限り前項ノ試験電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

試験電壓

一 五萬「ヴォルト」未滿 最大使用電壓ノ一・二五倍

二 五萬「ヴォルト」以上 最大使用電壓ニ一萬三千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

發電所、變電所又ハ開閉所内ニ施設シタル機械器具ノ接續線及母線ノ絶緣耐力ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ準用ス但シ多心電纜ニ在リテハ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲモ試験スルモノトス

特殊ノ設計ニ依ル器具ニシテ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ第一項及第二項ノ制限ニ依

ラザルコトヲ得

第二十六條 變壓器ニ依リ高壓電路ニ結合セラシタル低壓電路ニハ其ノ變壓器ノ中性點ニ於テ第二種地線工事ヲ施スコトヲ要ス但シ變壓器ノ構造又ハ配電方法ニ依リ其ノ中性點ヲ接地シ難キトキハ低壓側ノ電壓二百五十「ヴォルト」以下ノモノニ限り其ノ一端子ヲ接地スルコトヲ得(細第二十七條)

特殊ノ場合(細第二十八條)又ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第一項ノ地線工事ノ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

高壓計器用變成器ノ二次側電路ニハ第三種地線工事ヲ施スコトヲ要ス

第二十七條 變壓器ニ依リ特別高壓電路ニ結合

セラルル高壓電路ニハ特殊ノ場合(細第二十
九條)ヲ除クノ外變壓器ノ端子ニ近ク其ノ最
大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ
放電スベキ適當ナル裝置ヲ一極ニ施スコトヲ
要ス

最大使用電壓

- 一 千「ヴォルト」未滿 放電電壓ノ最大使用電壓ノ約二倍以下
 - 二 千「ヴォルト」以上千四百「ヴォルト」未滿 約二千「ヴォルト」以下
 - 三 千四百「ヴォルト」以上 最大使用電壓ノ約一・五倍以下
- 變壓器ニ依リ特別高壓電路ニ結合セラルル低
壓電路ニハ特殊ノ場合(細第二十八條)ヲ除ク
ノ外前條第一項ノ場合ニ準ジ其ノ變壓器ノ中
性點又ハ一端子ニ於テ第二種地線工事ヲ施ス
コトヲ要ス但シ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵
抗ハ十「オーム」ヲ超過セシムルコトヲ得ズ

前項ノ地線工事ノ接地線ト大地トノ間ノ電氣
抵抗ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記
録スルコトヲ要ス

特別高壓計器用變成器ノ二次側電路ニハ第一
種地線工事ヲ施スコトヲ要ス

第二十八條 電路ハ左ノ部分ヲ除クノ外其ノ全
部ヲ充分大地ヨリ絕緣スルコトヲ要ス但シ選
信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコ
トヲ得

- 一 前二條ノ規定ニ依リ變壓器ノ低壓側ヲ接
地スル場合ニ於ケル接地點
- 二 電路ノ保安ノ目的ヲ以テ其ノ中性點ヲ接
地スル場合ニ於ケル接地點
- 三 特殊ノ事由ニ依リ電路ノ一部ヲ大地ヨリ
絕緣セザル場合(細第三十條)ニ於ケル不絕
緣部分

第二十九條 特別高壓電路ニ於テ保安ノ目的ヲ

以テ其ノ中性點ヲ接地スル爲使用スル抵抗器
又ハ「リアクトル」ハ地絡電流ヲ安全ニ通ジ得
ルモノナルコトヲ要ス

高壓電路ノ保安ノ目的ヲ以テ其ノ中性點ヲ接
地スル場合ニ於テハ其ノ接地點ハ一箇ニ限リ
且該電路ノ一部ニ地氣ヲ生ジタルトキ中性點
ヨリ大地ニ通ズル電流ハ五百「ミリアムペア」
以下ナルコトヲ要ス但シ所轄通信局長ノ認可
ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三十條 地線工事ハ左ノ三種トシ適當ニ施設
スルコトヲ要ス(細第三十一條)

- 一 第一種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ
電氣抵抗ヲ十「オーム」以下ニ保持スルモノ
- 二 第二種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ
電氣抵抗ヲ其ノ「オーム」數ニ變壓器一次側
ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流(非包裝可
熔片ニ在リテハ其ノ定格電流ノ二倍)ノ「ア

ムペア」數ヲ乘ジタル積ガ百五十以下ナル
様保持スルモノ但シ接地線ト大地トノ間ノ
電氣抵抗ハ五「オーム」以下ナルコトヲ要セ
ズ

三 第三種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ
電氣抵抗ヲ百「オーム」以下ニ保持スルモノ
地線工事ヲ施スベキ場合ニ於テ工事上已ムヲ
得ザルトキハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ本條ノ
制限ヲ輕減スルコトヲ得

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路
第一節 通則

第三十一條 架空電線路ノ支持物ハ他ノ架空電
線路又ハ架空弱電流電線路ニ屬スル電線ノ間
ヲ貫通シテ之ヲ建設スルコトヲ得ズ
架空電線ハ添架ノ場合ヲ除クノ外他ノ架空電
線路(電車線路ヲ含ム)又ハ架空弱電流電線路
ニ屬スル支持物ヲ挾ミテ之ヲ架渉スルコトヲ

得ズ

第三十二條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 架空電線路用支持物強度ノ計算ニ適用スベキ風壓荷重ハ甲種風壓荷重、乙種風壓荷重及丙種風壓荷重ノ三種トス

一 甲種風壓荷重 風壓ヲ垂直面ニ對シ一平方米ニ付二百瓩、圓錐面ニ對シ其ノ垂直投影面積一平方米ニ付電線其ノ他ノ架渉線ニ在リテハ百瓩、支持物ニ在リテハ百二十瓩トシテ計算シタルモノ

二 乙種風壓荷重 電線其ノ他ノ架渉線ノ周圍ニ厚サ六耗比重 $O \cdot 9$ ノ氷雪附着シタルトキ風壓ヲ前號ノ二分ノ一トシテ計算シタルモノ

三 丙種風壓荷重 風壓ヲ第一號ノ二分ノ一トシテ計算シタルモノ

場所ニ施設スル低壓若ハ高壓架空電線路ノ支持物ニ在リテハ丙種風壓荷重ニ依リ計算スルコトヲ得(細第三十三條、第三十四條及第三十五條)

前項ノ場合ニ於テ支持物基礎ノ強度ハ安全係數ヲ二以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス

第三十五條 木柱、鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ支線ヲ用ヒテ其ノ強度ノ一部ヲ分擔セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支線ニハ四耗以上ノ亜鉛鍍線五條以上ヨリ成ルモノヲ使用シ且其ノ強度ハ安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス(細第三十三條、第三十六條及第三十八條)

第三十六條 架空電線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

前項各號ノ風壓ハ支持物ノ種類ニ依リ左ノ如ク加ハルモノトシテ計算スルモノトス

一 木柱、鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱 特殊ノモノヲ除クノ外電線路ト直角ノ方向ニ於テ架渉線及支持物ニ前項風壓ノ一倍

二 鐵塔 左記ノ場合ヲ各別ニ計算スルモノトス
(イ) 電線路ト直角ノ方向ニ於テ架渉線ニハ前項風壓ノ一倍、鐵塔ニハ其ノ前面ニ前項風壓ノ一・五倍
(ロ) 電線路ノ方向ニ於テ鐵塔(可撓鐵塔ヲ除ク)ニハ其ノ前面ニ前項風壓ノ一・五倍

第三十四條 架空電線路ニ用フル鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重(氷雪多キ地方(細第三十二條)ノ場合ニ限ル)ノ執レニ對シテモ適當ニ計算シタルモノナルコトヲ要ス但シ人家連續ノ

高壓又ハ特別高壓架空電線路(饋電線路ヲ除ク)ニハ公衆ヲシテ注意ヲ爲サシムル爲適當ナル表示ヲ爲スコトヲ要ス(細第三十九條)

第三十七條 架空電線路他ノ架空電線(電車線ヲ含ム)若ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ二・五米以内ノ距離ニ接近シテ施設セントスル場合又ハ地中電線路ヲ他ノ地中電線路若ハ地中管路ト交叉シ又ハ二米以内ノ距離ニ接近シ

テ施設セントスル場合ハ其ノ工事着手ノ前日迄ニ建設ノ場所及日時ヲ關係管理者ニ通知シ立會ヲ求ムベシ其ノ既ニ施設シタルモノヲ修理又ハ撤去セントスルトキ亦同ジ但シ關係管理者ニ於テ豫定ノ日時ニ立會ヲ爲サザルトキハ直ニ工事ヲ施行スルコトヲ得

第二節 低壓及高壓架空電線路
第三十八條 市街地ノ道路ニハ二箇以上ノ架空電線路ヲ建設スルコトヲ得ズ

土地ノ狀況ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三十九條 市街地ニ於テ道路ニ沿ヒ道路外ニ架空電線路ヲ建設スルトキハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス但シ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 道路ノ一側ニ架空弱電流電線路アルトキハ其ノ側ニ於テ道路ヨリ二・五米以内ニ接近シテ建設セザルコト

二 道路及其ノ兩外側 一・五米ヲ含ム地帯内ニ道路ニ並行スル架空電線路アルトキハ其ノ地帯内ニ建設セザルコト

第四十條 市街地ノ道路上ニ電線ヲ架設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ工事ノ上若ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザルトキ又ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得 (細第四

十一條)

一 架空弱電流電線路トノ交叉點ヲ最小ナラシムルコト

二 道路ノ兩側ニ跨ラズシテ其ノ一側ノみに施設スルコト但シ交通ニ支障ナキ様施設シタル水平支線ハ此ノ限ニ在ラズ

三 道路ノ一側ニ架空弱電流電線路アルトキハ他ノ一側ニ施設スルコト

四 電線ハ道路 (交通頻繁ナラザル道路ヲ除ク以下之ニ同シ) ノ交叉點以外ノ場所ニ於テ道路ヲ横斷セザルコト但シ左ニ掲グルモノハ此ノ限ニ在ラズ

(イ) 道路上ニ於ケル配電線路ヨリ分岐シテ一ノ需用場所ノ構外ニ於ケル支持物ヲ經過セズシテ其ノ構内専用配電線路ニ達スル一徑間ノ電線

(ロ) 低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル

部分(細第四十二條第一項第二號) ガ道路上ニ於ケル配電線路ニ達スル場合ニ於テ其ノ線路ヨリ分岐スル一徑間ノ電線

五 一電線路ノ幅員(幅員ニハ支線、支柱ヲ含マズ以下之ニ同シ)ハ二・七米ヲ超過セシメザルコト

六 支持物ハ八十度以下ニ傾斜セシメザルコト

前項第四號但書(ロ)ノ場合ニ於テハ道路ノ對側ニ於テ道路上ニ支持物ヲ建設スルコトヲ得ズ

第四十一條 架空電線路ト架空弱電流電線路(單線式電話線路ヲ除ク)ト並行スル場合ハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線相互間ノ距離ヲ左ノ各號ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一 交流ノ低壓若ハ高壓電線又ハ直流複線式饋電線ニ在リテハ二米以上

二 直流單線式饋電線ニ在リテハ四米以上

弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ前項ノ離隔距離ヲ六十釐迄ニ短縮スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路ニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ニ施設スルコトヲ要ス (細第四十三條及第九十一條)

第四十二條 架空電線ニハ其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ電線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス (細第三十三條) 但シ低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分(細第四十二條)ニシテ徑間二十米以上ナル場合ニ限り二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

一 使用電壓 電線

一 低壓 二・六耗ノ硬銅線

電氣工作物規程 本則 送電線路、配電線路及饋電線路

二 高壓 四耗ノ硬銅線
前項ノ電線ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ使用電壓ニ從ヒ左ニ掲グル絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

絶縁電線

- 一 使用電壓 三百「ヴォルト」以下 第一種絶縁電線
- 二 三百「ヴォルト」ヲ超 第二種絶縁電線
- 三 過スル直流低壓 第三種絶縁電線

第四十三條 架空電線ノ地表上ノ高サ及造營物トノ間隔ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 道路ヲ横斷スル場合ニ於テハ地表上六米以上

二 鐵道又ハ軌道ヲ横斷スル場合ニ於テハ軌

條面上六米以上

三 前二號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上

四 造營物ノ側面ニ於テハ造營物ト電線トノ距離一・二米以上

五 造營物ノ上部ニ於テハ造營物ト電線トノ距離二米以上

低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分(細第四十二條)ニシテ其ノ徑間二十米以下ナル場合ハ前項第三號ノ制限ヲ四米迄ニ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ電線ヲ人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルトキハ第一項第四號ノ制限ヲ六十厘米迄ニ短縮スルコトヲ得

橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スル低壓架空饋電線ハ工地上已ムヲ得ザル場合ニ限り第一項第三號ノ制限ヲ三・五米迄ニ短縮スルコトヲ得

第四十四條 同一支持物ニ高壓架空電線ト低壓

架空電線トヲ併架スルトキハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ様取付ケタル電線ハ此ノ限ニ在ラズ(細第四十四條)

一 高壓電線ヲ低壓電線ノ上部ト爲シ別箇ノ腕木ニ架設スルコト

二 高壓電線ト低壓電線トハ五十種以上離隔スルコト

特殊ノ設計ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケ

テ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四十五條 支持物ヲ共用スル二事業者以上ノ架空電線路ハ前條及左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依ルモノハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 高壓、低壓毎ニ各所屬ノ腕木ヲ區別シ色別其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ所有者ヲ明ニス

ルコト

二 一ノ支持物ヨリ一事業者ノミ引込線ヲ分岐スルコト

第四十六條 高壓架空電線ガ道路ト交叉スル場合又ハ他ノ低壓若ハ高壓架空電線ト其ノ上部ニ於テ交叉スル場合ニ於テハ其ノ支持物ハ左ノ各號ニ依リ施設シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細第四十五條)

- 一 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スルコト
- 二 木柱ノ強度ハ人家連櫓ノ場所ニ在リテハ丙種風壓荷重、其ノ他ノ場所ニ在リテハ甲種風壓荷重ニ對シ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

電氣工作物規程 本則 送電線路、配電線路及饋電線路

徑 間 末 口

(イ) 五十米以下ナ
ル場合 十五種以上(單柱、A柱)

(ロ) 五十米ヲ超過
シ百米以下ナ
ル場合 十八種以上(單柱、H柱、A柱)

高壓架空電線ガ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合
又ハ架空弱電流電線ト其ノ上部ニ於テ交叉ス
ル場合ニ於テハ其ノ支持物ハ左ノ各號ニ依リ
施設シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細第四
十五條)

一 木柱ノ場合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ五十米
以下ト爲シ前項第二號ニ依ルコト

二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ
在リテハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

前二項ノ場合ニ於テ徑間ガ其ノ制限ヲ超過ス
ルトキハ支持物ハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケ
タル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第四十七條 高壓架空電線路ガ川越、谷越其ノ
他特殊ノ事由ニ依リ徑間百米ヲ超過スル場合
ハ其ノ部分ニ限リ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等
以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ其ノ
弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシメ且支持
物ノ強度ハ左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要
ス(細第三十八條)

一 木柱ノ強度ハ其ノ徑間三百米以下ナルト
キハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重 水雪多キ
地方(細
第三十二條)ノ執レニ對シテモ安全係數ヲ
四以上トシテ計算シタルモノナルコト但シ
木柱ノ太サハ單柱ニ在リテハ末口十八種以
上、H柱A柱ニ在リテハ十五種以上ト爲ス
コト

二 徑間百米ヲ超過シ百五十米以下ナル場合
ニ於ケル木柱ニハ全架涉線ニ生ズル最大張

力ノ和ノ三分ノ一ニ等シキ不平均張力ニ耐
フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線
五條以上ヨリ成ルモノナルコト

三 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場
合ニ於ケル木柱ニハ全架涉線ニ生ズル最大
張力ノ和ノ三分ノ二ニ等シキ不平均張力ニ
耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵
線七條以上ヨリ成ルモノナルコト

四 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場
合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱
ニハ第二號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモ
ノヲ使用シ又ハ之ニ第二號ニ準ズル支線ヲ
設クルコト

五 徑間三百米ヲ超過シ五百米以下ナル場合
ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ
ハ第三號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノ
ヲ使用シ又ハ之ニ第三號ニ準ズル支線ヲ設

クルコト

六 徑間五百米ヲ超過スル場合ニ於ケル鐵塔
ニハ一架涉線ニ生ズル最大張力ノ二分ノ一
ニ等シキ不平均張力ニ耐フルモノヲ使用ス
ルコト此ノ場合ニ於テハ不平均張力ハ鐵塔
ノ各部分ニ最大應力ヲ生ズベキ架涉線ノ取
付點ニ加ハルモノトシ之ニ因ル水平力及捻
力ヲ加算シタルモノナルコト

前項第二號乃至第五號ノ支線ノ強度ハ安全係
數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ
要ス(細第三十三條及第三十六條)

高壓架空電線路ノ徑間ガ第一項ノ制限ヲ超過
スルトキハ其ノ支持物ハ所轄通信局長ノ認可
ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第四十八條 架空電線路ガ他ノ低壓又ハ高壓架
空電線路電車線路ト交叉、接近又ハ並行スル

場合ニ於テハ電線相互ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲シ且電線相互ノ混觸ヨリ生ズル危険ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第四十六條)

前項ノ離隔距離ハ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ所轄選信局長ノ認可ヲ受ケテ之ヲ五十四種迄ニ短縮スルコトヲ得

第四十九條 架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ要ス但シ弱電流電線ニ第四種絶緣電線ヲ使用シタルトキ又ハ其ノ管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ六十種迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十條 高壓架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉、接近又ハ並行スル部分ニ於テハ高壓電線ヲ上部ト爲スコトヲ要ス但シ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生

ズル危険ヲ防止スル爲適當ノ施設(細第四十七條)ヲ爲ストキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十一條 架空電線ガ他ノ低壓若ハ高壓架空電線路ヲ含ム又ハ架空弱電流電線路ノ支持物ト接近スルトキハ其ノ間隔ヲ三十種以上ニ保持スルコトヲ要ス但シ接觸ノ虞ナキ様適當ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 高壓架空電線ガ煙突、放送聴取無線電話用空中線其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生ズル危険ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 高壓電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ一・二米以上、放送聴取無線電話用空中線トハ

水平距離一・二米以上ヲ離隔スルコト

二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種

地線工事ニ依リ接地スルコト

高壓架空電線路ニ用フル支線ニシテ高壓電線

ト接觸ノ虞アルモノニハ其ノ上部ニ碍子ヲ挿入スルコトヲ要ス

第五十三條 市街地ニ於ケル高壓架空電線路電

鐵道ノ專用敷地内ニ施ニハ其ノ亘長一杆以下

設スル饋電線路ヲ除ク

毎ニ閉閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラ

シムルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄

選信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

電氣工作物規程 本則 送電線路、配電線路及饋電線路

二一

備ヲ施スコトヲ要ス

第五十四條 第四十二條第二項ノ規定ニ依ラズ

シテ高壓架空電線ニ第一種若ハ第二種絶緣電線ヲ使用シ又ハ三百「ヴォルト」ヲ超過スル直

流低壓架空電線ニ第一種絶緣電線ヲ使用スル

トキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 市街地ニ施設スルモノ又ハ道路、鐵道、

丸道、他ノ低壓若ハ高壓架空電線、架空弱

電流電線又ハ建築物人ノ住居又ハ看守スル

シト交叉シ若ハ其ノ架空電線ノ支持物地表

上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近ス

ル箇所ニ施設スルモノハ電線ニ五種ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 低壓架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉

接近又ハ並行スル場合ニ於テハ低壓架空電線ヲ上部ト爲スコト但シ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危険ヲ防止スル爲適當ノ施設(細第四十七條)ヲ爲スコトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十五條 市街地外ニ於テ低壓又ハ高壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 道路、鐵道、軌道他ノ低壓若ハ高壓架空電線、架空弱電流電線若ハ建造物ト交叉シ又ハ其ノ架空電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ於テハ電線ニ五耗ノ硬銅撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシムルコト
- 二 前號ノ場合ニ於テハ木柱ノ強度ハ甲種風

壓荷重及乙種風壓荷重 氷雪多キ地方(細第三十二條)ノ場合ニ限リ執レニ對シテモ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

- (イ) 五十米以下 十五糎以上
- (ロ) 五十米ヲ超スル場合 十八糎以上(單柱)
- 三 第一號ノ場合ニ於テ支持物ハ堅牢ニ建設スルコト(細第四十五條)
- 四 高壓裸電線ガ他ノ高壓架空被覆電線ト交叉スル箇所又ハ低壓裸電線ガ他ノ低壓架空被覆電線ト交叉スル箇所ニ於テハ工地上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外裸電線ヲ上部ト爲スコト
- 五 架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ

裸電線ヲ上部ト爲シ且危險ヲ生ゼシメザル様適當ノ施設ヲ爲スコト(細第五十條)但シ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危険ヲ防止スル爲適當ノ施設(細第四十七條)ヲ爲スコトキハ裸電線ヲ下部ト爲スコトヲ得

土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十六條 市街地ニ於テ高壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 道路ニ沿ヒ道路上ニ建設スル場合ハ幅員五米以上ノ道路ニ之ヲ建設スルコト
- 二 電線ニハ五耗ノ硬銅撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシムルコト

- 三 電線相互ノ間隔ハ特殊ノ場合(細第五十一條)ヲ除クノ外徑間ガ五十米以下ナル場合ハ四十糎以上、五十米ヲ超過スル場合ハ六十糎以上ト爲スコト
- 四 木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重 氷雪多キ地方(細第三ノ執レニ對シテモ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト
- 徑 間 末 口
- (イ) 五十米以下ナ 十五糎以上
- (ロ) 五十米ヲ超過スル場合 十八糎以上(單柱)
- 五 支持物ハ堅牢ニ建設スルコト(細第四十五條)

- 六 徑間ハ木柱ニ在リテハ五十米以下、鐵柱鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ百米以下ト爲スコト但シ木柱ニ依ル場合ニシテ工事又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ電線路ノ一部ニ限リ徑間ヲ六十米迄ニ延長スルコトヲ得
- 七 裸電線ト架空弱電流電線トハ交叉スル場合ヲ除クノ外水平距離一・五米以上ヲ離隔スルコト但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ一米迄ニ短縮スルコトヲ得
- 八 架空弱電流電線「ケーブル」ト交叉スル箇所ニ於テハ危險ヲ生ゼシメザル様適當ノ施設ヲ爲スコト(細第五十條)

- 依ラザルコトヲ得
- 第五十七條 市街地ニ於テハ土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ逡信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外低壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ電氣鐵道ノ專用敷地内ニ敷設スル低壓架空電線ニシテ前條第一項ノ規定ニ準ジ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五十八條 高壓架空被覆電線又ハ低壓若ハ高壓架空裸電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グル架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ハ第四十六條第五十四條及第五十五條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
- 一 電線ノ一部ヲ接地シタル低壓架空電線
- 二 單線式電氣鐵道ノ架空饋電線又ハ電車線
- 三 電車線路ニ添架シタル弱電流電線
- 四 特別高壓架空電線路ニ添架シタル電話線又ハ直接之ト接続スル電話線

第五十九條 架空電線路ハ引込線ヲ併セ左ノ絕緣抵抗又ハ絕緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

- 一 低壓電線路ノ絕緣部分ト大地トノ間ノ絕緣抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト
 - 二 高壓電線路ト大地トノ間ノ絕緣耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト
- 第三節 特別高壓架空電線路
- 第六十條 特別高壓架空電線路ハ市街地其ノ他人家ノ稠密ナル地ニ建設スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ逡信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
- 第六十一條 特別高壓架空電線路ハ特ニ逡信大

- 臣ノ認可ヲ受ケタル場合又ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タル場合ヲ除クノ外既設架空弱電流電線路單線式電話ニ對シ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ且適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第五十二條及第五十三條)
- 前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設弱電流電線路ニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ナル方法ヲ施スコトヲ要ス
- 第六十二條 特別高壓架空電線ニハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル裸電線ヲ使用スルコトヲ要ス(細第三十三條)
- 第六十三條 特別高壓架空電線ノ地表上ノ高さハ六米以上トス但シ特殊ノ場所ニ限リ逡信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第六十四條 特別高壓架空電線ノ弛度ノ計算ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス(細第三十三條及第五十四條)

- 一 氷雪多カラザル地方ニ在リテハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ二以上トシ電線ノ重量ト電線ノ投影面積一平方米ニ付百斤ノ水平風壓トノ合成荷重ヲ支持シ得ル様計算シタルモノナルコト但シ最大使用電壓六萬「ヴォルト」以上ニシテ且電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノ場合ハ安全係數ヲ二・五以上ト爲スコト
- 二 氷雪多キ地方(細第三十二條)ニ在リテハ前號ニ依ルノ外更ニ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ二以上トシ電線ノ周圍ニ厚サ六耗比重〇・九ノ氷雪附着シタルトキ電

線及氷雪ノ重量ト被氷電線ノ投影面積一平方米ニ付五十斤ノ水平風壓トノ合成荷重ヲ支持シ得ル様計算シタルモノナルコト但シ最大使用電壓六萬「ヴォルト」以上ニシテ且電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノ場合ハ安全係數ヲ二・五以上ト爲スコト

特殊ノ構造又ハ強度ヲ有スル電線ヲ使用スル場合ニ於テハ電線ノ弛度ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第六十五條 木柱ニ依ル特別高壓架空電線路ニ用フル支持物ハ左ノ各號ニ依リ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細第三十七條、第三十八條及第五十五條)

- 一 木柱ノ強度ハ第六十八條乃至第七十條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外甲種風壓荷重及

乙種風壓荷重(氷雪多キ地方(細第三ノ執レニ對シテモ安全係數ヲ左ノ制限ニ依リ計算シタルモノナルコト)

電 壓 安 全 係 數

- (イ) 一萬五千「ヴォルト」四以上以下ノモノ
- (ロ) 一萬五千「ヴォルト」四以上(注入柱)ヲ超過スルモノ
- 二 木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト
- 徑 間 末 口
- (イ) 五十米以下ナ 十五糎以上
- ル場合
- (ロ) 五十米ヲ超過 十八糎以上(單柱)
- スル場合 十五糎以上(百柱、A柱)
- 三 標準徑間ハ百米以下ナルコト

第六十六條 特別高壓架空電線路ニ用フル鐵柱鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ノ強度ノ計算ニ

ハ左ノ區別(細第五十六條)ニ依リ不平均張力ニ因ル水平荷重ヲモ加算スルコトヲ要ス

- 一 標準型及角度型
- (イ) 鐵塔ニ在リテハ一架渉線ニ生ズル最大張力ノ二分ノ一ニ等シキ不平均張力ガ鐵塔ノ各部分ニ最大應力ヲ生ズベキ架渉線ノ取付點ニ加ハルモノトシ之ニ因ル水平力及捻力ヲ加算スルコト但シ不平均張力ハ最大使用電壓六萬「ヴォルト」以上ノ電線路ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノモノニ付テハ耐張碍子ヲ用フル場合ハ架渉線ニ生ズル最大張力ノ一倍以上、「ピン」型又ハ懸垂碍子ヲ用フル場合ハ架渉線ニ生ズル最大張力ノ十分ノ六以上トス
- (ロ) 鐵柱、可撓鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」

ト」柱ニ在リテハイノ不平均張力ヲ考慮スルコトヲ要セズ

二 耐張型 左ノ不平均張力ガ各架渉線ノ取付點ニ加ハルモノトスルコト

(イ) 第一種耐張型 各架渉線ニ生ズル最大張力ノ三分ノ一ニ等シキ不平均張力

(ロ) 第二種耐張型 各架渉線ニ生ズル最大張力ノ三分ノ二ニ等シキ不平均張力

(ハ) 第三種耐張型 各架渉線ニ生ズル最大張力ニ等シキ不平均張力

三 引留型 各架渉線ニ生ズル最大張力ニ等シキ不平均張力ガ其ノ取付點ニ加ハルモノトスルコト

標準鐵柱及標準鐵筋「コンクリート」柱ノ徑間ハ百米以下ナルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ

依リ選信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ヲ百五十米迄ニ延長スルコトヲ得

第六十七條 特別高壓架空電線路ガ川越、谷越其ノ他特殊ノ事由ニ依リ徑間百米ヲ超過スル場合ハ其ノ部分ニ限リ支持物ノ強度ハ左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス

一 徑間百米ヲ超過シ百五十米以下ナル場合ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ一ニ等シキ不平均張力ニ耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線

五條以上ヨリ成ルモノナルコト

二 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ二ニ等シキ不平均張力ニ耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線七條以上ヨリ成ルモノナルコト

三 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場

合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱

ニハ第一號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第一號ニ準ズル支線ヲ設クルコト

四 徑間三百米ヲ超過シ五百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第二號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第二號ニ準ズル支線ヲ設クルコト

五 徑間五百米ヲ超過スル場合ニ於ケル鐵柱最大使用電壓六萬「ヴォルト」以上、電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方センチ、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方センチ以上ノ場合ニ限ルニハ第一種耐張鐵塔ヲ使用スルコト但シ土地ノ狀況ニ依リ當該徑間ニ隣接スル箇所ニ第二種耐張鐵塔ヲ建設シ本鐵塔ハ標準型ニ準ジ計

算シタルモノト爲スコトヲ得

前項第一號乃至第四號ノ支線ノ強度ハ安係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス(細第三十三條及第三十六條)

特別高壓架空電線路ノ徑間ガ第一項第二號又ハ第四號ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ支持物ハ選信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第六十八條 特別高壓架空電線ト建造物、道路鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空電線路トガ水平距離ニ於テ其ノ特別高壓電線路ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離乃至三米迄ニ接近スル部分ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設シ且適當ニ建設(細第五十八條)スルコトヲ要ス

一 特別高壓架空電線ニハ撚線ヲ使用スルコト

二 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

三 木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重氷雪多キ地方（細第三ノ執レニ對シテモ十二條）ノ場合ニ限ル

安全係數ヲ左ノ制限ニ依リ計算シタルモノナルコト

電 壓 安全係數

- (イ) 一萬五千「ヴォルト」以下 六
- (ロ) 一萬五千「ヴォルト」以上六（注入柱）
七・五（不注入柱）
ヲ超過スルモノ
- 四 一萬五千「ヴォルト」ヲ超過スル電線ト建造物トノ離隔距離ハ五米以上ニ保持スルコト
- 前項ノ場合ニ於テ徑間ガ百米ヲ超過スルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依

ルコトヲ要ス

第六十九條 二萬五千「ヴォルト」以下ノ特別高壓架空電線ト建造物、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以内ニ接近スルトキ又ハ一萬五千「ヴォルト」以下ノ特別高壓架空電線ト道路トガ水平距離三米以内ニ接近スルトキハ前條第一項第一號及第三號ニ依リ施設シ且危險ヲ生ゼシメザル様適當ニ施設（細第五十九條）スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ徑間ハ木柱ニ在リテハ五十米以下、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ百米以下、鐵塔ニ在リテハ百五十米以下ト爲スコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第一項ノ電壓ヲ超過スル特別高壓架空電線ト

建造物、道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以内ニ接近スルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第七十條 特別高壓架空電線ガ道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線ヲ含ム又ハ架空弱電流電線ト交又スル箇所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設（細第六十條）スルコトヲ要ス

- 一 特別高壓架空電線ニハ燃線ヲ使用スルコト
- 二 木柱ハ其ノ徑間ヲ鐵道、軌道又ハ架空弱電流電線ト交又スル箇所ニ在リテハ五十米以下、道路又ハ低壓若ハ高壓架空電線ト交又スル箇所ニ在リテハ百米以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一項第三號ニ依ルコト

三 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

四 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線ト交又スル箇所ニ於テハ特別高壓電線ヲ上部ト爲シ且電線相互間ノ垂直距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト

(イ) 六萬「ヴォルト」以下ノモノハ二米以上

(ロ) 六萬「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ超過分一萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數毎ニ二十種ヲ加フ

特殊ノ設計ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十一條 特別高壓架空電線ト他ノ特別高壓架空電線トガ水平距離ニ於テ其ノ電線路ノ支持物地表上ノ高さニ相當スル距離以内ニ接近スル部分及特別高壓架空電線ガ他ノ特別高壓

架空電線ノ上部ニ於テ之ト交叉スル部分ニ於テハ燃線ヲ使用シ左ノ各號ニ依リ施設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十條)スルコトヲ要ス

一 木柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一項第三號ニ依ルコト

二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

三 電線相互間ノ離隔距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト

(イ) 六萬「ヴォルト」以下ノモノハ二米以上

(ロ) 六萬「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ超過分一萬「ヴォルト」又ハ其端數毎ニ二十種ヲ加フ

四 下部ノ特別高壓架空電線路ニ架空地線アル場合ハ電線ト架空地線トノ離隔距離ハ前

號ニ依ルコト

特殊ノ設計ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十二條 特別高壓架空電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グル架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ハ第六十八條乃至第七十條第一項第四ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 電線ノ一部ヲ接地シタル低壓架空電線

二 單線式電氣鐵道ノ饋電線又ハ電車線

三 電車線路ニ添架シタル弱電流電線

四 特別高壓架空電線路ニ添架シタル電話線又ハ直接之ト接續スル電話線

特別高壓架空電線ガ同一事業者ニ屬スル鐵道若ハ軌道ト交叉シ又ハ其ノ特別高壓電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近

スル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ第六十八條及第七十條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十三條 特別高壓架空電線ト低壓又ハ高壓架空電線トハ同一支持物ニ添架スルコトヲ得ズ但シ一萬五千「ヴォルト」以下ノ特別高壓架空電線ト同一事業者ニ屬スル低壓又ハ高壓架空電線トノ場合ニシテ電線相互ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十一條)スルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

特殊ノ設計ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十四條 特別高壓架空電線ト植物トノ間隔ハ風雪其ノ他如何ナル場合ニ於テモ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

一 六萬「ヴォルト」以下ノモノハ二米以上

二 六萬「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ超過分

一 萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ

第七十五條 特別高壓架空電線ト他ノ架空電線路ヲ含ム 又ハ架空弱電流電線路ノ支持物トハ常ニ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

一 六萬「ヴォルト」以下ノモノハ二米以上

二 六萬「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ超過分

一 萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ

特殊ノ設計ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第七十六條 特別高壓架空電線ガ煙突其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生ズル危險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 特別高壓架空電線ト工作物又ハ其ノ支線

トハ常ニ左ノ間隔ヲ保持スルコト

(イ) 六萬「ヴォルト」以下ノモノハ二米以上

(ロ) 六萬「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ超過分一萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數毎ニ三十糎ヲ加フ

二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

第七十七條 特別高壓架空電線路ト大地トノ間ノ絕緣耐力ハ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

最大使 試驗 電 壓
用電壓

一 五萬「ヴォルト」未滿 最大使用電壓ノ一・五倍

二 五萬「ヴォルト」最大使用電壓ニ二萬五千

ルト」以上「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ特別高壓架空電線路ニシテ電路ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」消弧線

ヲ除クヲ通ジテ接地シタル場合ニ限リ前項ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使 試驗 電 壓
用電壓

一 五萬「ヴォルト」未滿 最大使用電壓ノ一・二五倍

二 五萬「ヴォルト」最大使用電壓ニ一萬三千ルト」以上「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

第四節 地中電線路

第七十八條 道路ニ施設スル地中電線路ハ左ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ工事上已ムヲ得ザルトキ又ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 道路ヲ橫斷スルモノヲ除クノ外道路ノ兩側ニ跨ラズシテ其ノ一側ノミニ施設スルコト

二 道路ノ一側ニ地中弱電流電線路アルトキハ其ノ同一側ニ施設セザルコト

三 道路ノ一側ニ地中電線路アルトキハ其ノ同一側ニ施設スルコト

前項ノ規定ハ地中引込線及屋外照明用地中電線路ニ之ヲ適用セズ

第七十九條 地中電線ヲ藏ムル暗渠、管又ハ管路ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐ヘ且瓦斯又ハ水ノ成ルベク浸入セザル様築造スルコトヲ要ス

地中電線ヲ直接埋設式ニ依リ敷設スルトキハ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ヲ受クル虞アル場所ニ於テハ土冠ヲ一・二米以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ土冠ヲ六十糎以上ト爲シ石又ハ植

ノ類ヲ以テ電線ノ上部及側面ヲ掩ヒ他動的損傷ヲ防止スルコトヲ要ス但シ低壓電線ヲ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ヲ受クル虞ナキ場所ニ敷設スル場合ハ幅二十糎以上ノ堅牢ナル石又ハ木板ノ類ヲ以テ電線ノ上部ノミヲ掩ヒテ施設スルコトヲ得

第八十條 地中電線ニハ引入式又ハ暗渠式ニ依ル場合ハ鉛被電纜又ハ鉛裝電纜、直接埋設式ニ依ル場合ハ鉛裝電纜ヲ使用スルコトヲ要ス但シ前條第二項但書ノ場合ハ左ノ電線ヲ使用スルコトヲ得

一 切斷面積五平方 鉛被電線
耗以下ノモノ

二 切斷面積五平方耗ヲ超過 「チニート」捲シ十五平方耗以下ノモノ 鉛被電纜
土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザル

コトヲ得

第八十一條 地中電線路ハ漏洩電流又ハ誘導作用ニ因リ既設地中弱電流電線ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

第八十二條 地中電線ト地中弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テ其ノ間隔ガ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三十糎以下、特別高壓電線ニ在リテハ六十糎以下ナルトキハ成ルベク其ノ部分ヲ短縮シ且相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

第八十三條 高壓地中電線ト低壓地中電線トハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁アル場合ヲ除クノ外三十糎以上離隔スルコトヲ要ス但シ地中函内ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
特別高壓地中電線ト低壓又ハ高壓地中電線トノ場合亦前項ニ同ジ

第八十四條

地中電線ヲ藏ムル金屬製ノ暗渠、管、電線接續函及地中電線ノ被覆ニ用フル金屬體ハ電氣的接續ヲ爲シ且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第八十五條 地中函ハ電氣事業專用ノモノトシ且二以上ノ事業者之ヲ共用スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依リ選信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十六條 地中函ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 地中函ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐フル様築造スルコト
- 二 地中函ニハ水ノ浸入ヲ防止シ又ハ函内ノ漏水ヲ排除スル裝置ヲ施スコト
- 三 爆發性又ハ燃燒瓦斯ノ侵入スル虞アル場所ニ設クル地中函ニシテ其ノ大サ一立方米以上ノモノニハ之ヲ放散セシムベキ通風其

ノ他ノ裝置ヲ施スコト

四 地中函ノ蓋ニハ事業者ノ外容易ニ開披シ能ハザル設備ヲ施スコト

五 地中函ノ蓋ニハ事業者名又ハ其ノ記號ヲ表示スルコト

地中函ハ時々點檢シ瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ放散セシメ且其ノ旨ヲ瓦斯管ノ管理者ニ通知スルコトヲ要ス

第八十七條 地中電線路ハ左ノ絶緣抵抗又ハ絶緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

- 一 低壓電線路ニ在リテハ其ノ絶緣部分ト大地トノ間ノ絶緣抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト
- 二 高壓電線路ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ最大使用電

壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上ニ耐フルコト

三 特別高壓電線路ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル交流電壓又ハ直流電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上ニ耐フルコト

最大使用電壓	交流試驗電壓	直流試驗電壓
(イ) 二萬「ヴォルト」未滿	最大使用電壓ノ一・五倍	最大使用電壓ノ三・五倍
(ロ) 二萬「ヴォルト」以上	最大使用電壓ノ一・五倍	二倍ニ三萬「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ
(ハ) 五萬「ヴォルト」以上	最大使用電壓ノ二・五倍	最大使用電壓ノ二・五倍ニ五萬「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

電路ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」類ヲ除クヲ通ジテ接地シタル場合ニ限り前項第三號ノ試驗電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使 交流試 直 流 試
用電壓 驗電壓 驗電壓

(イ) 二萬「ヴォルト」未滿 最大使用電壓ノ三倍

(ロ) 二萬「ヴォルト」以上 最大使用電壓ノ二倍ニ二萬「ヴォルト」未滿 最大使用電壓ノ二倍ニ二萬「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

(ハ) 五萬「ヴォルト」以上 最大使用電壓ノ五倍ニ四萬五千「ヴォルト」ヲ加ヘタルモノ

第五節 隧道其ノ他之ニ類スル場所ヲ通

過スル電線路

第八十八條 鐵道又ハ軌道ノ專用隧道内ノ電線路ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依リ逕信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 低壓電線ニハ二・六耗ノ第二種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上ニ二・五米以上ノ高サニ保持スルコト

二 高壓電線ハ左記(イ)又ハ(ロ)ニ依リ施設スルコト

(イ) 鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル裝置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及

效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上三米以上ノ高サニ保持スルコト

三 特別高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル裝置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得

第八十九條 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ電線路ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 低壓電線ハ第三百三十四條第一號ノ規定ニ準ジ施設スルコト

二 高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用シ且人ノ觸ルル虞アル箇所ニ施設スルモノニハ他動的損傷ヲ防止スル裝置ヲ施スコト

第九十條 前二條ノ電線路ノ絕緣抵抗又ハ絕緣耐力ニ關シテハ第五十九條又ハ第八十七條ノ規定ヲ準用ス

第六節 保安通信設備

第九十一條 送電ノ連絡ヲ有スル發電所及變電

電氣工作物規程

本則

送電線路、配電線路及饋電線路

所相互間ニハ保安通信用電話ヲ施設スルコトヲ要ス

左ニ掲グル箇所相互間ニ於テモ保安上必要ト認ムルトキハ保安通信用電話ノ施設ヲ爲スベシ

一 發電所、其ノ水路及水路工作物保安ノ爲必要ナル取水所

二 同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐在所

特別高壓架空電線路ニ依リ送電スル場合ニ在リテハ携帶電話機ニ依リ通話スル設備ヲ爲シ且電線架空電線路ニ添架スル場合ハ電線路ノ互長約四軒毎ニ携帶電話機接續箇所又ハ電話機設置箇所ヲ設クルコトヲ要ス

第九十二條 架空電線路ニ添架スル保安通信用電話線以下單ニ電ニハ特殊ノ場合(細第六十條)ヲ除クノ外二・六耗ノ鐵線又ハ之ト同等

以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第九十三條 架空電線路ニ添架スル電話線ハ架空電線ノ下部ニ架設シ電線ト電話線トノ垂直距離ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一 架空電線ガ低壓又ハ高壓電線ナルトキハ六十糎以上

二 架空電線ガ特別高壓電線ナルトキハ二米以上

第九十四條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ノ地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一 鐵道、又ハ軌道ヲ横斷スル場合ニ於テハ軌條面以上六米以上

二 前號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上

第九十五條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ガ道路、鐵道、軌道、架空電線又ハ他ノ

架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 道路、鐵道又ハ軌道ト交叉スル箇所ニ於テハ四糎ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五糎ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 他ノ特別高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特殊ノ設計ニ依リ選信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除ク外其ノ下部ニ架設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコト
(細第六十三條)

三 低壓架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線特別高壓電線路ニ添架スル保ト交叉スル箇所ニ在リテハ其ノ上部ニ施設シ四糎ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五糎ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ低壓電線若ハ他ノ弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五糎ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル場合ハ電話線ヲ下部ト爲スコトヲ得

四 電話線ト他ノ架空弱電流電線トノ垂直距離ヲ一米以上ト爲スコト

第九十六條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線及之ニ接続スル電話線ハ之ヲ市街地ニ施設スル電話線ト接続スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ施設(細第六十四條)ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ニ直接接続スル電話線ハ第九十二條、第九十四條及第九十五條ノ規定ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

第九十八條 架空電線路ニ添架スル電話線及直

電氣工作物規程 本則 電氣使用場所ニ於ケル工事

四一

接之ニ接続スル電話線ニ接続スル屋内電話機ノ設置箇所ニハ其ノ架空電線ノ最大使用電壓ニ從ヒ適當ナル保安裝置(細第六十五條)ヲ施設スコトヲ要ス

二萬五千「ヴォルト」以上ノ特別高壓電線路ニ添架スル電話線ニ接続スル屋外電話機ノ接続箇所ニハ適當ナル保安裝置(細第六十六條)ヲ施設スコトヲ要ス

第九十九條 保安通信用ニ供スル電信線其ノ他ノ弱電流電線ノ工事ニ關シテハ第九十二條乃至前條ノ規定ヲ準用ス

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

第一節 屋外工事

第一百條 低壓架空引込線ハ第三十二條、第四十八條及第五十一條ノ規定ニ準ジ且左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 電線ニハ二・六糎ノ硬銅線又ハ之ト同等

以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ徑間二十米以下ノ場合ニ限リ二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

二 電線ニハ第四號(ロ)、第七號及第八號ノ場合ヲ除クノ外使用電壓三百「ヴォルト」以下ナルトキハ第一種絶緣電線、三百「ヴォルト」ヲ超過スル直流低壓ニ在リテハ

三 第二種絶緣電線ヲ使用スルコト

(イ) 電線地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコト但シ市街地外ニ於テハ交通ニ支障ナキ様

使 用 電 壓

(イ) 交流百五十「ヴォルト」以下 中性點ヲ接地シタル場合ハ二百五十「ヴォルト」以下
(ロ) 「ヴォルト」以下 又ハ直流三百「ヴォルト」以下
(イ) 以外ノモノ

取付點ノ高サ 電線ノ種類

二・五米 第一種絶緣電線
三・五米 第三種又ハ第四種絶緣電線
第一種又ハ第二種絶緣電線

施設シタルモノニ限リ地表上五米以上

(ロ) 鐵道、軌道ヲ横斷スル場合ハ軌條面上六米以上

(ハ) (イ)以外ノ場合ハ地表上五米以上但シ第四十三條第二項ニ依ル電線ノ支持物ヨリ分岐スル場合ハ地表上四米以上

四 工地上已ムヲ得ザル場合ハ需用場所ノ取付點ニ於テ前號(イ)及(ハ)ノ制限ヲ交通ニ支障ナキ限リ左ノ高サ迄ニ輕減スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ配電線路ニ取付クル點ノ高サハ前項ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

五 電線ト造營物トノ間隔ハ左ノ制限ニ依ルコト

(イ) 造營物ノ側面ニ於テハ一・二米以上

(ロ) 造營物ノ上部ニ於テハ二米以上

工地上已ムヲ得ザル場合ニシテ危險ノ虞ナク且人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルトキハ電線ヲ直接引込ミタル造營物ニ付テハ

(イ)ノ制限、其ノ他ノ造營物ニ付テハ(イ)ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

六 電線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲スコト但シ弱電流電線ニ第四種絶緣電線ヲ使用シタルトキ、弱電流電線路管理

者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ工地上已ムヲ得ザルトキハ之ヲ六十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

七 使用電壓交流百五十「ヴォルト」直流三百

「ヴォルト」ヲ超過スル電線ガ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ水平距離一米以内ニ於テ接近スル場合ニ於テハ左ノ電線ヲ使用スルコト

(イ) 電線ガ弱電流電線ノ上部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絶緣電線又ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

(ロ) 電線ガ弱電流電線ノ下部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絶緣電線

使用電壓交流二百五十「ヴォルト」以下ニシテ中性點ヲ接地シタル場合ハ本號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

八 配電線路又ハ他ノ引込線ヨリ分岐シテ直至ル電線ヲ金屬線ニ依リ吊架スル場合ハ第四種絶緣電線ヲ使用シ且第四百四條第一項第

六號ニ準ジ施設スルコト
連接引込線ハ屋内ヲ通過セズ且引込線ヨリ分岐スル點ヨリ六十米ヲ超ユル地域ニ亘リ施設スルコトヲ得ズ

連接引込線ハ道路ヲ横斷セズ且第百二條ノ規定ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第一項ニ準ジ之ヲ施設スルコトヲ要ス
高壓架空引込線ニハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ第一種絕緣硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ且第三十二條、第四十三條及第四十八條乃至第五十二條ノ規定ニ準ジ施設スルコトヲ要ス但シ第四十三條第一項第四號及第五號ノ制限ハ危險ノ虞ナク且工事上已ムヲ得ザル場合ニ限り引込線ト之ヲ直接引込メル造管物ニ付之ヲ適用セズ

第百一條 屋外電燈ノ引下線ニシテ地表上ノ高

サニ・五米未滿ノ部分ニハ電纜工事ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第四種絕緣電線ヲ使用シ且人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ハ他動の損傷ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス

第百二條 軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ引込線連接引込線其ノ他ノ低壓電線ヲ施設スル場合又ハ家屋ノ外側ニ低壓電線ヲ露出セズシテ施設スル場合ハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ碍子引工事ル場所及點檢シ得ル掩蔽場所(細第七十六條)金屬管工事又ハ電纜工事ニ依リニ限ル
且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第六十七條)
前項ノ屋外工事が看板燈其ノ他家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トスルモノナルトキハ

該電路ノ電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絕緣抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメザルコトヲ要ス但シ白熱電燈ノミニ電氣ヲ供給スル回路ニ在リテハ電球承口一箇ニ對シ一「メグオー」以上タラシムルコトヲ要ス

第百三條 「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ハ左ノ各號ニ依リ且人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第六十八條)

- 一 管燈回路ニ使用スル變壓器ハ二次無負荷電壓一萬五千「ヴォルト」以下ニシテ二次短絡電流五十「ミリアンペア」以下ノモノナルコト
- 二 管燈回路ニ使用スル電線ニハ管極間ノ短小ナル接續線ヲ除クノ外特殊ノ絕緣耐力ヲ

有スル一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用スルコト

- 第百四條 電壓百五十「ヴォルト」以下ノ屋外照明用架空電線路ハ第三十二條、第四十九條、第五十一條及左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第六十九條)スルコトヲ要ス
- 一 他ノ配電線路又ハ引込線ヲ分岐セザルコト
- 二 他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路トノ交叉數ヲ最小ナラシムルコト
- 三 市街地ノ道路上ニ施設スル場合ハ幅員二十米ヲ超過スル道路ニ施設セザルコト但シ道路ノ中央ニ電燈列ヲ架設スル場合ハ幅員十米ヲ超過スル道路ニ施設セザルコト
- 四 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル

電氣工作物規程 本則 電氣使用場所ニ於ケル工事

コト但シ電線ヲ金屬線ニテ吊架スル場合又ハ道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラザル場所ニ三十米以下ノ徑間ヲ以テ施設スル場合ハ二耗ノ硬銅線ヲ使用スルコトヲ得

五 電線ニハ左ニ掲グル絶緣電線ヲ使用スルコト

(イ) 金屬線ニテ吊架シタル電線 第四種絶緣電線

(ロ) 道路上ニ於テ地表上五米未満ノ高さニ施設シタル架空電線 第三種絶緣電線

(ハ) (イ)及(ロ)以外ノ場合 第一種絶緣電線

六 電線地表上ノ高さハ五米以上ト爲スコト但シ道路ノ一側又ハ兩側ニ於テ道路ヲ横斷セズ且交通ニ支障ナキ様施設シタルモノ及道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラザル場所ニ

施設シタルモノニ限り三米以上ト爲スコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二百五條 弧光電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ同一支持物ニ竝行シテ架設スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ボス虞ナキ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二百六條 屋内ニ供給スル電壓ハ特殊ノ工事方法(細第七十條)ニ依ル場合又ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外直流ニ在リテハ五百「ヴォルト」、交流ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」以下トス但シ乾燥シタル場所ニ限り此ノ制限以上ノ低壓ニ依リ供給スルコトヲ得

第二節 屋内工事

已ムヲ得ザルモノ(細第七十二條)ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二百九條 低壓屋内配線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ特殊ノ場合(細第七十三條)ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百十條 屋内ニ施設スル低壓用電線及鉛被電線ハ第四種絶緣電線ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

屋内ニ於テ他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニ施設スル電線ニハ鍍裝電線ヲ使用スル場合ヲ除クノ外適當ナル防護裝置ヲ施スコトヲ要ス

第三百十一條 屋内ニ施設スル電線ノ被覆ニ用フル金屬體及鉛被電線ノ鉛被ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

白熱電燈及家庭用電氣器具 電氣扇、電熱器、他之ニ類スル屋内電氣機械ニ供給スル電路ニ器具ヲ謂フ以下之ニ同ジニ供給スル電路ニ在リテハ電線ノ大地ニ對スル電壓ハ特殊ノ場合(細第七十一條)ヲ除クノ外百五十「ヴォルト」以下ト爲スコトヲ要ス

「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ヲ第三百三條ノ規定ニ準ジ施設スル場合又ハ特殊ノ事由ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三百七條 屋内配線 電球線及移動シテ使用スル電線ヲ除ク以下之ニ同ジ

ニハ鍍裝電線、鉛被電線又ハ金屬管、金屬線

種若ハ木製線種内ニ藏メタル電線ヲ使用スル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ碍子ヲ用ヒ人ノ容易ニ觸レザル様施設スルコトヲ要ス

第三百八條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ技術上

電氣工作物規程 本則 電氣使用場所ニ於ケル工事

第一百十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ引込口ニ近キ場所ニ開閉器及自動遮斷器ヲ各極ニ裝置スルコトヲ要ス

前項ノ開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル様施設スルコトヲ要ス

第一百十三條 屋内ニ施設スル低壓電線ハ左ノ各號ニ依リ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アルモノハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 白熱電燈用電線ハ一「キロワット」以下毎ニ分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過セザル場合ニ限り此ノ制限ヲ三「キロワット」ト爲スコトヲ得

二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル電線ハ三「キロワット」以下毎ニ分岐ス

ルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過スル場合ハ白熱電燈ノ總「ワット」數ヲ一「キロワット」以下ト爲スコト

三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ三「キロワット」以下毎ニ分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數三箇ヲ超過セザル場合ニ限り此ノ制限ヲ五「キロワット」ト爲スコトヲ得

四 一箇ノ容量五「キロワット」ヲ超過スル家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ各機械器具毎ニ分岐スルコト前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ分岐回路ノ總「ワット」數ガ前項第一號乃至第三號ノ制限ヲ超過セザルトキハ之等各回路ニ共同ノ開閉器及自動遮斷器ヲ使用スルコトヲ得

ルコトヲ要ス

第一百十四條 屋内ニ施設スル低壓用ノ開閉器及自動遮斷器ハ前二條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外一「キロワット」以下ノ低壓二線式屋内電路ニ使用スルモノニ限り單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第一百十五條 低壓屋内配線ハ其ノ施設場所ニ從ヒ左ニ掲グル工事ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 展開シタル場所
(イ) 碍子引露出工事 以下單ニ露出
(ロ) 木製線樋工事及金屬線樋工事 乾燥シタル場所ニ

限
(ハ) 金屬管工事及電纜工事
二 點檢シ得ル遮蔽場所(細第七十六條)

(イ) 碍子引隱蔽工事 以下單ニ隱蔽
工事ト稱ス

電氣工作物規程 本期 電氣使用場所ニ於ケル工事

(ロ) 木製線樋工事及金屬線樋工事 乾燥シタル戸欄又ハ押入内ニ限ル

(ハ) 金屬管工事及電纜工事
三 點檢シ能ハザル遮蔽場所(細第七十六條)

(イ) 隱蔽工事 乾燥シタル場所ニ限ル
(ロ) 金屬管工事及電纜工事

金屬管工事又ハ電纜工事ヲ施スベキ場合ニ於テ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ限り工事上已ムヲ得ザルトキハ鉛被電線ヲ使用シテ施設スルコトヲ得

第一百十六條 屋内ニ於テ低壓電線ガ造管材ヲ貫通スル部分ニ於テハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス但シ乾燥シタル場所ニ限り工事上已ムヲ得ザルトキハ「ゴム」管又ハ「ゴムテープ」ヲ以テ碍管ニ

代用スルコトヲ得(細第七十七條)

第百十七條 露出工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左

ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ第二種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ人ノ觸ル虞アル場所ニ施設スル電線ニハ第三種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト
- 二 電線相互間ハ三種以上ヲ離隔スルコト
- 三 電線ト造管材トハ六耗以上ヲ離隔スルコト

第百十八條 隠蔽工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左

ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ第二種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ點檢シ能ハザル掩蔽場所(細第七十六條)ニ

施設スル電線ニハ第三種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト

- 二 工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電線ヲ造管材ノ側面又ハ下面ニ取付クルコト
- 三 造管材ノ面ニ沿ヒテ電線ヲ取付クルトキハ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト
- 四 電線相互間ノ距離及電線ト造管材トノ距離ハ左記ニ依ルコト

- (イ) 第二種絶縁電線ヲ造管材ノ側面又ハ下面ニ取付クルトキ 十二種以上
- (ロ) 第二種絶縁電線ヲ造管材ノ上部ニ取付クルトキ 十種以上

(ハ) 第三種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スル電線ヲ使用スルコト

第百十九條 木製線樋工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス(細第七十八條)

- 一 電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコト
- 二 電線相互間ハ十二耗以上、電線ト線樋ヲ取付クル造管材トハ六耗以上及電線ト線樋ヲ取付クル木「ネジ」トハ六耗以上ノ距離ヲ離隔スルコト
- 三 線樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

第百二十條 金屬管工事(細第七十九條)及金屬線樋工事(細第八十條)ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコト

二 電線ニハ燃線ヲ使用スルコト但シ短小ナル管若ハ樋内ニ藏ムルモノ又ハ二耗以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 管又ハ樋ノ接續ハ電氣的完全ナラシムルコト

四 管又ハ樋ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ樋ニシテ乾燥シタル場所ニ施設シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五 管又ハ樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

第百二十一條 同一ノ屋内ニ施設スル二箇以上ノ低壓屋内配線ガ之ニ供給スル事業者ヲ異ニスルトキハ各回路ニ屬スル電線相互間ノ距離ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

- 一 各回路ノ電線ガ隠蔽工事ニ依ル場合 離隔距離 一・二米以上

- 二 各回路ノ電線(隔壁アルトキ十五種以上ガ露出工事ニハ隔壁ヲキトキ三十種以上依ル場合)
 - 三 隠蔽工事ニ依ル電線ト露出 十五種以上工事ニ依ル電線トノ場合
 - 四 碍子引工事ニ依ル電線ト線 十五種以上通工事、金屬管工事又ハ電 纜工事ニ依ル電線トノ場合
- 前項第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テ碍子引工事ニ依リ施設シタル一方ノ回路ノ電線ヲ充分ナル長サノ碍管ニ藏ムルトキハ工事ト已ムヲ得ザル場合ニ限リ前項ノ距離以內ニ於テ交又スルコトヲ得
- 第二百二十二條 屋內ニ施設スル低壓電線ト弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體トハ十五種以上ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス但シ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬管工事若ハ金屬線通工事又ハ鍍裝電纜ヲ用フル電纜工

事ニ依リ施設スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項但書ノ場合ニ於テハ金屬管、金屬線通又ハ電纜ハ弱電流電線又ハ瓦斯管ニ直接接觸セザル様施設スルコトヲ要ス

碍子引工事ニ依ル電線ガ弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ト工事ト已ムヲ得ズ十五種以內ニ於テ交又シ又ハ接近スルトキハ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絕緣性ノ隔壁ヲ設ケ又ハ電線ヲ充分ナル長サノ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス

第二百二十三條 電球線又ハ移動シテ使用スル低壓電線 移動シテ使用スル家庭用電氣器具ニ附屬スル電線ノ類ヲ謂フ以下之ニ同ジ

ニハ其ノ施設場所又ハ使用方法ニ從ヒ特ニ掲グル電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

一 乾燥シタル場所ニ施設スル場合

(イ) 電球線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用スル

コト但シ長サ床面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第一種可撓紐線、長サ床上二米以下ニ達セザルモノ又ハ電球ヲ移動セザル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絕緣軟銅撓線ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第二種可撓

紐線ヲ使用スルコト但シ輕小ナル家庭用電氣器具ニ取付クル場合ニ限リ第四種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ得

二 濕氣アル場所(細第八十三條)ニ施設スル

(イ) 場合

電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ床面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ床上二米以下ニ達セザル

モノ又ハ電球ヲ移動セザル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絕緣軟銅線ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト

第二百二十四條 電球線及移動シテ使用スル低壓電線ノ接續ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十一條)

第二百二十五條 濕氣アル場所(細第八十三條)魚

八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間ニ施設スル低壓電又ハ洗場ノ如キ場所ヲ除クニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スル事ヲ要ス

一 碍子引工事ニ依ルトキハ第四種絕緣電線ヲ使用シ電線相互間六種以上、電線ト造管材トノ間三種以上ヲ離隔スルコト

二 開閉器、自動遮斷器、電球承口、紐線接續器其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ

施スコト

第二百二十六條 塵埃アル場所(細第八十四條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危険ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第八十五條)スルコトヲ要ス

一 配線ハ碍子引工事、金屬管工事又ハ電纜工事ニ依ルコト

二 碍子引工事ニ依ルトキハ第三種絶緣電線ヲ使用シ電線相互間六糎以上、電線ト造管材トノ間三糎以上ヲ離隔スルコト

三 開閉器、自動遮斷器、紐線吊其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防塵裝置ヲ施スコト

四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト

第二百二十七條 腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所(細第八十六條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル様適當ノ塗料ヲ施シ又ハ他ノ適當ナル豫防方法ヲ施スコト

トヲ要ス

絶緣物ヲ害スル瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於テ低壓裸電線ヲ使用スルトキハ展開シタル場所ニ於テ操業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルコトヲ要ス

第二百二十八條 爆發又ハ燃燒シ易キ危険ノ物質ヲ發生、製造又ハ貯藏スル場所(細第八十七條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危険ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第八十八條)スルコトヲ要ス

一 配線ハ金屬線種工事、金屬管工事又ハ鐵裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スルコト

二 移動シテ使用スル電線ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強靱ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト同等以上ノ效力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコト

三 自動遮斷器、開閉器、點滅器、紐線接續器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ之ヲ場内ニ施設セザルコト

但シ堅牢ナル氣密函又ハ油中ニ藏ムル如キ方法ニ依リ保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト

第二百二十九條 火藥ヲ製造スル建物内ニ施設スル電氣工作物ハ選信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第三百十條 興行場、劇場、映畫館其ノ他之ニ類之ニ施設スル低壓電氣工作物ハ危険ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十九條)

第三百十一條 屋内ニ使用スル家庭用電氣器具ハ適當ノ構造ノモノトシ且危険ノ虞ナキ様適

當ニ施設スルコトヲ要ス(細第九十條)

第二百三十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ノ絶緣抵抗ハ第一百十三條ノ分岐回路ニ付左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス

一 白熱電燈ノミニ供給スル場合

電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶緣抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ電球承口一箇ニ付二「メガオーム」以上ナルコト

二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル場合

(イ) 電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶緣抵抗ハ電氣器具ヲ除キタルトキ電球及附屬物ヲ含ミ電球及電氣器具承口一箇ニ付二「メガオーム」以上ナルコト

(ロ) 電線ニ電氣器具ヨリ絶緣セズシテ使用

スルモノヲモ接続シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ電球及電氣器具承口一箇ニ付一「メガオーム」以上ナルコト

三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具ノミニ供給スル場合

(イ) 絶縁抵抗ハ電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ機械器具ヲ除キタルトキ最大供給電流ノ二萬分ノ一ヲ超過セシメザルコト

(ロ) 電線ニ家庭用電氣器具ク大地ヨリ絶縁セズシテ使用スルモノヲ除ク其ノ他ノ屋内電氣機械器具ヲ接続シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ

過シシメザルコト
瞬間温水器ノ如ク大地ヨリ絶縁セズシテ使用スルモノヲ除ク其ノ他ノ屋内電氣機械器具ヲ接続シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ

使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメザルコト

興行場ノ舞臺、奈落、音樂室及映寫室ニ施設シタル低電線ノ絶縁抵抗ハ前項各號ノ數値ノ二倍以上ナルコトヲ要ス

前二項ノ絶縁抵抗ハ興行場ニ於テハ毎年二回以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ毎年一回以上試驗シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス但シ興行場、病院又ハ濕氣若ハ塵埃ノ充チ易キ箇所ヲ除クノ外線間ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類スル場所ノ工事

第三百三十三條 鐵道又ハ軌道ノ専用隧道内ノ電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 低電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線ヲ除クノ外電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上ニ二米以上ノ高サニ保持スルコト

線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上ニ二米以上ノ高サニ保持スルコト

(イ) 高電線ハ左記イ又ハロニ依ルコト
一 絶縁電線ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル装置ヲ施ストキハ鉛被電線ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 四耗ノ第三種絶縁硬銅線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上ニ三米以上ノ高サニ保持スルコト

特殊ノ事由アル場合ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三百三十四條 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ低電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 金屬管工事又ハ電纜工事ニ依リ施設スル

場合ヲ除クノ外電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スルモノヲ使用シ碍子引工事ニ依リ路面上ニ一・五米以上ノ高サニ施設スルコト

二 電線ニハ隧道引込口ニ於テ開閉器ヲ裝置スルコト

第三百三十五條 鐵山其ノ他ノ坑道内ノ電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 低電線ニハ電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外一・六耗ノ第四種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ碍子ヲ以テ之ヲ支持シ且岩石又ハ木材ト接觸セザル様施設スルコト但シ電車ノ専用坑道内ニ施設シ軌條面上ノ高サヲ二・五米以上ニ保持スル饋電線ニハ第二種絶縁電線、大地ニ對スル電壓五十五「ヴォルト」以下ノ

電線ニハ第三種絕緣電線ヲ使用スルコトヲ得

二 低壓電線ヲ他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニ施設スルトキハ鍍裝電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外之ニ適當ナル防護裝置ヲ施スコト

三 高壓電線ニハ鍍裝電纜ヲ使用スルコト

四 坑道ノ引込口ニ近キ場所ニ於テ開閉器ヲ設置スルコト

特殊ノ事由アル場合ハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
特別高壓電線ヲ施設セントスル場合ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第三百三十六條 石炭坑ニ於テ爆發ヲ生ズル程度ニ瓦斯又ハ炭塵ノ發生スル虞アル場所ノ電氣工作物ハ第二百二十八條第一號ノ規定ニ準ジ危

ト同等以上ノ效力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコト

第三百三十九條 電線ト弱電流電線、水管其ノ他ノ金屬體トガ接近シ又ハ並行スル場合ハ左ノ距離ヲ保持シテ施設スルコトヲ要ス

一 低壓電線ニ在リテハ十五種以上但シ電線ヲ充分ナル長さノ導管内ニ藏ムル場合、電線ヲ厚サ一耗以上ノ金屬管ヲ用フル金屬管工事ニ依リ施設スル場合又ハ鍍裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 高壓電線ニ在リテハ鍍裝電纜ヲ用フル場合ハ三十種以上、其ノ他ノ場合ハ六十種以上

第四百四十條 電線路ハ左ノ絕緣抵抗又ハ絕緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス
一 低壓電線路ノ絕緣部分ト大地トノ間ノ絶

險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス

第三百三十七條 金屬管工事ニ用フル金屬管及電纜ノ被覆ニ用フル金屬體ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第三百三十八條 電球線又ハ移動シテ使用スル低壓電線ニハ左ニ掲グルモノヲ使用ハルコトヲ要ス

一 電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ路面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ路面上ニ二米以下ニ達セザルモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絕緣軟銅撚線ヲ使用スルコトヲ得

二 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ著シク外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強靱ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之

緣抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト

二 高壓電線路ト大地トノ間ノ絕緣耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ多心電纜ノ場合ニ在リテハ其ノ心線相互間ノ絕緣耐力ヲモ試驗スルモノトス

第四節 臨時工事

第四百四十一條 第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ニ依リ施設シタル電氣工作物ハ施設後一月ヲ限り使用スルコトヲ得但シ第四百四十三條ノ規定ニ依ル工事ニシテ第二種絕緣電線ヲ使用スベキ場合ニ第三種絕緣電線、第三種絕緣電線ヲ使用スベキ場合ニ第四種絕緣電線ヲ使用スルトキハ施設後四月ヲ限り使用スルコ

トヲ得

短時日ヲ限り使用スル目的ヲ以テ臨時ニ施設スル電氣工作物ニ關シテハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ本令ニ規定スル施設制限ヲ輕減スルコトヲ得

第四百二十二條 屋内ノ乾燥シタル展開場所ニ臨時施設スル使用電壓二百五十「ヴォルト」以下ノ電線ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ離隔セズシテ之ヲ施設スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ電線ニハ第三種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スル電線ヲ使用シ特ニ電線ヲ損傷スル虞ナク且電球ト造花、飾幕其ノ他燃焼シ易キ物ニ接觸セザル様施設スルコトヲ要ス

第四百十三條 使用電壓百五十「ヴォルト」以下ノ電線ヲ軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ臨時施設スル場合ニ於テハ左記各號ニ依ルコトヲ要ス

一 電線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ碍子引工事ニ依リ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコト

電線ノ種類 電線相互 電線ト造管材トノ距離

(イ) 第二種絕緣 六耗以上 三耗以上

(ロ) 第三種絕緣 三耗以上 六耗以上

第四種絕緣電線ヲ露ニ曝露セズ且外物ノ爲損傷スル虞ナキ様適當ニ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ離隔セズシテ施設スルコトヲ得

二 工地上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電線ヲ造管材ノ側面又ハ下面ニ取付ケ且支持點

間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト但シ二耗ノ硬鋼線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ且電線ト造管材トガ接觸ノ虞ナキ様充分離隔スル場合ニ限り電線支持點間ノ距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ得

三 閉閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ屋内ニ裝置シ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

四 家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トシテ施設スル電路ハ工地上已ムヲ得ザルモノヲ除クノ外一「キロワット」以下毎ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路毎ニ各種ニ閉閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコト
五 前號ノ閉閉器及自動遮斷器ハ專用ノモノトシ屋内電路用ノモノト兼用セザルコト
六 電球承口其ノ他ノ承口ニハ陶器又ハ絕緣性耐火質物ヲ以テ製作シタル防水型ノモノ

ヲ使用スルコト

第四百十四條 樹木、裝飾塔、線門其ノ他之ニ類スルモノニ使用電壓百五十「ヴォルト」以下ノ電線ヲ臨時施設スル場合ニ於テハ第四種絕緣電線ヲ使用シ電線相互間及電線ト之ヲ取付ケタルモノトノ間ヲ離隔セズシテ施設スルコトヲ得但シ樹木ノ如キ動搖ノ爲電線ヲ損傷スル虞アルモノニ取付ケル場合ニ於テハ其ノ損傷ヲ防止スル爲適當ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ電線ノ絕緣抵抗ハ第二百二條第二項ノ規定ニ適合セシムルコトヲ要ス

第四百十五條 臨時工事ヲ施設シタルトキハ其ノ使用開始前ニ電線ノ絕緣抵抗ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス
前項ノ記録書類ノ保存期間ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一年間トス

第四章 電氣鐵道

第一節 通則

第四百四十六條 電車線ニ使用スル電壓ハ直流低壓トス但シ専用敷地内ニ施設スル電氣鐵道ノ電車線ニ限り直流高壓ヲ使用スルコトヲ得
特殊ノ設計ニ依ル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四百四十七條 直流單線式電氣鐵道用架空電線路ガ架空弱電流電線路 單線式電話ト並行スル場合ニ於テハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線相互間ノ距離ヲ四米以上離隔スルコトヲ要ス但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ距離ヲ六十種迄ニ短縮スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路 單線式電話ニ對シ障害ヲ及ボス虞アリ線路ヲ除ク

ルトキハ更ニ之ヲ除却スベキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第九十一條)
第四百四十八條 電氣鐵道用直流電線路及歸線ハ磁力觀測所ニ對シ觀測上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

第二節 電車線路及第三軌條

第四百四十九條 道路ニ施設スル電車線ハ市街地ニ在リテハ一軒以下毎、市街地外ニ在リテハ適當ノ長サニ之ヲ區劃シ且各區劃部分ニ對スル送電ヲ獨立ニ遮斷シ得ル施設ヲ爲スコトヲ要ス但シ市街地ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四百五十條 電車線ニハ高壓ニ在リテハ十耗、低壓ニ在リテハ八耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコト

ヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四百五十一條 電車線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス但シ電氣鐵道ノ専用敷地内ニ建設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四百五十二條 道路ニ施設スル電車線支持物ノ徑間ハ四十米以下トス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此ノ制限ヲ六十米迄ニ延長スルコトヲ得

特殊ノ事由アル場合ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四百五十三條 高壓電車線ハ「カテナリー」式ニ依リテ架設シ其ノ垂吊子ノ離隔ヲ四・五米以下ニ保持スルコトヲ要ス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四百五十四條 電車線ノ軌條面上ノ高サハ五米以上トス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ工事上已ムヲ得

ザル場合ニ限り三・五米迄ニ短縮スルコトヲ得
鑛山ノ坑道内ニ施設スル電車線ノ軌條面上ノ高サハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限り前項ノ規定ニ依ラズ二・五米迄ニ短縮スルコトヲ得

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四百五十五條 電車線及之ニ接続スル吊架用線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル部分ニ於テハ相互ノ電氣的接觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲電氣鐵道事業者ニ於テ適當ノ施設(細第九十三條)ヲ爲スコトヲ要ス
第四百五十六條 饋電線ヨリ分岐シテ電車線ニ連

スル電線ハ之ヲ吊架スル金屬線ヨリ碍子ヲ以テ絶緣シ且金屬線ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス
 電車線ノ張線ハ電車線間及電車線ヨリ六十糎以内ニ在ル部分ヲ除クノ外第三種地線工事ニ依リ之ヲ接地スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合(細第九十四條)ハ此ノ限ニ在ラズ
 市街地ニ於ケル電氣鐵道ノ専用敷地内又ハ市街地外ニ於テ電車線路ニ接近シテ弱電流電線ノ架設シアラザル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルル迄前二項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得
 第二百五十七條 第三軌條ハ地下鐵道、高架鐵道其ノ他人ノ容易ニ立入ラザル専用敷地内ノ鐵道ニ限リ之ヲ施設スルコトヲ得
 特殊ノ設計ニ依ル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
 第二百五十八條 第三軌條ハ人ノ容易ニ接觸セザ

ル様之ヲ防護スルコトヲ要ス
 第二百五十九條 饋電線ト第三軌條トノ接續線及第三軌條相互ヲ接續スル電線「ボンド」ニハ鐵裝電纜又ハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ要ス
 第六十條 電車線路又ハ第三軌條ノ絶緣部分ノ絶緣抵抗ハ其ノ最大使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ軌道ノ延長一杆ニ付電車線ニ在リテハ十「ミリアムペア」、第三軌條ニ在リテハ百「ミリアムペア」ヲ超過セザル様保持スルコトヲ要ス
 前項ノ絶緣抵抗ハ架空複線式電車線ニ在リテハ兩電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ之ヲ測定スルモノトス
 第一項ノ漏洩電流ガ軌道ノ延長一杆ニ付電車線ニ在リテハ二百五十「ミリアムペア」、第三軌條ニ在リテハ一「アムペア」ヲ超過シ二十四

時間ヲ過グルモ之ヲ除去スルコト能ハザルトキハ送電ヲ繼續スルコトヲ得ズ
 絶緣抵抗ハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外毎日送電前之ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第三節 歸 線

第六十一條 歸線 架空單線式若ハ第三軌條式電氣鐵道ノ軌條又ハ其ノ軌條ニ接續スル電線ヲハ軌條間及軌條ノ外側三十糎以下之ニ同ジ
 十糎以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外總テ之ヲ大地ヨリ絶緣スルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
 第六十二條 架空絶緣歸線ハ架空饋電線路ニ準シ施設スルコトヲ要ス
 第六十三條 歸線タル軌條ハ熔接繼目板ノ熔

ニ依ル場合ヲ除クノ外適當ナル「ボンド」ヲ以テ電氣的接續ヲ爲スコトヲ要ス
 特殊ノ事由アル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得
 第六十四條 直流式電氣鐵道ノ歸線ノ不絶緣部分ト金屬製地中管路トガ接近シ又ハ交叉スル場合ニ於テハ相互間ノ距離ヲ二米以上ト爲スコトヲ要ス但シ工地上已ムヲ得ズ特殊ノ施設(細第九十五條)ニ依ル場合又ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 歸線及金屬製管路ヲ同一鐵橋ニ敷設スル場合ハ歸線ト橋材トノ間ノ漏洩抵抗ヲ充分大ナラシムル様適當ニ施設スルコトヲ要ス
 第六十五條 直流式電氣鐵道ノ歸線ノ不絶緣部分ト金屬製地中管路ガ一杆以内ニ接近スルトキハ第六十六條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外障害ヲ防止スル爲當該區間ノ歸線ハ左ノ

- 各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
- 一 歸線ハ隔日ニ其ノ極性ヲ轉換シ又ハ常ニ負極性ト爲スコト
 - 二 軌條ノ繼目ノ抵抗ノ和ハ當該區間ノ軌條ノミノ抵抗ノ二割ヲ超過セシメズ且一ノ繼目ノ抵抗ハ當該軌條ノ長サ五米ノ抵抗ニ相當スル値ヲ超過セシメザルコト
 - 三 「ボンド」ヲ以テ電氣的接觸ヲ爲ス軌條ニ在リテハ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設シ軌條ノ繼目ニ箇以下毎ニ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル接觸線ヲ以テ之ヲ軌條ト接觸スルコト但シ軌條ノ接觸ガ大部分熔接ニ依リ其ノ他ノ部分ニ獨立シタル「ボンド」ニ箇以上ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 四 歸線ノ不絕緣部分ニ其ノ一年間ノ平均電流通ズルトキ生ズル電位ノ差ハ當該區間内

- ノ軌レノ二點間ニ於テモ二「ヴォルト」ヲ超過セシメザルコト(細第九十六條)
- 五 歸線ノ不絕緣部分ニ生ズル最大電位差ヲ自動的ニ記録スル装置ヲ施スコト
- 前項ノ當該區間トハ一變電所ノ饋電區域内ニ於テ當該地中管路ヨリ一杆以內ニ在ル一ノ連續シタル歸線ノ部分ヲ謂フ但シ歸線ト地中管路トガ百米以內ニ於テ二回以上接近スルトキハ其ノ接近部分ノ中間ニ於テ離隔距離ガ一杆ヲ超過スルコトアルモ其ノ全部ヲ一區間トス地中管路ノ種類ニ依リ逕信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ地中管路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ第一項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得
- 第一項第二號ノ抵抗ハ毎年一回以上之ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス
- 第一項各號ノ施設ハ金屬製地中管路ガ電氣鐵道敷設後ニ接近スル場合ト雖モ電氣鐵道事業

- 者ニ於テ之ヲ爲スベシ
- 第六十六條 專用敷地内ニ歸線ノ不絕緣部分ト土壤トノ間ヲ砂利厚サ三十 枕木等ヲ以テ充分ニ離隔シテ敷設スル直立式電氣鐵道ノ軌道ト金屬製地中管路トガ一杆以內ニ接近スルトキハ障害ヲ防止スル爲當該區間ノ歸線ハ前條第一項第一號、第二號、第五號及左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
- 一 軌條ノ接觸ハ熔接繼目板ノ熔接又ハ特殊ノ方法(細第九十七條)ニ依リ之ヲ爲スコト但シ軌條ノ繼目五箇以下毎ニ一回ノ割合ヲ以テ兩軌條ヲ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スルモノヲ以テ接觸スルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 二 歸線ノ不絕緣部分ニ其ノ一年間ノ平均電

- 流通ズルトキ生ズル電位ノ差ハ軌道ノ長一杆ニ付二・五「ヴォルト」ヲ超過セシメズ且當該區間内ノ軌レノ二點間ニ於テモ十五「ヴォルト」ヲ超過セシメザルコト(細第九十六條)
- 前項ニ於テ當該區間トハ一變電所ノ饋電區域内ニ於テ當該地中管路ヨリ二杆以內ノ距離ニ在ル一ノ連續シタル歸線ノ部分ヲ謂フ
- 第一項ノ場合ニ於テハ前條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス
- 第一項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス
- 第六十七條 歸線ハ其ノ不絕緣部分及之ト大地トノ間ニ生ズル最大電位ノ差ニ依リ踏切其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ於テ人畜ニ危險ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル

施設(細第九十八條)ヲ爲スコトヲ要ス
 第六十八條 地中管路管理者ノ承諾アリタル
 トキハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ歸線ト地中管
 路トノ電氣的接続ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ電氣的接続ヲ爲シタルトキ
 ハ三月毎ニ一回以上其ノ接続點ヲ試驗シ其ノ
 成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第四節 電車

第六十九條 電車内ノ電路ト大地トノ間ニ於
 ケル絶縁抵抗ハ漏洩電流ヲシテ低壓ノ場合ハ
 規定電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ規定電
 流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スル
 コトヲ要ス

前項ノ絶縁抵抗ハ毎月一回以上最大使用電壓
 ヲ以テ試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス
 第七十條 車輛内ニ於テ電流ノ通ズル部分ハ
 操業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設ス

第二編 細則

第一章 總則

第一節 機械及器具

第一條 低壓又ハ高壓用ノ器具ヲ取付クル盤ハ
 不可燃質物又ハ耐水性不易燃質ノ塗料ヲ施シ
 タル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シタルモノナル
 コトヲ要ス但シ低壓三十「アムペア」以下ノ需
 用者屋内配電盤ハ此ノ限ニ在ラズ
 特別高壓用ノ器具ヲ取付クル盤ハ絶縁性不可
 燃質物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス
 第二條 配電盤ニ取付クル器具及接続電線(管
 内ニ藏メタル電線及鐵裝電纜ヲ除ク)ハ容易
 ニ點檢シ得ル様施設スルコトヲ要ス但シ低壓
 三十「アムペア」以下ノ需用者屋内配電盤ニシ
 テ造管材ト三層以上ヲ離隔シテ施設シ且其ノ
 裏面ノ接続電線ニ第四種絶縁電線ヲ使用シタ

ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 盤ノ裏面ニ高壓若ハ特別高壓用器具又ハ接続
 電線ヲ施設スルトキハ取扱者ニ危険ヲ及ボサ
 ザル様盤ノ裏面ト對壁トノ間ニ充分ナル通路
 ヲ設クルコトヲ要ス
 特別高壓用ノ器具及接続電線ヲ取付クル盤ノ
 前方ニ取扱者ノ爲適當ナル絶縁臺ヲ設置スル
 コトヲ要ス
 第三條 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他充
 電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃質物ヲ以テ
 絶縁シタルモノナルコトヲ要ス
 第四條 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他之
 ニ類スル器具ニハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示
 スルコトヲ要ス但シ細則第十一條第一號ノ可
 熔片ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五條 本則第九條第一項ノ特殊ノモノトハ
 「ネオン」管燈用變壓器ノ如キモノヲ謂フ

第六條 本則第十一條第一項ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 特別高壓側ニ開閉器及自動遮斷器ヲ設置スルコト

二 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ變壓器ヲ設置シタル場所ニ隣接シテ監視人ヲ常置スル所ヲ設置シ高壓側ノ檢漏器ヲ其ノ内ニ取付クルコト

三 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ高壓側ニ地上ヨリ容易ニ開閉シ得ル油入開閉器ヲ設備スルコト

第七條 本則第十二條第三項ノ適當ニ施設シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 需用者ノ構内ニ設置スル架空線用變壓器ニシテ人ノ接觸ヲ防止スルニ充分ナル藩籬ヲ設クル場合

二 地中線用變壓器ヲ變壓器塔上ニ施設スル

第六條 本則第十一條第一項ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 特別高壓側ニ開閉器及自動遮斷器ヲ設置スルコト

二 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ變壓器ヲ設置シタル場所ニ隣接シテ監視人ヲ常置スル所ヲ設置シ高壓側ノ檢漏器ヲ其ノ内ニ取付クルコト

三 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ高壓側ニ地上ヨリ容易ニ開閉シ得ル油入開閉器ヲ設備スルコト

第七條 本則第十二條第三項ノ適當ニ施設シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 需用者ノ構内ニ設置スル架空線用變壓器ニシテ人ノ接觸ヲ防止スルニ充分ナル藩籬ヲ設クル場合

二 地中線用變壓器ヲ變壓器塔上ニ施設スル

第八條 本則第十三條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電氣爐又ハ之ニ類スルモノニ供給スル爲ニ發電所、變電所、開閉所等ニ於テ所内用トシテ使用スル場合

二 發電所、變電所、開閉所等ニ於テ所内用トシテ使用スル場合

本則第十三條但書ノ適當ニ施設ストハ使用電壓一萬「ヴォルト」以上ノ變壓器ニ在リテハ變壓器内部ノ故障ニ因リ自動的ニ變壓器ヲ電路ヨリ遮斷シ得ル保安裝置ヲ設備スル如キヲ謂フ

第九條 本則第十四條第一項但書ノ適當ノ施設ヲ爲シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 鐵臺又ハ外面ノ周圍ニ作業者ノ絶緣臺ヲ設置シタル場合

二 高壓用柱上變壓器ヲ人ノ觸ルル虞ナキ様設置シタル場合

三 低壓用ノ機械器具ヲ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶緣性ノ物ノ上ヨリ取扱フ様施設シタル場合

第十條 本則第十七條第一項ノ非包裝可熔片ハ左ノ試験（使用場所ニ取付前ノ試験）ニ適合スルモノトス

一 低壓ニ使用スル定格電流二百「アマペア」以下ノ非包裝可熔片ハ之ヲ水平ニ取付ケテ（板狀可熔片ハ板面ヲ水平ト爲スコト）試験シ五分間以上定格電流ノ一・四五倍ノ電流ニ耐ヘ一分間以内ニテ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スルコト

二 高壓ニ使用スル非包裝可熔片ハ二分間以

場合ニシテ變壓器及其ノ高壓側ノ充電部分ヲ地表上三米以上ノ高サニ保持シ且變壓器ノ外面竝ニ電纜及附屬物ヲ蔽メタル金屬體ヲ三種地線工事ニ依リ接地スル場合

第八條 本則第十三條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電氣爐又ハ之ニ類スルモノニ供給スル爲ニ發電所、變電所、開閉所等ニ於テ所内用トシテ使用スル場合

二 發電所、變電所、開閉所等ニ於テ所内用トシテ使用スル場合

本則第十三條但書ノ適當ニ施設ストハ使用電壓一萬「ヴォルト」以上ノ變壓器ニ在リテハ變壓器内部ノ故障ニ因リ自動的ニ變壓器ヲ電路ヨリ遮斷シ得ル保安裝置ヲ設備スル如キヲ謂フ

第九條 本則第十四條第一項但書ノ適當ノ施設ヲ爲シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 鐵臺又ハ外面ノ周圍ニ作業者ノ絶緣臺ヲ設置シタル場合

二 高壓用柱上變壓器ヲ人ノ觸ルル虞ナキ様設置シタル場合

三 低壓用ノ機械器具ヲ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶緣性ノ物ノ上ヨリ取扱フ様施設シタル場合

第十條 本則第十七條第一項ノ非包裝可熔片ハ左ノ試験（使用場所ニ取付前ノ試験）ニ適合スルモノトス

一 低壓ニ使用スル定格電流二百「アマペア」以下ノ非包裝可熔片ハ之ヲ水平ニ取付ケテ（板狀可熔片ハ板面ヲ水平ト爲スコト）試験シ五分間以上定格電流ノ一・四五倍ノ電流ニ耐ヘ一分間以内ニテ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スルコト

二 高壓ニ使用スル非包裝可熔片ハ二分間以

第十一條 本則第十七條第二項ノ特殊ノモノトハ左ノ如キモノヲ謂フ

一 紐線吊内ニ裝置スル定格電流五「アマペア」以下ノ非包裝可熔片

二 硬キ金屬製ニシテ其ノ兩端ヲ端片ニ代用シ得ル板狀可熔片

三 硬キ金屬製ニシテ左記ノ長サ以上ノ非包裝可熔片

定格電流

長サ（端子間）

十「アマペア」未滿 十種

二十「アマペア」未滿 十二種

三十「アマペア」未滿 十五種

第二節 電線、電路及附屬設備

第十二條 第一種絶緣電線ハ電線ヲ良質且強韌ナル捻結絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ

一回緊密ニ編組シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ〇・七五耗以上ノモノトス

第十三條 第二種絶縁電線ハ電線ヲ良質且強靱ナル捻綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ二回緊密ニ編組シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ一・五耗以上ノモノトス

第十四條 第一種及第二種絶縁電線ハ左ノ各號ノ試験ニ適合スルモノトス
 一 供試線ヲ白色艶紙上ニ載セ攝氏六十度ノ空氣中ニ三十分間放置スルモ紙面上ニ油狀ノ斑點ヲ印セザルコト
 二 供試線ヲ攝氏零下十五度ノ生寒劑中ニ三十分間浸漬スルモ混和物ハ其ノ表面ニ皸裂

ヲ生ゼザルコト

三 五耗以下ノ單線ニ在リテハ攝氏十度乃至三十度ノ溫度ニ於テ之ヲ其ノ仕上リ外徑ノ三倍ノ直徑ヲ有スル圓嚙上ニ緊密ニ十回以上纏捲スルモ其ノ編組被覆物ニ異狀ナク混和物ハ粉末狀ヲ呈セズ且離脱セザルコト

第十五條 第三種絶縁電線ハ電線ヲ純「ゴム」ニシテ「パーセント」以上ヲ含有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ〇・五耗以上ノ厚サニ捻綿絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シタル後完全ニ硫化ヲ施シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス但シ導體ガ捻線又ハ三・二耗以上ノ單線ナル場合ニ於テハ「ゴム」混合物ノ上ヲ左表ノ厚サ以上ノ「ゴム」引綿「テープ」ヲ以テ重複纏捲シタル後完全ニ硫化ヲ施シ其ノ上ニ編組ヲ施ス

モノトス

第三種絶縁電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シ直流百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ左表ニ示ス値以上ノ絶縁抵抗ヲ有スルモノトス
 第三種絶縁電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後左表(七四・七五頁表参照)ニ示ス交流電壓ヲ以テ絶縁耐力ヲ試験シ一分間以上ニ耐フルモノトス

第一項ノ「ゴム」混合物ハ左ノ各號ニ依ル化學的及物理的性質ヲ有スルモノトス
 一 「アセトン」ニテ浸出シタルトキ其ノ浸出量十「パーセント」以下ニシテ遊離硫黄一「パーセント」以下ナルコト
 二 供試線ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放

置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十五

第十六條 第四種絶縁電線(六百「ヴォルト」以下ニ使用スルモノ)ハ電線ヲ純「ゴム」三十分「パーセント」以上ヲ含有スル品質均一ナル白黒二層ノ「ゴム」混合物ヲ以テ左表(七六・七頁表参照)ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ左表ノ厚サ以上ノ「ゴム」引綿「テープ」ヲ重複纏捲シタル後完全ニ硫化ヲ施シ更ニ〇・五耗以上ノ厚サニ捻綿絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

第四種絶縁電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シ直流百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ左表ニ示ス値以上ノ絶縁抵抗ヲ有スルモノトス
 第四種絶縁電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シ

第三種絶縁電線 (撚線ノ部)

導 體 公稱切斷 面積 (平方耗)	體 構 造 (耗)	「ゴム」混	「テープ」	絶縁抵抗 15°C メガオーム/軒	試験電 壓 (ヴォ ルト)
		合物ノ厚 サ*(耗)	ノ厚サ (耗)		
1,000	127/3.2	4.0	0.5	160	3,500
850	127/2.9	3.8	〃	〃	〃
725	91/3.2	3.6	〃	〃	〃
600	91/2.9	3.5	〃	〃	〃
500	61/3.2	3.3	〃	〃	〃
400	61/2.9	3.2	〃	〃	〃
325	61/2.6	3.1	〃	〃	〃
250	61/2.3	2.8	〃	〃	3,000
200	37/2.6	2.6	0.35	〃	〃
150	37/2.3	2.4	〃	〃	〃
125	19/2.9	2.2	〃	〃	〃
100	19/2.6	2.1	〃	250	2,500
80	19/2.3	1.9	〃	〃	〃
60	19/2.0	1.8	〃	〃	〃
50	19/1.8	1.7	〃	〃	〃
33	7/2.6	1.5	〃	300	2,000
30	7/2.3	1.5	0.25	〃	〃
22	7/2.0	1.4	〃	〃	〃
14	7/1.6	1.2	〃	〃	〃
8	7/1.2	1.1	〃	400	1,500
5.5	7/1.0	1.1	〃	〃	〃
3.5	7/0.8	1.1	〃	〃	〃
2.0	7/0.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	7/0.5	1.0	〃	〃	〃
0.9	7/0.4	1.0	〃	〃	〃

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十「パーセント」トス

第三種絶縁電線 (單線ノ部)

導 體ノ直 徑 (耗)	「ゴム」混	「テープ」	絶縁抵抗 15°C メガオーム/軒	試験電 壓 (ヴォ ルト)
	合物ノ厚 サ*(耗)*	ノ厚サ (耗)		
12.0	2.0	0.35	250	2500
10.0	1.8	〃	〃	〃
9.0	1.7	〃	〃	〃
8.0	1.6	〃	〃	〃
7.0	1.5	0.25	〃	〃
6.5	1.4	〃	〃	〃
6.0	1.4	〃	300	2000
5.5	1.3	〃	〃	〃
5.0	1.3	〃	〃	〃
4.5	1.2	〃	〃	〃
4.0	1.2	〃	〃	〃
3.5	1.1	〃	400	1500
3.2	1.1	〃	〃	〃
2.9	1.1	〃	〃	〃
2.6	1.1	〃	〃	〃
2.3	1.1	〃	〃	〃
2.0	1.1	〃	〃	〃
1.8	1.1	〃	〃	〃
1.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	1.1	〃	〃	〃
1.2	1.0	〃	〃	〃
1.0	1.0	〃	〃	〃

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十「パーセント」トス

第四種絶緣電線 (熱線ノ部)

導體ノ直徑 (耗)	「ゴム」混 合物ノ厚 サ*(耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶緣抵抗 15°C メガオーム/軒	試験電壓 (ヴォルト)	
					公稱切斷 面積 (平方耗)
1,000	127/3.2	4.0	0.5	400	3500
850	127/2.9	3.8	"	"	"
725	91/3.2	3.6	"	"	"
600	91/2.9	3.5	"	"	"
500	61/3.2	3.3	"	"	"
400	61/2.9	3.2	"	"	"
325	61/2.6	3.1	"	"	"
250	61/2.3	2.8	"	"	3000
200	37/2.6	2.6	0.35	"	"
150	37/2.3	2.4	"	"	"
125	19/2.9	2.2	"	"	"
100	19/2.6	2.1	"	500	2500
80	19/2.3	1.9	"	"	"
60	19/2.0	1.8	"	"	"
50	19/1.8	1.7	"	"	"
38	7/2.6	1.5	"	600	2000
30	7/2.3	1.5	0.25	"	"
22	7/2.0	1.4	"	"	"
14	7/1.6	1.2	"	"	"
8	7/1.2	1.1	"	800	1500
5.5	7/1.0	1.1	"	"	"
3.5	7/0.8	1.1	"	"	"
2.0	7/0.6	1.1	"	"	"
1.4	7/0.5	1.0	"	"	"
0.9	7/0.4	1.0	"	"	"

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サヲ十「パーセント」トス

第四種絶緣電線 (單線ノ部)

導體ノ直徑 (耗)	「ゴム」混 合物ノ厚 サ*(耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶緣抵抗 15°C メガオーム/軒	試験電壓 (ヴォルト)
12.0	2.0	0.35	500	2500
10.0	1.8	"	"	"
9.0	1.7	"	"	"
8.0	1.6	"	"	"
7.0	1.5	0.25	"	"
6.5	1.4	"	"	"
6.0	1.4	"	600	2000
5.5	1.3	"	"	"
5.0	1.3	"	"	"
4.5	1.2	"	"	"
4.0	1.2	"	"	"
3.5	1.1	"	800	1500
3.2	1.1	"	"	"
2.9	1.1	"	"	"
2.6	1.1	"	"	"
2.3	1.1	"	"	"
2.0	1.1	"	"	"
1.8	1.1	"	"	"
1.6	1.1	"	"	"
1.4	1.1	"	"	"
1.2	1.0	"	"	"
1.0	1.0	"	"	"

*「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十「パーセント」トス

ル後左表

ニ示ス交流電壓ヲ以テ絶縁耐カヲ試験シ一分間以上之ニ耐フルモノトス
第一項ノ「ゴム」混合物ハ左ノ各號ニ依ル化學的及物理的性質ヲ有スルモノトス

一 「アセトン」ニテ浸出シタルトキ其ノ浸出量六「パーセント」以下ナルコト
二 「バーセント」以下ナルコト

二 供試験ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十「パーセント」以下ナルコト

第十七條 第一種可撓紐線ハ錫鍍シタル〇・一八耗ノ軟銅線三十五本以上又ハ〇・二三耗ノ軟銅線八十四本以上ヨリ成ル導體ヲ細キ綿絲又ハ紙帶ニテ纏捲シ更ニ純「ゴム」三十「パーセント」以上ヲ含有シ且一・五以上ノ比重ヲ

有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ導體ノ太サニ從ヒ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ紙帶ヲ重複纏捲シ完全ニ硫化ヲ施シ其ノ上ヲ綿絲、「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ緊密ニ編組シタルモノトス

導 體	切斷面積 (平方耗)	混最
		「ゴム」ノ厚サ (耗)
133/0.23	5.5	1.00
84/0.23	3.5	1.00
79/0.18	2.0	0.80
55/0.18	1.4	0.80
35/0.18	0.9	0.65

第一種可撓紐線ハ左ノ各號ノ試験ニ適合スル

モノトス

一 一卷ノ儘浸水セサル状態ニ於テ兩導體間ノ絶縁耐カヲ交流三千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試験シ一分間以上之ニ耐フルコト

二 長サ一米ノ供試験ヲ二十四時間浸水シタル後交流千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試験シ一分間以上之ニ耐フルコト

第十八條 第二種可撓紐線ハ前條ニ規定シタル構造ヲ有スル線心ニ更ニ「ゴム」引綿「テープ」ヲ纏捲シ(此ノ場合ハ「ゴム」被覆上ノ紙帶ヲ省略スルコトヲ得)又ハ綿絲ヲ以テ下打編組ヲ施シタルモノニ條ヲ綿絲其ノ他ノ軟性纖維質物ト共ニ撚合セ四層形ニ仕上ゲ之ニ綿絲、「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ上打編組ヲ施シタルモノニシテ前條第二項ノ絶縁耐カ試験ニ適合スルモノトス
第十九條 第三種甲可撓紐線ハ第一種可撓紐線

(綿絲ノ編組ヲ施シタルモノ)ノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

第二十條 第三種乙可撓紐線ハ第二種可撓紐線(綿絲ノ編組ヲ施シタルモノ)ノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

第二十一條 第四種可撓紐線ハ錫鍍シタル〇・一六耗ノ軟銅線二十本ヨリ成ル導體ヲ細キ綿絲ニテ纏捲シ更ニ純「ゴム」三十「パーセント」以上ヲ含有シ且一・五以上ノ比重ヲ有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ〇・五耗以上ノ厚サニ被覆シ完全ニ硫化ヲ施シタル線心ニ條ヲ撚合セタル後純「ゴム」二十五「パーセント」以上ヲ含有シ且一・五以上ノ比重ヲ有スル「ゴム」混合物ヲ以テ線心ニ條ノ間隙ヲ充分ニ填充シ且〇・五耗以上ノ厚サニ被覆シテ圓

導形ニ仕上ケ完全ニ硫化ヲ施シタル後之ニ補
 絲、「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノモ
 ノヲ以テ緊密ニ上打編組ヲ施シタルモノトス
 第四種可撓紐線ハ外部ノ「ゴム」被覆ト線心及
 線心相互間ヲ容易ニ離別シ得ルモノトス
 第四種可撓紐線ハ細則第十七條第二項ノ絕緣
 耐力試驗ニ適合スルモノトス
 第二十二條 細則第十七條、第十八條及前條ノ
 「ゴム」混合物ハ供試線ヨリ「ゴム」混合物ヲ約
 百耗抽出シ其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之
 ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタ
 ル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二
 十「パーセント」以下ナルモノトス
 第二十三條 本則第二十條ニ依ル絕緣銅線及可
 撓紐線ノ安全電流ハ左表(八一頁表參照)ヲ以
 テ標準トス
 絕緣銅線及可撓紐線安全電流表備考

一 「ゴム」絕緣銅線ヲ碍子引工事ニ用フル
 トキハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ノ二割
 以內ヲ限リ增加スルコトヲ得
 二 第四種絕緣銅線ヲ同一線種又ハ管内ニ
 四本以上施設スル場合ハ其ノ安全電流ハ
 前表ノ數値ヲ適當ニ減少スルコト
 三 特ニ周圍温度高キ場所ニ施設スル電線
 ニ在リテハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ヲ
 適當ニ減少スルコト
 第二十四條 電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ
 各號ニ依ルコトヲ要ス
 一 電線ノ電氣抵抗ヲ增加セシメザルコト
 二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコ
 ト
 三 接續管又ハ特殊ノ方法ニテ接續スル場合
 ヲ除クノ外接續部分ヲ鏝着スルコト
 第二十五條 本則第二十三條ノ檢漏器ハ漏電ノ

單 線			撓 線			
太サ (耗)	安全電流 (アムペア)		公稱切 斷面積 (平方 耗)	撓 線 構 成 (耗)	安全電流 (アムペア)	
	第一種 及第二 種絕緣 銅線	第三種 及第四 種絕緣 銅線			第一種 及第二 種絕緣 銅線	第三種 及第四 種絕緣 銅線
12.0	300	210	1000	127/3.2	1540	960
10.0	230	165	850	127/2.9	1310	840
9.0	200	145				
8.0	170	120	725	91/3.2	1210	770
7.0	140	100	600	91/2.9	1050	670
6.5	130	90				
6.0	115	80	500	61/3.2	900	580
5.5	105	75	400	61/2.9	790	510
5.0	90	65	325	61/2.6	670	440
4.5	80	55	250	61/2.3	570	370
4.0	65	50				
3.5	55	40	200	37/2.6	470	320
3.2	50	35	150	37/2.3	400	270
2.9	45	32				
2.6	40	30	125	19/2.9	340	240
2.3	35	25	100	19/2.6	290	200
2.0	30	20	80	19/2.3	250	170
1.8	25	18	60	19/2.0	210	145
1.6	21	15	50	19/1.8	175	120
1.4	18	12				
1.2	15	10	38	7/2.6	145	100
1.0	12	8	30	7/2.3	120	85
			22	7/2.0	100	75
			14	7/1.6	75	55
			8	7/1.2	50	35
			5.5	7/1.0	40	30
			3.5	7/0.8	30	20
			2.0	7/0.6	22	15
可撓紐線						
太サ (平方 耗)	心線構成 (耗)	安全電流 (アム ペア)				
5.5	133/0.23	30				
3.5	81/0.23	20				
2.0	79/0.18	15				
1.4	55/0.18	12				
0.9	35/0.18	8				

絕緣銅線及可撓紐線安全電流表

程度ヲ常ニ自動的ニ表示スルモノナルコトヲ要ス但シ千「ヴォルト」以下ノ電路ニ於テ一時間ニ六回以上漏電ヲ檢スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

本則第二十三條ノ必要ナル箇所トハ左ノ如キ箇所ヲ謂フ

- 一 發電所又ハ變電所ノ引出用母線
 - 二 本則第十一條ノ特別高壓變壓器設置箇所ノ高壓側電路
 - 三 他ヨリ供給ヲ受クル受電點
- 前項第三號ノ受電點ガ之ニ供給スル發電所、變電所等ニ隣接スルトキ又ハ受電シタル電氣ヲ受電點ニ隣接スル場所ノ變壓器若ハ電動發電機ニ依リ變成スルトキ又ハ受電シタル電氣ヲ受電點ニ隣接スル場所ニ於テ使用スルトキハ該受電點ノ檢漏器ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 第二十六條 本則第二十四條ノ必要ナル箇所ト

ハ左ノ如キ箇所ヲ謂フ

- 一 發電所又ハ變電所、架空電線、引込口、引出口又ハ母線
 - 二 本則第十一條ノ特別高壓變壓器ノ特別高壓側及高壓側但シ一萬「ヴォルト」未滿ノモノニ限リ特別高壓側ノ避雷器ヲ省略スルコトヲ得
 - 三 架空電線ト電纜トノ接續箇所
 - 四 高壓架空電線路ニ依リ供給スル百「キロワット」以上ノ需用場所ノ引込口又ハ母線
 - 五 特別高壓架空電線路ニ依リ供給スル需用場所ノ引込口又ハ母線
 - 六 雷災多キ地方ニ在リテハ前各號以外ノ場所ト雖モ避雷器ヲ必要トスル箇所
- 前項第一號乃至第五號ノ箇所ニ直接接續スル電線若ハ電纜短キ場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ハ避雷器ノ設置ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條 本則第二十六條第一項ノ保安裝置

- 一 架空共同地線ニハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ使用スルコト但シ各變壓器ニ地線工事ヲ施ス場合ハ四耗ノ金屬線ヲ使用スルコトヲ得
- 二 地線工事ハ變壓器ヨリ二百米以内ノ地域ニ於テ二箇所以上ニ施設シ其ノ合成電氣抵抗ハ其ノ「オーム」數ニ其ノ地線ニ接續スル變壓器ノ總容量ノ四割ニ相當スル一次電流ノ「アムペア」數ヲ乘ジタル積ガ百五十以下ナル様保持スルコト但シ此ノ「アムペア」數ハ其ノ地線ニ接續シタル變壓器中最大容量ノモノノ一次側ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流（非包裝可熔片ニ在リテハ其ノ定格電

流ノ二倍）以上タルコト

- 三 低壓配電線ノ一線ヲ架空共同地線ニ兼用スルモノニ在リテハ該架空共同地線ハ一軒ヲ直徑トスル地域外ニ亘ラザルコト
- 本則第二十六條第一項ノ保安裝置ヲ二箇以上ノ變壓器ニ共通ニ使用スル爲地中共同地線ヲ設クルトキハ前項第二號及第三號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス
- 第二十八條 本則第二十六條第二項及第二十七條第二項ノ特殊ノ場合トハ電氣爐又ハ電氣汽罐ノ如ク常ニ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶緣セズシテ使用スル負荷ニ専用ノ變壓器ヲ以テ供給スル如キ場合ヲ謂フ
- 第二十九條 本則第二十七條第一項ノ特殊ノ場合トハ電氣汽罐又ハ直流單線式電氣鐵道用廻轉變流機ノ如ク常ニ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶緣セズシテ使用スル負荷ニ専用ノ變壓器ヲ以

テ供給スル如キ場合ヲ謂フ

第三十條 本則第二十八條第三號ノ大地ヨリ絶縁セザル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 直流單線式電氣鐵道ノ歸線又ハ試驗用變壓器等ノ如ク電路ノ一部ヲ常ニ大地ヨリ絶縁セズシテ使用スル場合

二 溫水器、電氣爐、電氣汽機、電解槽等ノ如ク大地ヨリ絶縁スルコト困難ナルモノヲ危險ノ虞ナキ様施設スル場合

第三十一條 本則第三十條第一項ノ接地線ニハ第一種及第三種地線工事は在リテハ二・六耗以上ノ銅線、第二種地線工事は在リテハ變壓器容量ニ從ヒ左ノ太サヲ有スル銅線、(特別高壓ノ場合ハ燃線)ヲ使用スルコトヲ要ス

變壓器容量 接地線ノ太サ 特別高壓ノ場合 高壓ノ場合 二十「キログオム」未滿 四耗以上 二・六耗以上

二十「キログオム」以上 五耗以上 五耗以上

第一種及第二種地線工事は用フル接地線ヲ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ニ於テハ地板ヲ地下 一・五米以上ノ深サニ埋設シ地板ヨリ地上六十釐ニ至ル部分ニハ第四種絶縁電線ヲ用ヒ竹又ハ木ノ如キ不導體ノ桶ヲ以テ之ヲ覆ヒ接地線ト桶トノ間ニ絶縁性混和物ヲ填充シ且人ノ接觸又ハ他働的損傷ヲ防止スル爲地上 一・五米ノ高サ迄木桶ヲ以テ保護スルコトヲ要ス

前項ノ接地線ヲ人ノ觸ルル虞アル場所ニ於テ鐵柱ノ如キ金屬體ニ沿ヒテ施設スル場合ハ前項ノ規定ニ依ルノ外地板ヲ地中ニ於テ該金屬體ヨリ一米以上離隔シテ埋設シ且接地線全部ニ第四種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ用ヒテ該金屬體ヨリ絶縁スルコトヲ要ス

トヲ要ス

第三種地線工事は依リ接地スベキ金屬體ト大地トノ接觸良好ニシテ其ノ電氣抵抗ガ百「オーム」以下ナルトキハ接地線ヲ省略スルコトヲ得

第二項ノ接地線ヲ施設シタル支持物ニハ避雷用地線ヲ取付クルコトヲ得

第二章 送電線路、配電線路

及饋電線路

第一節 通 則

第三十二條 本則第三十四條第一項、第四十七條第一項、第五十五條第一項、第五十六條第一項、第六十四條第一項、第六十五條及第六十八條第一項ノ氷雪多キ地方トハ左ニ掲グル地方ヲ謂フ

北海道、青森縣、秋田縣、山形縣、岩手縣、宮城縣、福島縣、新潟縣、長野縣、富山縣、

電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

石川縣、福井縣、岐阜縣(北部)、滋賀縣(北部)、京都府(北部)、兵庫縣(北部)、鳥取縣、島根縣及土地高峻ニシテ特ニ寒氣嚴シキ地方並ニ栃木縣、群馬縣、埼玉縣、茨城縣、東京府、神奈川縣、山梨縣等ノ如ク電線ニ氷雪ノ附着シ易キ地方

第三十三條 電線ノ抗張力ハ左記ヲ以テ標準トス

電線ノ種類	抗張力(一平方耗ニ付)
硬 銅 線	三十五耗
鋼心「アルミニウム」線	別表ニ依ル
鋳 銅 線	五十六耗
「アルミニウム」線	十六耗
鐵 線	三十五耗
鋼線(特殊ノモノヲ除ク)	五十六耗
絶縁硬銅線ノ抗張力ハ心線ノ切斷面積一平方耗ニ付三十五耗ヲ以テ標準トス	

鋼心「アルミニウム」撚線抗張力表

公稱切 斷面積 (サーキ ユラーミ ル)	「アルミ ニウム」 切斷面積 (平方耗)	撚線構成 撚線數/索線直徑 (耗)		抗張力 (庇)
		「アルミ ニウム」	鋼 心	
795000	402.3	54/3.08	7/3.08	11260
715000	361.6	54/2.92	7/2.92	10110
666600	337.3	54/2.82	7/2.82	9430
636000	323.1	54/2.76	7/2.76	9030
605000	306.9	54/2.69	7/2.69	8580
556500	282.6	26/3.72	7/2.89	8830
556500	282.1	30/3.46	7/3.46	10810
500000	253.5	30/3.28	7/3.28	9720
477000	241.7	26/3.44	7/2.68	7570
477000	241.3	30/3.20	7/3.20	9250
397500	201.3	26/3.14	7/2.44	6290
397500	202.3	30/2.93	7/2.93	7750
336400	170.6	26/2.89	7/2.25	5340
336400	170.5	30/2.69	7/2.69	6540
300000	152.2	26/2.73	7/2.12	4750
300000	152.0	30/2.54	7/2.54	5830
266800	134.9	6/5.35	7/1.79	4540
266800	134.9	26/2.57	7/2.00	4220
0000	107.7	6/4.78	1/4.78	3410
000	84.72	6/4.24	1/4.24	2680
00	67.69	6/3.79	1/3.79	2140
0	53.52	6/3.37	1/3.37	1690

備考 抗張力ノ計算式次ノ如シ

$$T = 10.As + 15.Aa$$

但シ T ハ抗張力(庇ヲ單位トス)
 As ハ鋼心ノ切斷面積(平方耗"))
 Aa [アルミニウム]ノ切斷面積
 (平方耗"))

第三十四條 鐵柱及鐵塔ノ部材ニ日本標準規格第二十號ニ依ル構造用壓延鋼材ヲ使用スル場合ハ其ノ許容應力ハ左記ヲ以テ標準トス

一 應張力及彎曲應力 有效切斷面積一平方
 應壓力 左記ノ公式ニ依ル

$$P = 1,250 - \frac{1}{r}$$

P ハ全切斷面積ニ對スル應張力
 (一平方耗ニ付庇ヲ單位トス)
 r ハ部材ノ長サ 耗ヲ單位トス)
 r ハ使用斷面ノ最小環動半徑
 (耗ヲ單位トス)

三 應剪力 「ボルト」及「リベット」ニ對シ一
 平方耗ニ付千庇

四 支壓力 「ボルト」及「リベット」ニ對シ一
 平方耗ニ付二千庇

抗張材ニ在リテハ其ノ長サト最小環動半徑トノ比ハ次ノ制限ニ依ルモノトス

最大使用電壓六萬
 シテ電線ノ切斷面積
 硬鋼線ニ在リテハ百
 二十平方耗以上、鋼
 心「アルミニウム」線
 ニ在リテハ百五十平
 方耗以上ノ場合

一 主脚材 百五十以下
 其ノ他 二百以下

二 主脚材 二百以下
 其ノ他 二百五十以
 下

第三十五條 鐵柱及鐵塔ニ用フル鐵材ハ亞鉛鍍
 セルモノ又ハ適當ナル防蝕塗料ヲ施シタルモ
 ノニシテ其ノ厚サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要
 ス

- 最大使用電壓六萬「ヴ
 オルト」以上ニシテ電
 線ノ切斷面積硬銅線ニ
 在リテハ百二十平方耗
 以上、鋼心「アルミニウ
 ム」線ニ在リテハ百五
 十平方耗以上ノ場合
- 一 主脚材 六耗以上
 其ノ他 三耗以上
 ノ部材
- 二 前號以外ノ場合
 主脚材 五耗以上
 其ノ他 三耗以上
 ノ部材

第三十六條 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ
 用アル支線ニハ地中ノ部分及地表上三十釐ニ
 至ル部分ニ亞鉛鍍セル鐵棒ヲ使用シ之ヲ容易
 ニ腐蝕シ難キ根柢ニ堅牢ニ取付クルコトヲ要
 ス

第三十七條 木柱ノ彎曲ニ對スル破壞強度ハ左
 記ヲ以テ標準トス

木材ノ種類 破壞強度(一平方釐ニ付)
 杉 四百釐

檜 五百釐

木柱ノ強度計算ニ於テ杉及檜ノ直徑增加率ハ
 百分ノ一トス

第三十八條 木柱ノ強度ハ左ニ示ス表又ハ公式
 ニ依リ計算スルモノトス

S ハ徑間(米ヲ單位トス)但シ兩側ノ徑間相
 等シカラザル場合ニ於テハ兩徑間ノ各二分
 ノ一ヲ加ヘタルモノトス

e ハ電線又ハ地線等ノ徑(耗ヲ單位トス)但
 シ乙種風壓荷重ノ場合ハ氷雪ノ附着シタル
 値ヲ採ルモノトス

h₁ ハ電線又ハ地線等ノ支持點ノ地表上ノ高
 サ(米ヲ單位トス)

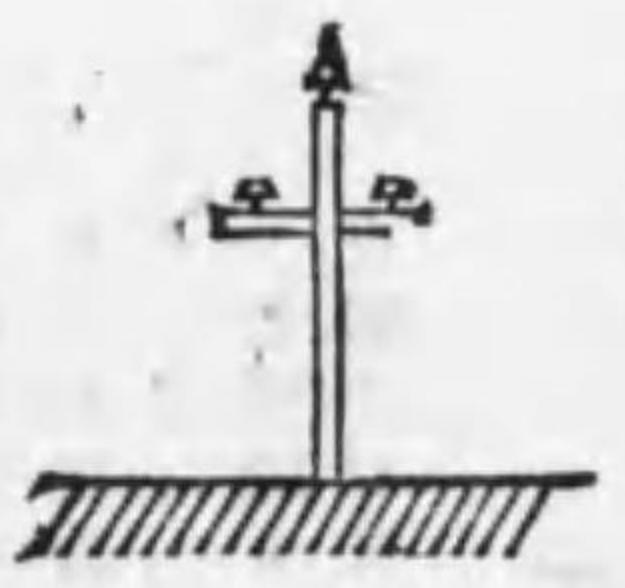
D, D H ハ木柱地表上ノ高さ(米ヲ單位トス)
 ハ木柱ノ末口(靱ヲ單位トス)

D₁ = D + H
 ハ木柱地表面ニ於ケル徑(靱ヲ單位トス)

P ハ木柱材料ノ破壞強度(一平方釐ニ付釐
 ヲ單位トス)(細第三十七條)

F ハ木柱ノ安全係數

K ハ係數



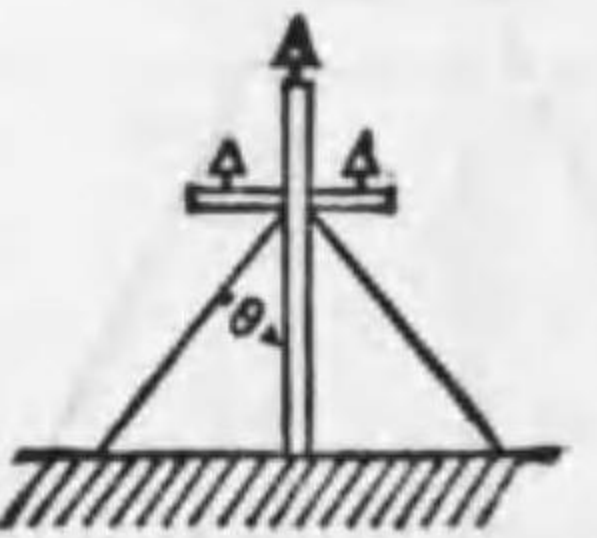
甲種風壓荷重ノ場合 K=1
 乙種又ハ丙種風壓荷重ノ場合 K=0.5
 支線ヲ有セザル單柱

一 表ニ依ル場合ハ第一表
 ヨリ得タル數值ト第二
 表ヨリ得タル數值トノ
 和ガ第三表ヨリ得タル
 數值ヲ超過セザルコト
 公式ニ依ル場合ハ左記
 ニ依ルコト

$$P/1 \equiv K \{ 612 D_1 H^2 - 408 H^2 + 102 S (\Sigma e h_1) \} + D_1^2$$

二 支線ヲ用ヒテ強度ノ一部ヲ分擔セシムル

單柱



一 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數值
 ノ二分ノ一ト第二表ヨ
 リ得タル數值ノ二分ノ
 一トノ和ガ第三表ヨリ
 得タル數值ヲ超過セザ
 ルコト

二 公式ニ依ル場合ハ左記
 ニ依ル

$$P/F \equiv K \{ 306 D_1 H^2 - 204 H^2 + 51 S (\Sigma e h_1) \} + D_1^2$$

本號ノ支線ハ左ノ公式ニ依リ計算スルモ
 ノトス

$$A = 0.01K \{ 0.86S (\Sigma e) + 5.14 D_1 H - 3.43 H^2 \} \operatorname{cosec} \theta$$

$$\theta = 45^\circ \text{ ナルトキ}$$

$$A = 0.01K \{ 1.21S (\Sigma e) + 7.27 D_1 H - 4.85 H^2 \}$$

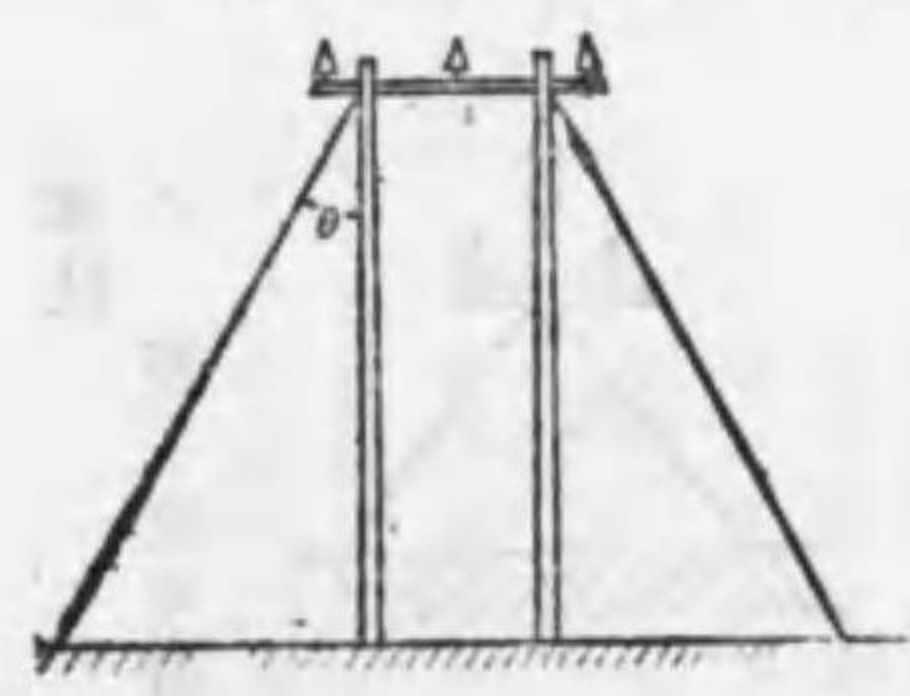
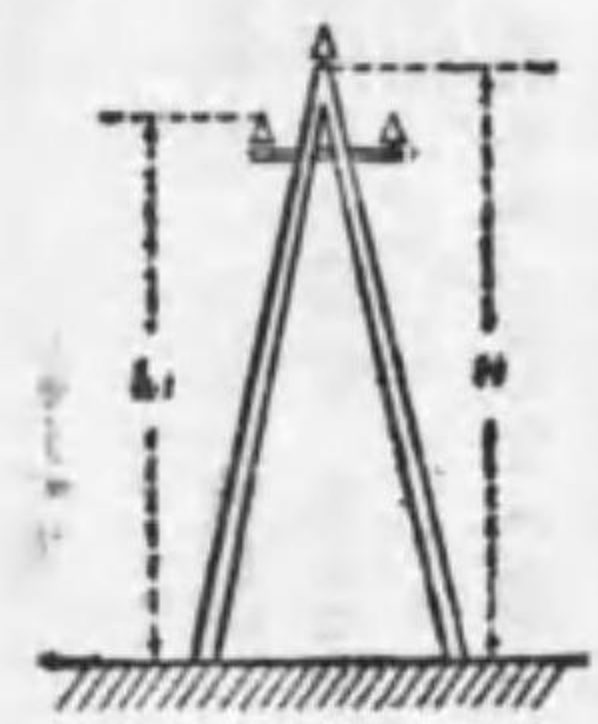
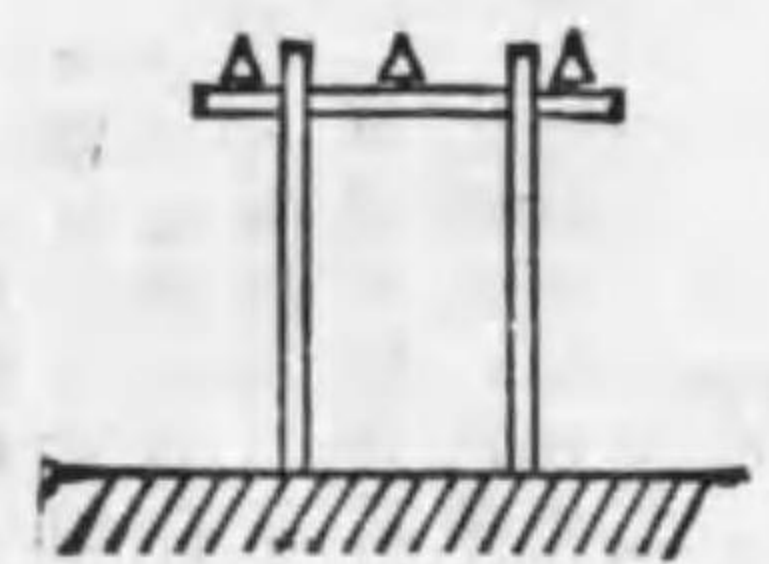
$$n = 0.001K(S(\Sigma e) + 5.80D_1H - 3.85H^2)$$

△ ハ鐵線ヲ用ヒ其ノ安全係數ヲ三トシタル場合ノ支線斷面積(平方耗ヲ單位トス)

○ ハ支線ガ電柱ト爲ス角度

□ 〇 〇 ガ四十五度ニシテ四耗ノ鐵線ヲ支線トシテ用ヒタル場合ノ線條數

三 支線ヲ有セサルH柱及A柱



イ 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數值ト第二表ヨリ得タル數值ノ二分ノ一トノ和ガ第三表ヨリ得タル數值ヲ超過セザルコト

□ 公式ニ依ル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \leq K(612D_1H^2 - 408H^3 + 51S(\Sigma eh_1)) + D_1^3$$

四 支線ヲ用ヒテ強度ノ一部ヲ分擔セシムルH柱及A柱

イ 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數值ノ二分ノ一ト第二表ヨリ得タル數值ノ四分ノ一トノ和ガ第三表ヨリ得タル數值ヲ超過セザルコト

□ 公式ニ依ル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \leq K(306D_1H^2 - 204H^3 + 25.5S(\Sigma eh_1)) + D_1^3$$

本號ノ支線ハ左ノ公式ニ依リ計算スルモノトス

$$A = 0.01K(0.86S(\Sigma e) + 10.28D_1H - 6.85H^2) \operatorname{cosec} \theta$$

$$\theta = 45^\circ \text{ ナルトキ}$$

$$A = 0.01K(1.21S(\Sigma e) + 14.54D_1H - 9.70H^2)$$

$$n = 0.001K(S(\Sigma e) + 11.60D_1H - 7.70H^2)$$

第三十九條 本則第三十六條第二項ノ適當ナル表示トハ左ノ如キモノヲ謂フ

一 高壓架空電線路ニ在リテハ碍子ノ表面ノ見易キ部分幅約二釐又ハ腕木ノ表面ヲ赤色ト爲スモノ

二 特別高壓架空電線路ニ在リテハ建造物、道路(交通頻繁ナラザル道路ヲモ含ム)又ハ

第三表

	安全係數	甲種風壓荷重	乙種風壓荷重	丙種風壓荷重
杉材	4	100	200	200
	5	80	160	—
	6	67	133	—
	7.5	54	108	—
檜材	4	125	250	250
	5	100	200	—
	6	84	168	—
	7.5	67	133	—

第一表

H D.	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5
20	44.1	50.6	57.5	64.5	71.8	-	-	-
21	40.4	46.5	52.9	59.5	66.2	73.2	80.3	-
22	37.2	42.9	48.8	55.0	61.3	67.8	74.5	81.3
23	34.4	39.7	45.2	50.9	56.9	63.0	69.3	75.7
24	31.9	36.8	41.9	47.3	52.9	58.7	64.6	70.6
25	29.6	34.2	39.0	44.1	49.3	54.7	60.3	66.0
26	27.6	31.9	36.4	41.1	46.1	51.2	56.4	61.8
27	25.7	29.8	34.0	38.5	43.1	47.9	52.9	58.0
28	24.1	27.9	31.9	36.1	40.4	45.0	49.7	54.5
29	22.6	26.2	29.9	33.9	38.0	42.3	46.7	51.3
30	21.2	24.6	28.1	31.9	35.8	39.9	44.1	48.4
31	20.0	23.1	25.5	30.0	33.7	37.6	41.6	45.7
32	18.8	21.8	25.0	28.4	31.9	35.5	39.3	43.3
33	17.8	20.6	23.6	26.8	30.2	33.6	37.2	41.0
34	16.8	19.5	22.4	25.4	28.6	31.9	35.3	38.9
35	15.9	18.5	21.2	24.1	27.1	30.3	33.5	36.9
36	15.1	17.5	20.1	22.9	25.7	28.7	31.9	35.1
37	14.4	16.7	19.1	21.7	24.5	27.1	30.3	33.4
38	13.7	15.9	18.2	20.7	23.3	26.1	28.9	31.9
39	13.0	15.1	17.4	19.7	22.2	24.8	27.6	30.4
40	12.4	14.4	16.6	18.8	21.2	23.7	26.3	29.0

(例) $D_0 = 30$ $H = 10$: 對スル數ハ52.9: A

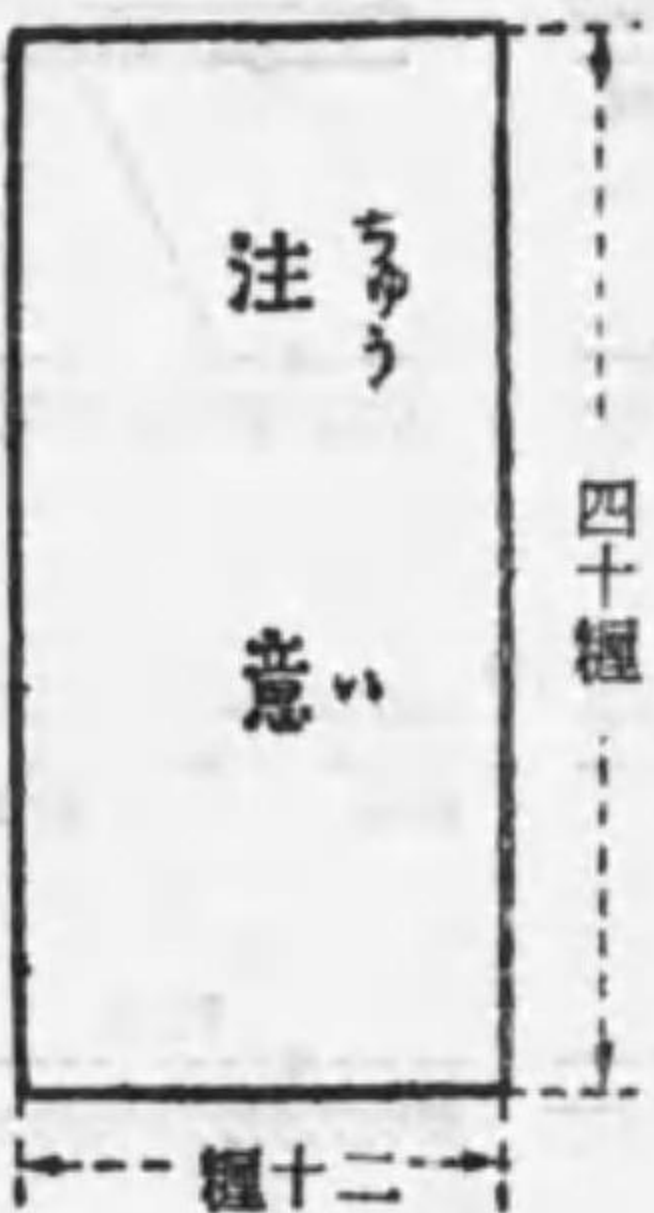
	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	88.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	82.2	88.7	95.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	76.7	83.0	89.3	95.6	102.0	-	-	-	-	-	-
	71.8	77.7	83.7	89.8	95.9	102.0	108.1	-	-	-	-
	67.3	72.9	78.6	84.4	90.3	96.1	102.0	107.9	113.8	-	-
	62.8	68.6	74.0	79.5	85.1	90.7	96.3	102.0	107.7	113.3	118.9
	59.5	64.5	69.7	75.0	80.8	85.7	91.1	96.5	102.0	107.5	112.9
	56.0	60.9	65.8	70.8	75.9	81.0	86.2	91.5	96.7	102.0	107.3
	62.9	67.5	72.2	76.9	81.8	86.7	91.7	96.8	101.8	106.9	112.0
	60.0	64.4	68.8	73.4	78.0	82.8	87.5	92.4	97.2	102.1	107.0
	57.3	61.5	65.7	70.1	74.5	79.1	83.6	88.3	93.0	97.7	102.5
	54.8	58.8	62.9	67.1	71.3	75.6	80.0	84.5	89.0	93.5	98.1
	52.6	56.4	60.2	64.2	68.3	72.4	76.7	81.0	85.3	89.7	94.3
	40.4	44.1	47.8	51.6	55.5	59.5	63.5	67.6	71.8	76.0	80.3
	38.5	41.9	45.5	49.2	52.9	56.7	60.6	64.5	68.6	72.6	76.8
	36.6	40.0	43.4	46.9	50.5	54.1	57.9	61.9	65.9	69.7	73.4
	35.0	38.2	41.4	44.8	48.2	51.7	55.3	59.0	62.5	66.4	70.3
	33.4	36.4	39.5	42.8	46.1	49.4	52.9	56.4	60.0	63.6	67.3
	31.9	34.8	37.8	40.9	44.1	47.3	50.6	54.0	57.5	61.0	64.5

S、Z、h、₁)
第 一 表

D_0	500	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	20,000	30,000	40,000	50,000
20	6.4	12.8	25.5	38.3	51.0	63.8	76.5	89.3	102.0	114.8	127.5	255.0	332.5	510.0	637.5
21	5.5	11.0	22.0	33.0	44.1	55.1	66.1	77.1	88.1	99.1	110.1	222.3	330.4	440.6	550.7
22	4.8	9.6	19.2	28.7	38.3	47.9	57.5	67.1	76.6	86.2	95.8	191.6	287.4	383.2	479.0
23	4.2	8.4	16.8	25.1	33.5	41.9	50.3	58.7	67.1	75.4	83.8	167.7	251.5	335.3	419.2
24	3.7	7.4	14.8	22.1	29.5	36.9	44.3	51.6	59.0	66.4	73.8	147.6	221.4	295.1	368.9
25	3.3	6.5	13.1	19.6	26.1	32.6	39.2	45.7	52.2	58.7	65.3	130.6	195.8	261.1	325.4
26	2.9	5.8	11.6	17.4	23.2	29.0	34.8	40.6	46.4	52.2	58.0	116.0	174.1	232.1	290.2
27	2.6	5.2	10.4	15.5	20.7	25.9	31.1	36.3	41.5	46.6	51.8	103.6	155.5	207.3	259.1
28	2.3	4.6	9.3	13.9	18.6	23.2	27.9	32.5	37.2	41.8	46.5	92.9	139.4	185.9	232.3
29	2.1	4.2	8.4	12.5	16.7	20.9	25.1	29.3	33.5	37.6	41.8	83.6	125.5	167.3	209.1
30	1.9	3.8	7.6	11.3	15.1	18.9	22.7	26.4	30.2	34.0	37.8	75.6	113.3	151.1	188.9
31	1.7	3.4	6.8	10.3	13.7	17.1	20.5	24.0	27.4	30.3	34.2	68.5	102.7	137.0	171.2
32	1.6	3.1	6.2	9.3	12.5	15.6	18.7	21.8	24.9	28.0	31.1	62.3	93.4	124.5	155.6
33	1.4	2.8	5.7	8.5	11.4	14.2	17.0	19.9	22.7	25.5	28.4	56.8	85.1	113.5	141.9
34	1.3	2.6	5.2	7.8	10.4	13.0	15.6	18.2	20.8	23.4	26.0	51.9	77.9	103.8	129.8
35	1.2	2.4	4.8	7.1	9.5	11.9	14.3	16.7	19.0	21.4	23.8	47.6	71.4	95.2	119.0
36	1.1	2.2	4.4	6.5	8.7	10.9	13.1	15.3	17.5	19.7	21.9	43.7	65.6	87.4	109.3
37	1.0	2.0	4.0	6.0	8.1	10.1	12.1	14.1	16.1	18.1	20.1	40.3	60.4	80.5	100.7
38	0.9	1.9	3.7	5.6	7.4	9.3	11.2	13.0	14.9	16.7	18.6	37.2	55.8	74.4	92.9
39	0.9	1.7	3.4	5.2	6.9	8.6	10.3	12.0	13.8	15.5	17.2	34.4	51.6	68.8	86.0
40	0.8	1.6	3.2	4.8	6.4	8.0	9.6	11.2	12.8	14.5	15.9	31.9	47.8	63.8	79.7

(例) $D_0 = 30, S(\text{Zch}_1) = 18, 200 = \text{對スル數ハ } S、Z、h、_1) / 10,000 \text{ノ權ト } 8,000 \text{ノ權ト}$
2,000, 權ノ十分ノ一トノ和 68.8 トマ

架空弱電流電線路ヨリ約三百米以内ニ在ル支持物ノ外部ヲ地表上ニ二・五米ノ高サニ於テ縱幅三十種以上赤色ト爲シ且五十米以内ニ在ル支持物ニ左ノ注意札又ハ之ニ類スル標札ヲ掲グルモノ但シ鐵塔ニ在リテハ赤色表示ハ之ヲ省略スルコトヲ得



第四十條 架空電線路ニ用フル架空地線ハ高壓電線路ニ在リテハ四耗、特別高壓電線路ニ在リテハ五耗ノ硬銅線若ハ鐵線又ハ之ト同等以

電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

九五

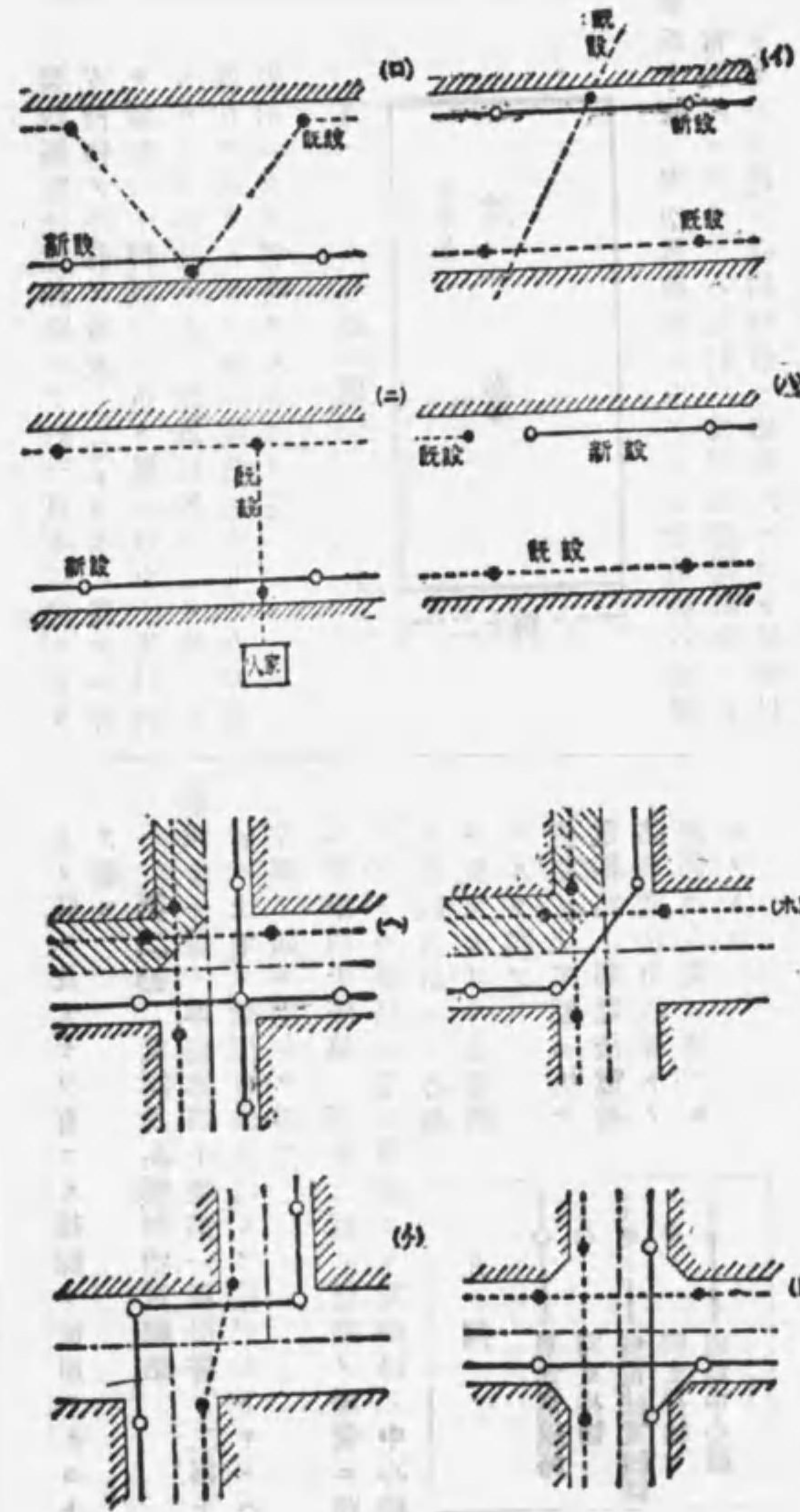
上ノ強サ及太サヲ有スル裸線ヲ使用スルコトヲ要ス

第二節 低壓及高壓架空電線路

第四十一條 本則第四十條第一項但書ノ工事上若ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザルトキトハ左圖ノ如キ場合ヲ謂フ

本則第四十條第一項第二號ノ道路ノ兩側ニ跨ラズトハ道路ニ沿ヒ建設スル電線路ノ中心線ガ當該道路ノ中心線ト交叉セザル様施設スルヲ謂フ
道路ノ交叉點ニ於テ電線路ト弱電流電線路及道路中心線トノ關係ハ左圖ニ準ズルモノトス





九六

第四十二條 本則第四十條第一項、第四十二條

第一項但書及第四十三條第二項ノ架空引込線

ニ隣接スル部分トハ左ノ如キモノヲ謂フ

一 一構内専用ノ低壓配電線路ノ電線ニシテ

當該構内ノ中ニ施設シタルモノ

二 配電幹線ヨリ分岐シ架空引込線ニ接続ス

ル電線ニシテ終端ノ引込柱ヨリ長サ六十米

以內ノモノ

前項第二號ノ電線ハ之ヲ道路ニ沿ヒ道路上ニ

施設スルコトヲ得ズ

第四十三條 本則第四十一條第三項ノ適當ニ施

設ストハ左ノ如ク施設スルヲ謂フ

一 架空電線ト架空弱電流電線トノ相互間ノ

離隔距離ヲ增加スルコト

二 交流式架空電線ノ場合ニ於テハ電線ヲ適

當ノ距離ニ於テ撚架スルコト

三 電線ト弱電流電線ト交叉シ、又ハ接近ス

九七

第四十四條 本則第四十四條第一項但書ノ危險

ノ虞ナキ様取付ケタル電線トハ左ノ如キモノ

ヲ謂フ

一 工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ低壓引込

線又ハ之ニ隣接スル部分(細第四十二條)ノ

電線ヲ分岐スル爲之ヲ高壓用腕木ニ堅牢ニ

取付ケタルモノ

二 配電變壓器ノ高壓側導線ニ一・六耗以上

ノ第三種又ハ第四種絕緣硬銅線ヲ使用シ且

低壓電線ト接觸ノ虞ナキ様之ヲ支持物又ハ

腕木ニ堅牢ニ取付ケタルモノ

第四十五條 本則第四十六條第一項及第二項、

第五十五條第一項第三號及第五十六條第一項第五號ノ堅牢ニ建設ストハ鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ其ノ基礎ヲ特ニ堅固ニシ木柱ニ在リテハ地盤ガ特ニ堅キ場合ヲ除クノ外其ノ根入ヲ左ノ如ク爲スヲ謂フ

木柱全長 根 入

十五米未滿 木柱全長ノ六分ノ一以上

十五米以上 二・五米以上

水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所ニ於テハ堅牢ナル根柢ヲ施スコトヲ要ス

第四十六條 本則第四十八條第一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 交叉箇所ニ在リテハ電線ト交叉ノ場合ヲ除クノ外高壓電線ヲ低壓電線ノ上部ト爲スコト
- 二 工地上已ムヲ得ズ前號ニ依リ難キ場合又ハ低壓電線 高壓電線ノ上部ニ於テ並行シ

又ハ接近シテ相互間ノ水平距離二・五米以下ナル場合ハ該低壓電線ニ五耗ノ硬銅線若ハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

又ハ接近シテ相互間ノ水平距離二・五米以下ナル場合ハ該低壓電線ニ五耗ノ硬銅線若ハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

三 前號ノ場合ニ於テ低壓電線路支持物ノ強度ハ本則第四十六條第一項ニ準ジ計算シタルモノタルコト但シ木柱ニ在リテハ末口十ニ耗以上ト爲スコト

- 第四十七條 本則第五十條但書、第五十四條第二號及第五十五條第一項第五號ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 架空電線ガ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ相互間ノ水平距離二・五米以下ナルトキハ架空

電線ノ上部ニ保護網ヲ施設スルコト但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 架空電線ガ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スルトキハ架空電線ノ上部ニ保護線ヲ施設スルコト

三 保護網又ハ保護線ト架空電線又ハ架空弱電流電線トノ垂直距離ハ六十糎以上ト爲スコト但シ保護網又ハ保護線ト架空電線トノ距離ハ工地上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ三十糎迄ニ、保護網又ハ保護線ト架空弱電流電線トノ垂直距離ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得テ三十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

前項ノ裝置ハ弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十八條 前條第一號ノ保護網ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル鐵線又ハ硬銅線製ノ網狀裝置トシ且左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 縱線ノ太サ四耗以上 縱線相互ノ間隔一・五米以下
- 二 橫線ノ太サ二・六耗以上 橫線相互ノ間隔一・五米以下
- 三 保護網ガ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ垂直距離ノ二分ノ一以上但シ三十糎以上トス

前項ノ保護網ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第四十九條 細則第四十七條第二號ノ保護線ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル二條以上ノ

鐵線又ハ硬銅線トシ且左ノ各號ニ準シ施設スルコトヲ要ス

- 一 保護線ノ太サ四耗以上
- 二 保護線相互ノ間隔七十五耗以下
- 三 保護線ガ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ保護線ト電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上但シ三十耗以上トス

前項ノ保護線ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第五十條 本則第五十五條第一項第五號及第五十六條第一項第八號ノ適當ノ施設トハ裸電線ノ兩外線直下部ニ於テ電線ト弱電流電線トノ間ニ第三種地線一事ニ依リ接地シタル五耗以上ノ鐵撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ弱電流電線ト六十耗以上ノ

距離ヲ保持シテ架設スルヲ謂フ
前項ノ金屬線ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シタル場合
- 二 裸電線ト弱電流電線トノ垂直距離十米以上ナル場合

三 弱電流電線ノ上部ニ於テ交叉スル二條以上ノ低壓又ハ高壓被覆電線(本則第四十二條ニ適合スルモノ)ヲ裸電線ノ下部ニ添架シタル場合

前項ノ金屬線ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第五十一條 本則第五十六條第一項第三號ノ特

殊ノ場合トハ同一母線ニ接續スル同極性ノ架空饋電線ヲ同一腕木上ニ架設スル如キ場合ヲ謂フ

第三節 特別高壓架空電線路

第五十二條 特別高壓架空電線路ハ既設架空電線路「ケーブル」線路ヲ除クニ對シ常時靜電誘導作用ニ因リ通信上ノ障害ヲ及ボサザル爲其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ各號ノ一ニ適合スル樣離隔スルコトヲ要ス

- 一 最大使用電壓一萬五千「ヴォルト」ヲ超過スル場合

(イ) 最大使用電壓六萬「ヴォルト」以下ノ場合ニ在リテハ電話線路ノ互長每十二耗ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ

二「マイクログラムペア」ヲ超過セザル範圍内ニ、最大使用電壓六萬「ヴォルト」ヲ超過スル場合ニ在リテハ電話線路ノ互長每

四十耗ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ三「マイクログラムペア」ヲ超過セザル範圍内ニ電線路ト電話線路トノ間ノ距離及接近部分ノ互長ヲ保持スルコト

$$i_r = V_k D_1 \times 10^{-5} \left\{ 0.33n + 26 \sum \frac{l_i}{b_i b_s} \right\}$$

i_r ハ受話器ニ通ズル誘導電流(「マイクログラムペア」ヲ單位トス)

V_k ハ電線路ノ最大使用電壓(千「ヴォルト」ヲ單位トス)

D_1 ハ電線路ノ線間距離(米ヲ單位トス)

b_1, b_2, b_3 ハ電線ト電話線トノ間ノ距離(米ヲ單位トス)

l_1, l_2, l_3 ハ電線間、電線間、電線間ノ電

話線路ノ互長(米ヲ單位トス)(電線路ト電話線路トガ交叉スルトキハ最大使

電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

一〇二

用電壓六萬「ヴォルト」以下ノ場合ニ在
テハ交叉點ノ前後各五十米、最大使
用電壓六萬「ヴォルト」ヲ超過スル場合
ニ在リテハ交叉點ノ前後百米ノ部分ハ
此ノ計算ニ加ヘザルコト)

カハ交叉點ノ數

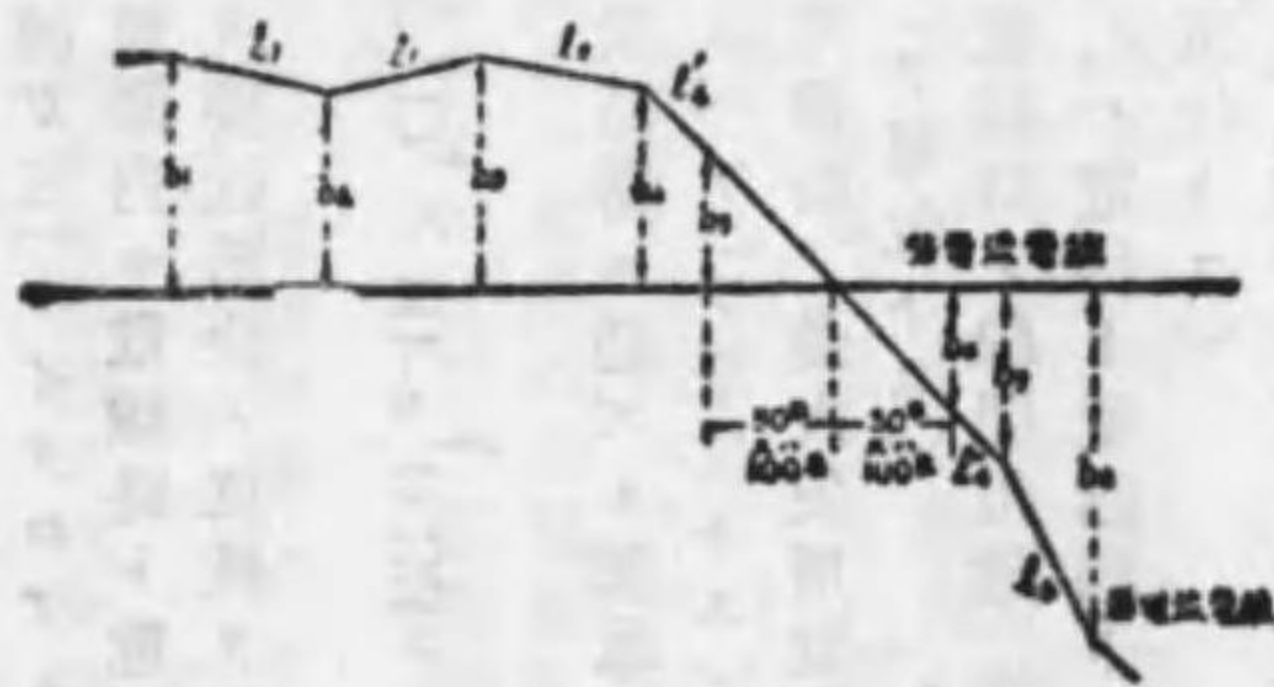
(ロ) 前記公式ノ適用方法左ノ如シ(一〇二
一〇三頁圖及式參照)

(ハ) 最大使用電壓ノ區別ニ從ヒ既設架空電
話線路ト左記ノ距離以上離隔シタル
電線路ノ部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略ス
ルコトヲ得

最大使用電壓
電線ト電話線
トノ間ノ距離

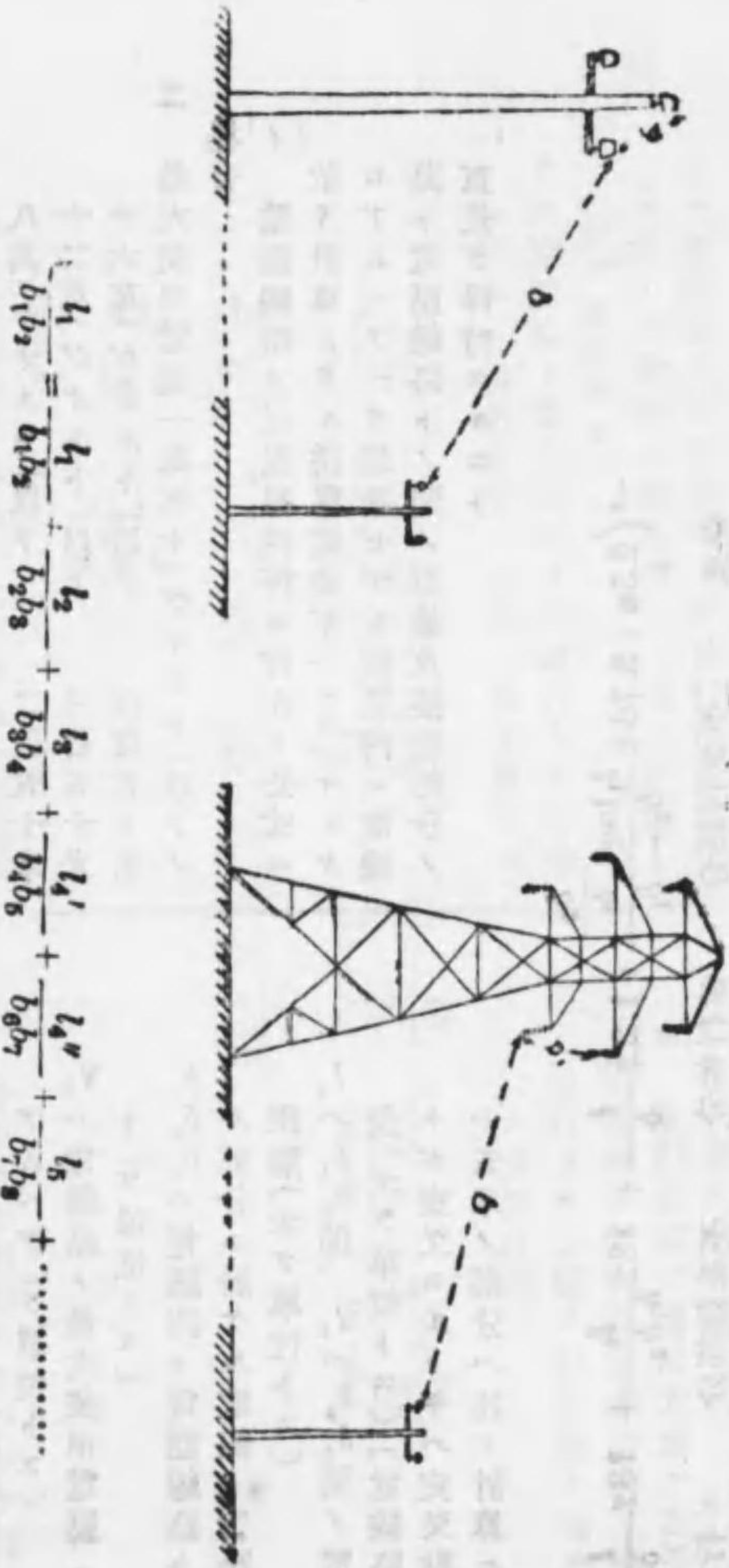
二萬五千「ヴォルト」以下	六十米
三萬五千「ヴォルト」以下	百米
五萬「ヴォルト」以下	百五十米

第一圖



六萬「ヴォルト」以下

百八十米



電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

一〇三

- 七萬「ヴォルト」以下 二百米
- 八萬「ヴォルト」以下 二百五十米
- 十二萬「ヴォルト」以下 三百五十米
- 十六萬「ヴォルト」以下 四百五十米
- 二 最大使用電壓一萬五千「ヴォルト」以下ノ場合

(イ) 電話線路ノ亘長毎四軒ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ一・五「マイクログラムペア」ヲ超過セザル範圍内ニ電線路ト電話線路トノ間ノ距離及接近部分ノ亘長ヲ保持スルコト

$$-3 \left(2.5 \frac{b_2}{b_1} + 2.76 \frac{l_1 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_2 - b_1} + 1.22 \frac{l}{b} + 182 \frac{l_1}{b_1 b_2} + 182 \frac{l}{b_2} \right)$$

交叉 不並行部分 並行部分 不並行部分 並行部分
 十五米以下 十五米以上

i_Tハ受話器ニ通ズル誘導電流(「マイクログラムペア」ヲ單位トス)
 V_kハ電線路ノ最大使用電壓(千「ヴォルト」ヲ單位トス)
 b₁、b₂ハ電線路ト電話線路トガ並行セザル部分ニ於ケル電線ト電話線トノ間ノ距離(米ヲ單位トス)
 l₁、b₁、b₂間、l₂、b₁、b₂間ノ電話線路ノ亘長(米ヲ單位トス)、「電線路ト電話線路トガ交叉スルトキハ交叉點ト前後各二十五米ノ部分ハ此ノ計算ニ加ヘザルコト

4]

ハ電線路ト電話線路トガ並行スル部分ニ於ケル電線ト電話線トノ間ノ距離(米ヲ單位トス)
 ハ電線路ト電話線路トガ並行スル部分ニ於ケル接近部分ノ亘長(米ヲ單位トス)

$$\sum_{n=1}^n \frac{l_1 \log \frac{b_2}{b_1} - l_1 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_2 - b_1} = \frac{15}{b_1 - b_2} \frac{l_2 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_2} + \frac{15}{15 - b_2} \frac{l_1 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_1} + \frac{15}{15 - b_4} \frac{l_2 \log \frac{l_1}{b_4}}{b_4} + \frac{l_2 \log \frac{l_1}{b_5}}{b_5 - b_4} + \frac{l_2 \log \frac{l_1}{b_6}}{b_6 - b_5}$$

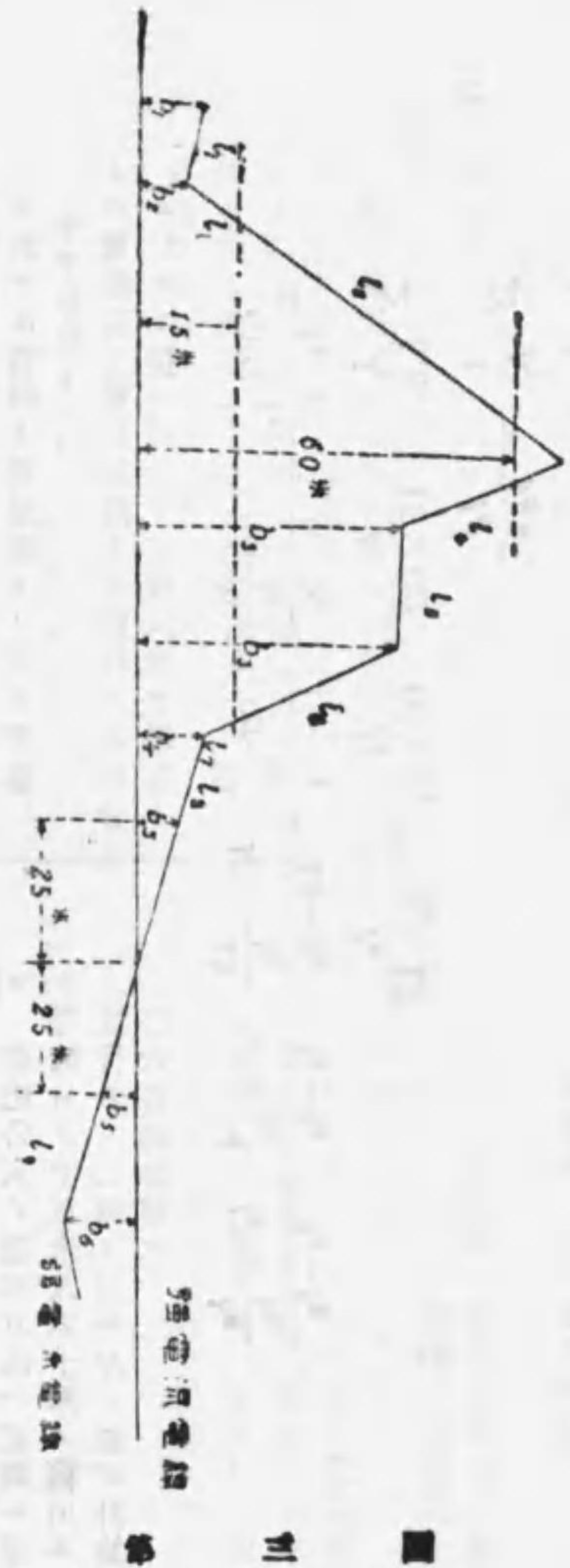
$$\sum \frac{l}{b_2} = \frac{l_6}{b_2^2}$$

5]

nハ交叉點ノ數
 前記公式ノ適用方法ハ左圖ニ示ス如ク電線ヨリ十五米及六十米ノ箇所ニ電線ト並行スル二線ヲ引キ左ノ如ク計算ス(一〇六頁圖参照)

(ハ) 既設架空電話線路ト六十米以上離隔スル特別高壓架空電線路ノ部分ハ本計算ニ

於テ之ヲ省略スルコトヲ得



第五十三條

中性點ヲ接地シタル特別高壓架空電線路ハ故障ノ際ニ於ケル地絡電流ノ電磁誘導作用ニ因リ既設架空弱電流電線路ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線路ト弱電流電線路トノ間ヲ充分離隔シ若ハ故障ノ際ニ於ケル地絡電流ヲ制限シ又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ施設スルコトヲ要ス

第五十四條

本則第六十四條第一項ノ規定ニ依ル電線ノ弛度ハ硬銅線ヲ使用シ且電線ノ兩支持點ニ高低差ナキ場合ニハ左表ニ依ルモノトス(一〇八・一〇九・一一〇及一一一頁表參照)

第五十五條

本則第六十五條ノ堅牢ニ建設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 木柱根入ハ地盤ガ特ニ堅キ場合ヲ除クノ外左記ニ依ルコト
- 木柱全長 根 入
- 十五米未滿 木柱全長ノ六分ノ一以上

電氣工作物規程

細則

送電線路、配電線路及饋電線路

十五米以上

二・五米以上

水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所ニ於テハ堅牢ナル根柵ヲ施スコト

二 電線路ノ直線部分

(五度以内ノ角度ヲ有スル部分ヲ含ム)ニ於ケル木柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ施設シ又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ設クルコト 但シ二萬五千「ヴォルト」以下ノ電線路ハ此ノ限ニ在ラズ

徑 間

支 線

五十米以下ノ場合

四柱間以下毎ニ四耗以上ノ鐵線三條以上

五十米ヲ超過スル

三柱間以下毎ニ四耗以上ノ鐵線五條以上

場合

電線路ノ直線部分(五度以内ノ角度ヲ有スル部分ヲ含ム)ニ於ケル木柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ設ク

- 三 電線路ノ直線部分(五度以内ノ角度ヲ有スル部分ヲ含ム)ニ於ケル木柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ設ク

硬鋼線
(一) 大雪多カラザル

安全係數	電線		徑				
	稱呼	架線構成	40	60	80	100	120
2.0	5.0 ^{mm}		0.11	0.23	0.59	1.11	—
	5.5 ^{mm}		0.11	0.27	0.55	1.00	1.65
	6.0 ^{mm}		0.11	0.26	0.53	0.92	1.51
	6.5 ^{mm}		0.11	0.26	0.51	0.88	1.41
	7.0 ^{mm}		0.11	0.25	0.49	0.83	1.32
	8.0 ^{mm}		0.11	0.25	0.47	0.76	1.21
2.0	22 ^{平方mm}	7/2.0	0.12	0.30	0.64	1.21	—
	30 ^{平方mm}	7/2.3	0.11	0.29	0.57	1.04	1.72
	38 ^{平方mm}	7/2.6	0.11	0.27	0.53	0.93	1.51
	45 ^{平方mm}	7/2.9	0.11	0.26	0.50	0.85	1.37
	55 ^{平方mm}	7/3.2	0.11	0.25	0.48	0.81	1.27
	70 ^{平方mm}	7/3.5	0.10	0.25	0.46	0.78	1.21
	90 ^{平方mm}	7/4.0	0.10	0.25	0.45	0.74	1.13
	110 ^{平方mm}	7/4.5	0.10	0.24	0.45	0.72	1.08
	125 ^{平方mm}	19/2.9	0.10	0.24	0.44	0.71	1.07
	150 ^{平方mm}	19/3.2	0.10	0.24	0.43	0.70	1.04
	180 ^{平方mm}	19/3.5	0.10	0.24	0.42	0.69	1.01
	240 ^{平方mm}	19/4.0	0.10	0.23	0.42	0.68	0.99
300 ^{平方mm}	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67	0.97	
2.5	125 ^{平方mm}	19/2.9	0.13	0.31	0.58	0.96	1.46
	150 ^{平方mm}	19/3.2	0.13	0.31	0.56	0.93	1.40
	180 ^{平方mm}	19/3.5	0.13	0.30	0.56	0.91	1.36
	240 ^{平方mm}	19/4.0	0.13	0.30	0.55	0.88	1.31
	300 ^{平方mm}	19/4.5	0.13	0.30	0.53	0.86	1.28

弛度表
地方 (最低温度、無荷重)

間 (米)								
140	160	180	200	220	240	260	280	300
—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.51	—	—	—	—	—	—	—	—
2.27	3.16	—	—	—	—	—	—	—
2.11	2.95	3.97	—	—	—	—	—	—
1.95	2.74	3.66	4.70	—	—	—	—	—
1.77	2.46	3.27	4.22	5.27	6.44	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.60	—	—	—	—	—	—	—	—
2.27	3.17	4.26	—	—	—	—	—	—
2.04	2.85	3.82	4.92	6.15	—	—	—	—
1.86	2.61	3.45	4.49	5.62	6.86	8.21	9.69	11.29
1.75	2.42	3.23	4.17	5.21	6.36	7.62	9.00	10.46
1.62	2.23	2.95	3.78	4.72	5.86	6.91	8.14	9.47
1.53	2.08	2.74	3.50	4.36	5.31	6.36	7.50	8.72
1.52	2.04	2.67	3.41	4.24	5.16	6.14	7.27	8.46
1.45	1.96	2.56	3.25	4.02	4.88	5.84	6.88	7.99
1.42	1.90	2.48	3.13	3.89	4.68	5.59	6.58	7.64
1.37	1.83	2.42	2.98	3.69	4.44	5.28	6.21	7.19
1.35	1.78	2.31	2.89	3.57	4.28	5.08	5.95	6.90
2.07	2.84	3.67	4.63	5.73	6.94	8.21	9.61	11.14
1.96	2.67	3.47	4.38	5.39	6.50	7.72	9.02	10.48
1.91	2.58	3.35	4.22	5.20	6.26	7.43	8.69	10.00
1.82	2.44	3.15	3.96	4.87	5.86	6.94	8.11	9.41
1.76	2.36	3.05	3.80	4.65	5.59	6.62	7.74	8.97

(二) 水害多地方

安全係數	電 線		徑				
	稱呼	線成	40	60	80	100	120
2.0	5.0		0.14	0.53	1.41	2.63	—
	5.5		0.13	0.41	1.06	2.09	3.36
	6.0		0.12	0.34	0.85	1.64	2.72
	6.5		0.12	0.32	0.71	1.40	2.35
	7.0		0.11	0.29	0.63	1.20	2.01
	8.0		0.11	0.27	0.54	0.98	1.60
2.1	平方尺						
	24	7/2.0	0.14	0.49	1.30	2.47	—
	30	7/2.3	0.13	0.36	0.89	1.76	2.88
	38	7/2.6	0.12	0.30	0.66	1.27	2.09
	45	7/2.9	0.11	0.28	0.59	1.09	1.82
	55	7/3.2	0.11	0.27	0.53	0.95	1.56
	70	7/3.5	0.11	0.26	0.50	0.87	1.40
	90	7/4.0	0.11	0.25	0.47	0.79	1.23
	110	7/4.5	0.11	0.25	0.45	0.75	1.14
	125	19/2.9	0.11	0.25	0.45	0.74	1.12
	150	19/3.2	0.10	0.24	0.43	0.71	1.07
	180	19/3.5	0.10	0.24	0.43	0.70	1.04
240	19/4.0	0.10	0.24	0.42	0.68	1.01	
300	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67	0.93	
2.5	125	19/2.9	0.13	0.32	0.60	1.01	1.55
	150	19/3.2	0.13	0.31	0.58	0.96	1.46
	180	19/3.5	0.13	0.31	0.56	0.92	1.40
	240	19/4.0	0.13	0.30	0.55	0.89	1.34
	300	19/4.5	0.13	0.30	0.54	0.87	1.30

(最低溫度、無荷重)

間 (米)								
140	160	180	200	220	240	260	280	300
—	—	—	—	—	—	—	—	—
4.24	—	—	—	—	—	—	—	—
4.00	5.53	—	—	—	—	—	—	—
3.50	4.38	6.48	—	—	—	—	—	—
3.01	4.25	5.63	7.17	—	—	—	—	—
2.45	3.41	4.55	5.86	7.28	8.85	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—
4.25	—	—	—	—	—	—	—	—
8.19	4.44	5.88	—	—	—	—	—	—
2.76	3.86	5.15	6.59	8.18	—	—	—	—
2.34	3.30	4.42	5.68	7.08	8.62	10.30	12.10	14.05
2.07	2.91	3.90	5.04	6.30	7.68	9.20	10.82	12.60
1.80	2.50	3.33	4.29	5.37	6.56	7.86	9.26	10.78
1.64	2.25	2.98	3.83	4.79	5.83	7.00	8.25	9.61
1.60	2.16	2.86	3.60	4.56	5.56	6.66	7.86	9.15
1.50	2.04	2.68	3.41	4.24	5.17	6.16	7.29	8.48
1.45	1.96	2.56	3.24	4.03	4.88	5.83	6.87	7.99
1.40	1.87	2.42	3.07	3.80	4.59	5.46	6.43	7.46
1.36	1.81	2.35	2.95	3.65	4.39	5.21	6.10	7.09
2.21	3.06	4.00	5.02	6.18	7.47	8.87	10.40	12.07
2.07	2.80	3.67	4.62	5.71	6.89	8.17	9.58	11.12
1.97	2.66	3.47	4.38	5.39	6.50	7.71	9.02	10.48
1.86	2.51	3.24	4.09	5.02	6.05	7.13	8.39	9.74
1.80	2.41	3.10	3.94	4.77	5.74	6.80	7.94	9.22

電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

一一一

電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

一一一〇

ルコト

徑 間 支 線

五十米以下ノ場 十二柱間以下毎ニ四耗以上ノ鐵線五條以上
五十米ヲ超過ス 九柱間以下毎ニ四耗以上ノ鐵線七條以上

第五十六條 特別高壓架空電線路ニ用フル鐵柱

- 一 鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ハ左ノ五種トス
 - 標準型 「標準鐵柱、標準鐵塔又ハ標準鐵筋」コンクリート」柱、以下之ニ做フ」電線路ノ直線部分ニ於テ標準徑間ヲ超過セザル箇所ニ使用スルモノ
 - 二 角度型 電線路中角度ヲ爲シ標準徑間ヲ超過セザル箇所ニ使用スルモノ
 - 三 耐張型 電線路中ニ保安ノ爲耐張用トシテ使用スルモノ
 - 四 引留型 電線路ノ終端等ニ於テ完全ナル

引留ヲ爲ス箇所ニ使用スルモノ

五 特殊型 電線路中川越、谷越等徑間大ナル箇所其ノ他特殊ノ箇所ニ使用スルモノ

第五十七條 鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ニ依ル特別高壓架空電線路中ニハ左記ニ依リ耐張型支持物ヲ建設スルコトヲ要ス

電線路ノ支持 耐張型支持 耐張型支持物ノ種類 物ノ間隔

一 鐵塔

最大使用電壓 六萬一ヴオルト以上ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上 第二種耐張鋼心一アルミニウム線ニ在リテハ百五十平方耗以上

二 可撓鐵塔 第三種耐張鐵塔 一・五耗以下

鐵柱又ハ鐵筋 第一種耐張鐵塔、第一種耐張鐵柱「コンクリート」柱 又ハ第一種耐張鐵筋「コンクリート」柱 一耗以下

四 可撓鐵柱 第二種耐張鐵塔 七百米以下 又ハ第二種耐張鐵筋「コンクリート」柱

第五十八條 本則第六十八條第一項ノ適當ニ建設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 二萬五千「ヴオルト」ヲ超過スル電線路ノ木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ設クルコト 但シ木柱ノ場合ニ在リテハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱

ヲ施設シ、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ第一種耐張型ノモノヲ用ヒテ本號ノ支線ヲ省略スルコトヲ得
二 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
三 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ於テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

第五十九條 本則第六十九條第一項ノ適當ニ建設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 建造物ト接近シ又ハ其ノ上部ヲ架渉スル場合
 - (イ) 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ支持物ト建造物トノ關係位置ニ從ヒ電線路ノ方向又ハ之ト直角ノ方向ニ設クルコト 但シ木柱ノ場合ニ在リテハ之

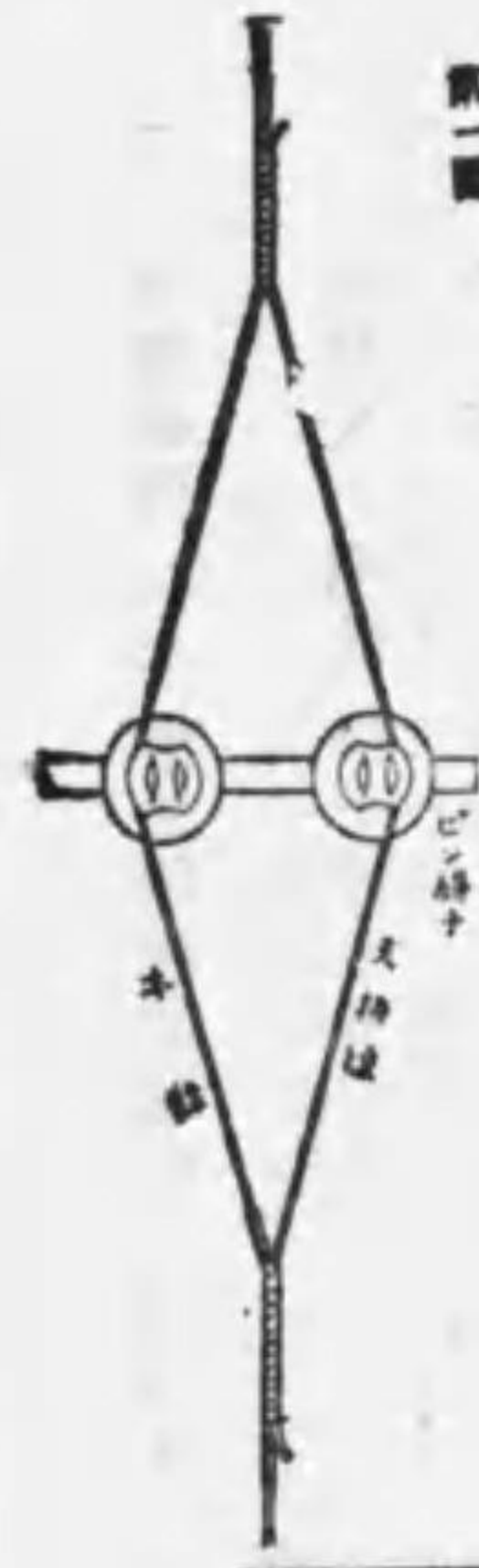
電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ施設シ
鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ
在リテハ第一種耐張型ノモノヲ用ヒテ本
號ノ支線ヲ省略スルコトヲ得

(ロ) 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用
シ且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スル
コト

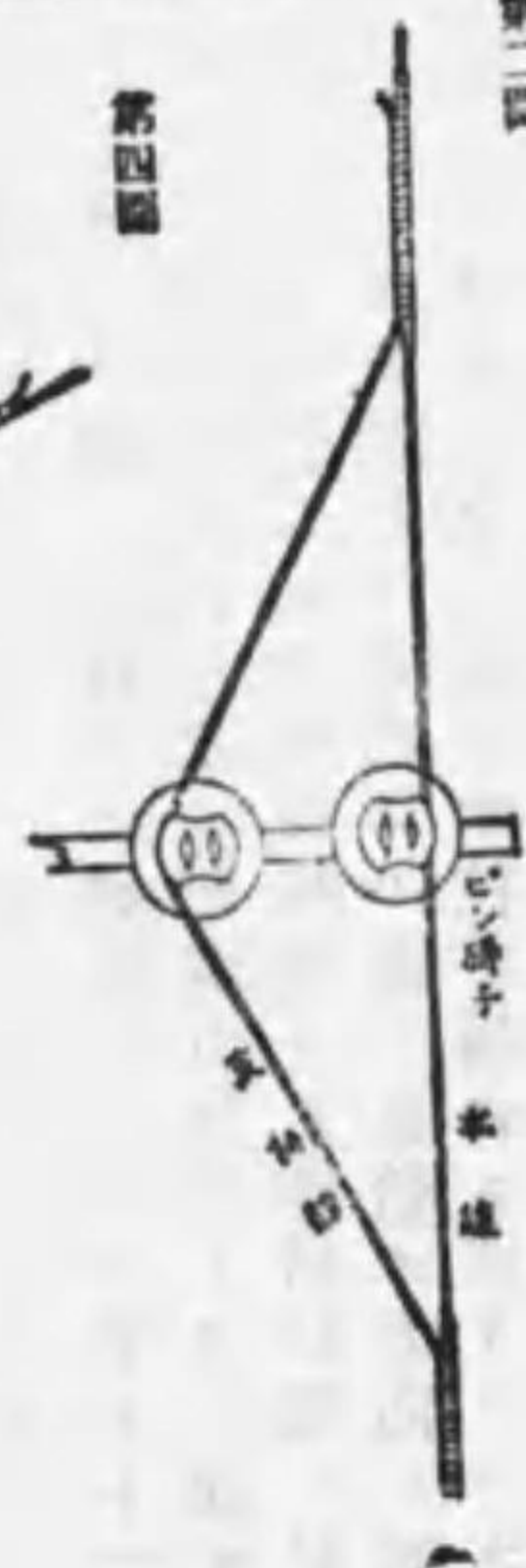
(ハ) 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合
ニ於テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ
接地スルコト

(ニ) 左圖ノ例ニ倣ヒ二箇以上又ハ二聯以上
ノ碍子ヲ以テ電線ヲ支持スルコト



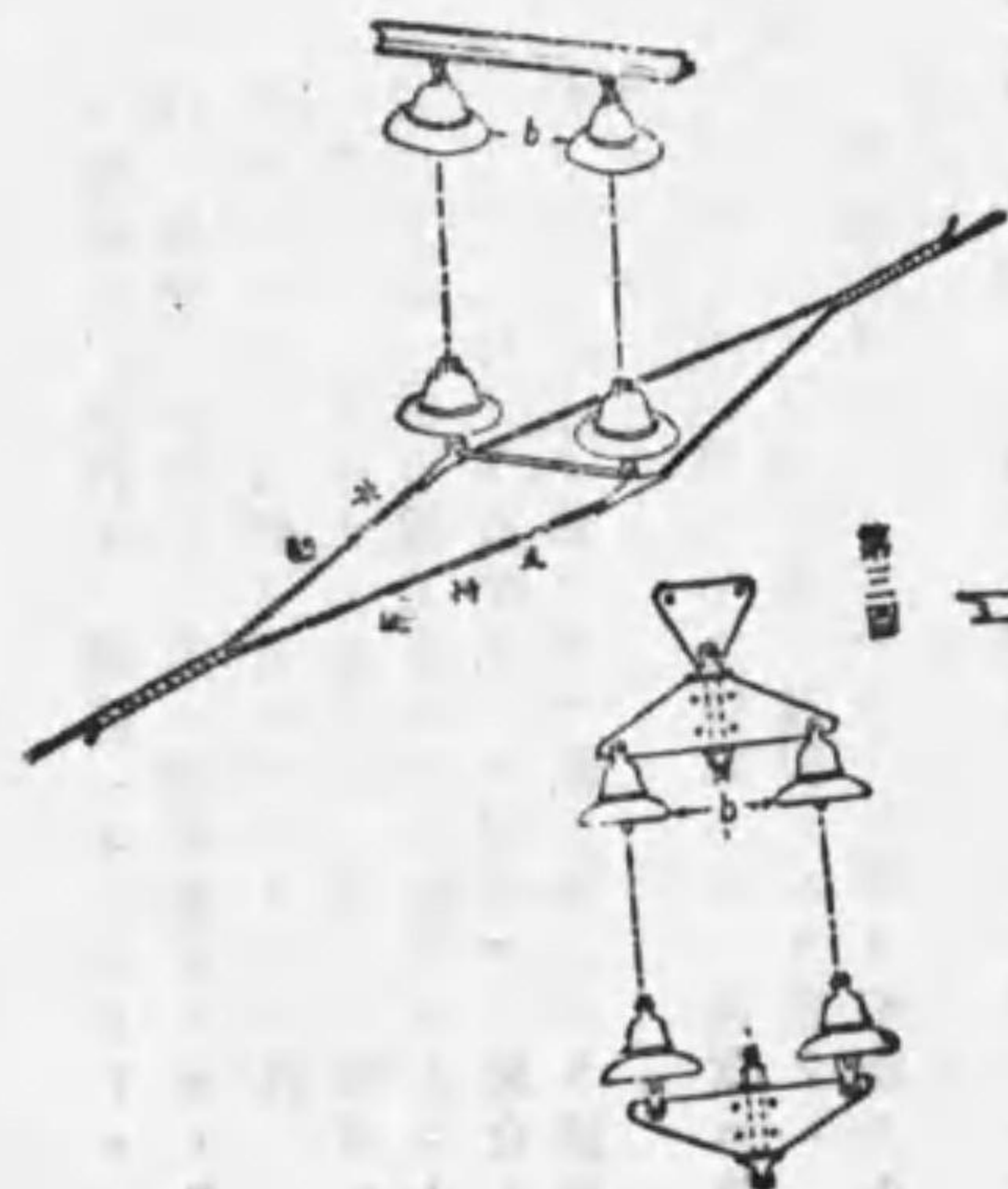
第一圖

第二圖



一一四

第四圖



第三圖

- 支持線ニハ本線ト同一ノ強サ及太サヲ有
スル電線ヲ使用シ且本線トノ接續ハ堅牢
ニシテ電氣的完全ナラシムルコト
懸垂碍子ノ場合ニハ前圖ノbハ八種以上
ト爲スコト
- (ホ) 電線ト建造物トハ常ニ左ノ離隔距離ヲ
保持スルコト
一 萬五千「ヴォルト」以下ノモノハ三米
以上
一 萬五千「ヴォルト」ヲ超過スルモノハ
五米以上
- 二 道路、鐵道又ハ軌道ニ接近シ又ハ道路ニ
沿ヒ道路上ニ建設スル場合ニ於テハ前號
(ロ)ハ及ニ依ルコト
- 三 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電
線ト接近スル場合ニ於テハ最小接近距離ヲ
二米以上ト爲スコト

電氣工作物規程 細則 送電線路、配電線路及饋電線路

- 第六十條 本則第七十條第一項及第七十一條第
一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設
スルヲ謂フ
- 一 交叉箇所ノ木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンク
リート」柱ニハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨ
リ成ル支線ヲ電線路ノ方向ニ設クルコト但
シ木柱ノ場合ニ在リテハ之ト同等以上ノ強
サヲ有スル支柱ヲ施設シ鐵柱又ハ鐵筋「コ
ンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ第一種耐
張型支持物ヲ用ヒテ本號ノ支線ヲ省略スル
コトヲ得
- 二 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ
且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
- 三 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ
於テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ接地
スルコト
- 四 鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ

架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ前條第一號ニ依リ施設スルコト但シ懸垂碍子ヲ使用スル場合ニ於テハ同附圖ノbハ左ノ値ヲ保持スルコト

最大使用電壓

- 二萬五千「ヴォルト」以下 八糎以上
 - 五萬「ヴォルト」以下 十糎以上
 - 六萬「ヴォルト」以下 十三糎以上
 - 七萬「ヴォルト」以下 十五糎以上
 - 八萬「ヴォルト」以下 十八糎以上
 - 十二萬「ヴォルト」以下 二十三糎以上
 - 十六萬「ヴォルト」以下 二十五糎以上
- 五 工事以上已ムヲ得ズ前號ノ方法ニ依ラザル場合ハ左記ニ依ル保護網ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- (イ) 保護網ト低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トノ垂直距離ハ六十糎以上

高壓電線ノ直下部ニ施設スベキ金屬線ト保護網ノ兩外線トノ間隔ガ一・五米以下ナルトキハ直下部ニ施設スベキ金屬線ヲモ省略スルコトヲ得

(ホ) 保護網ヲ構成スル金屬線ハ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スルモノニシテ左ノ制限ニ依ルコト

最大使用電壓 保護網ノ部分 金屬線

八萬「ヴォルト」未滿	外線	五糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	五糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	八糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	十二糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	十五糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	十八糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	二十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	二十五糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	三十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	三十五糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	四十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	四十五糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	五十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	六十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	七十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	八十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	九十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	九十糎以上
八萬「ヴォルト」以上	外線	九十糎以上

タルコト

(ロ) 保護網ガ下部ノ電線又ハ弱電流電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ下部ノ電線又ハ弱電流電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上ト爲スコト

(ハ) 保護網ガ特別高壓電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ各特別高壓電線ト保護網トノ垂直距離ノ二分ノ一以上ト爲スコト但シ十米ヲ超過スルコトヲ要セズ

(ニ) 保護網ヲ構成スル金屬線相互ノ間隔ハ縱横各一・五米以下ト爲スコト

特別高壓電線ト下部ノ電線又ハ弱電流電線トガ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スル場合ニ限リ特別高壓電線ト同一方向ノ金屬線ハ兩外線及特別高壓電線ノ兩外線ノ直下部ニ施設スルモノヲ除クノ外之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ特別

(ハ) 保護網ハ第一種地線工事ニ依リ接地スルコト

六 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線「ケーブル」線ヲ除クト交叉スル箇所ニ於テハ特別高壓電線ノ兩外線ノ直下部ニ於テ電線相互間ニ第三種地線工事ニ依リ接地シタル五糎以上ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル鐵線ヲ架設シ下部ノ電線又ハ弱電流電線ト六十糎以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコト但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ金屬線ヲ省略スルコトヲ得

(イ) 下部ノ電線又ハ弱電流電線ガ五糎ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノナルトキ

(ロ) 特別高壓電線ト下部ノ電線又ハ弱電流電線トノ垂直距離十米以上ナルトキ

(ハ) 第五號ノ保護網ヲ施設シタルトキ

前項第五號ノ保護網及第六號ノ金屬線ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

第六十一條 本則第七十三條第一項但書ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 特別高壓電線ニハ撚線ヲ使用シ之ヲ低壓又ハ高壓電線ノ上部ト爲スコト

二 添架シタル低壓又ハ高壓電線ニハ左ノ電線ヲ使用スルコト

(イ) 徑間五十米以下ナルトキハ四耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

(ロ) 徑間五十米ヲ超過スルトキハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

三 特別高壓電線ト添架電線トノ間隔ハ一・

ヲ有スルモノヲ使用スルヲ謂フ

第六十四條 本則第九十六條但書ノ特殊ノ施設トハ左ノ各號ノ一ニ準ズルモノヲ謂フ

一 添架電話線又ハ之ニ直接接続スル電話線ト市街地ニ於ケル電話線トノ接続點ニ細則第六十五條第二號ノ乙種保安裝置ヲ施シ其ノ中繼線輪ノ二次側ニ電話線ヲ接続スルモノ

二 市街地ニ於ケル電話線ニ「ケーブル」線又ハ第三種絕緣電線ヲ使用スルモノ

第六十五條 本則第九十八條第一項ノ適當ノ保安裝置トハ左ニ掲グル如キモノヲ謂フ

一 架空電線ガ低壓又ハ高壓電線ナル場合

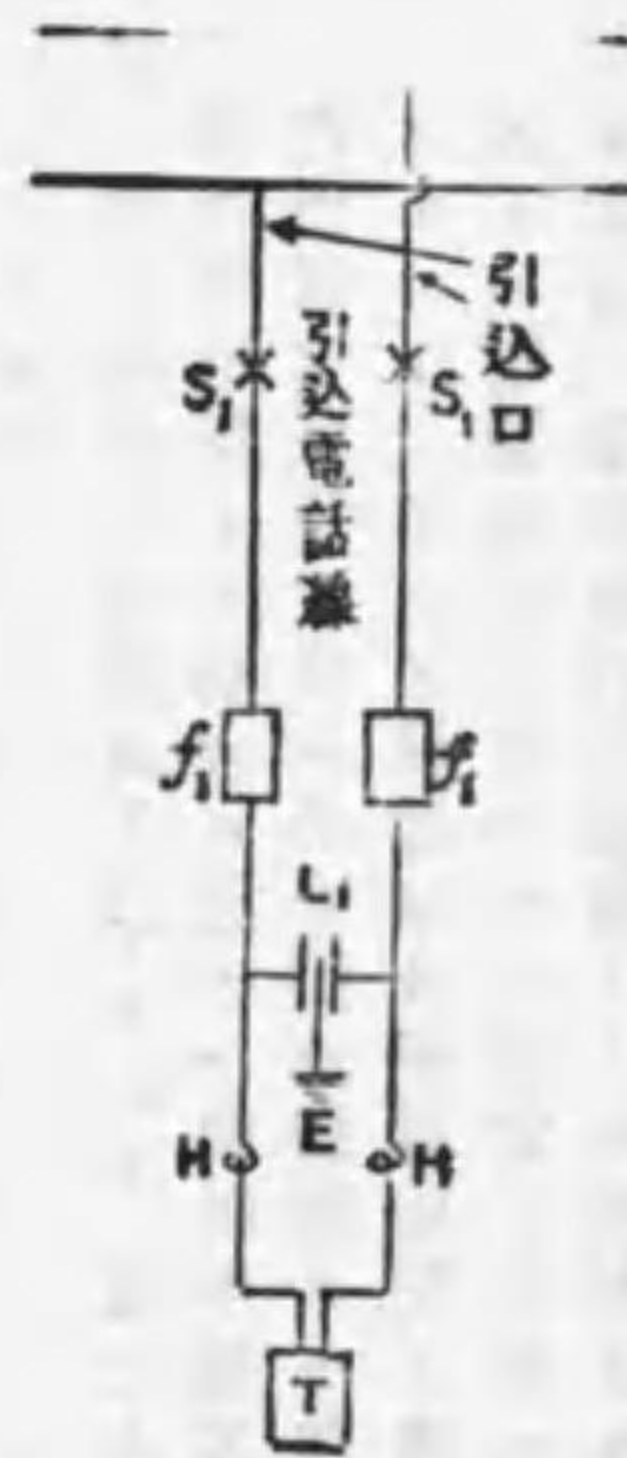
二米以上ト爲スコト

四 添架電線ニハ其ノ電路ノ中性點又ハ一電線ニ本則第二十七條第一項若ハ第二項ニ準ズル保安裝置又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ設備スルコト但シ該電線ガ單線式電氣鐵道ノ場合ノ如ク大地ヨリ絕緣セラレザルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

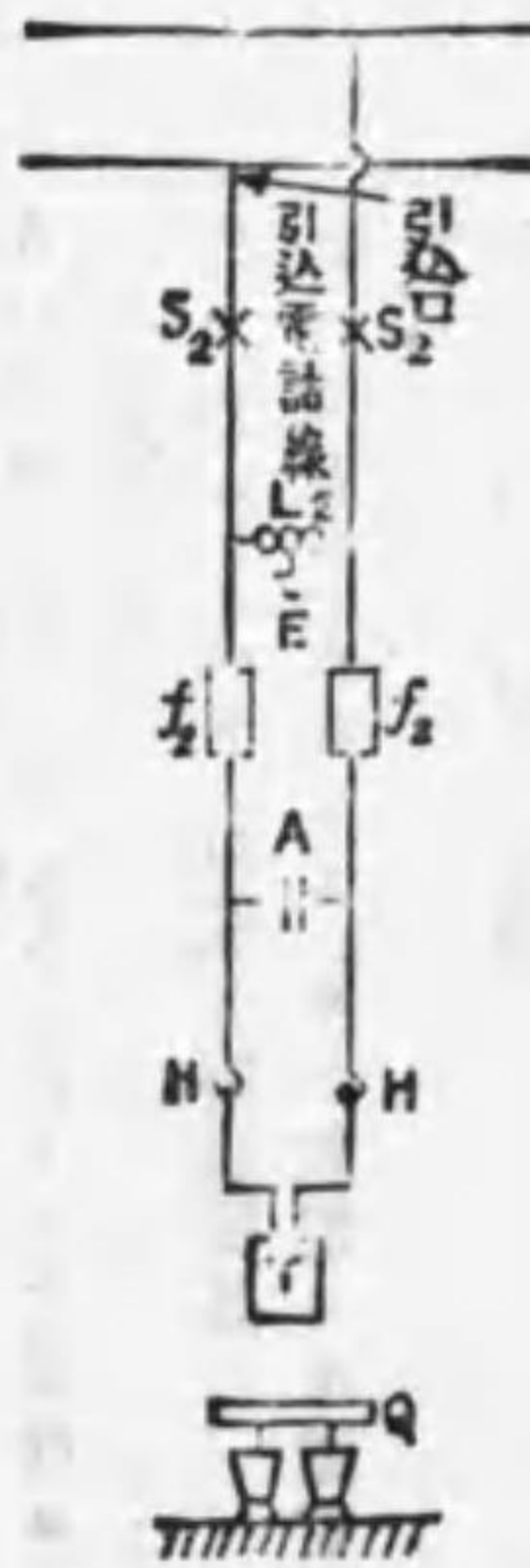
第四節 保安通信設備

第六十二條 本則第九十二條ノ特殊ノ場合トハ電話線ガ「ケーブル」線ナル場合又ハ第四種絕緣電線ト同等以上ノ効力ヲ有スル電話線ヲ二・六耗以上ノ鐵線ヲ以テ吊架スルガ如キ場合ヲ謂フ

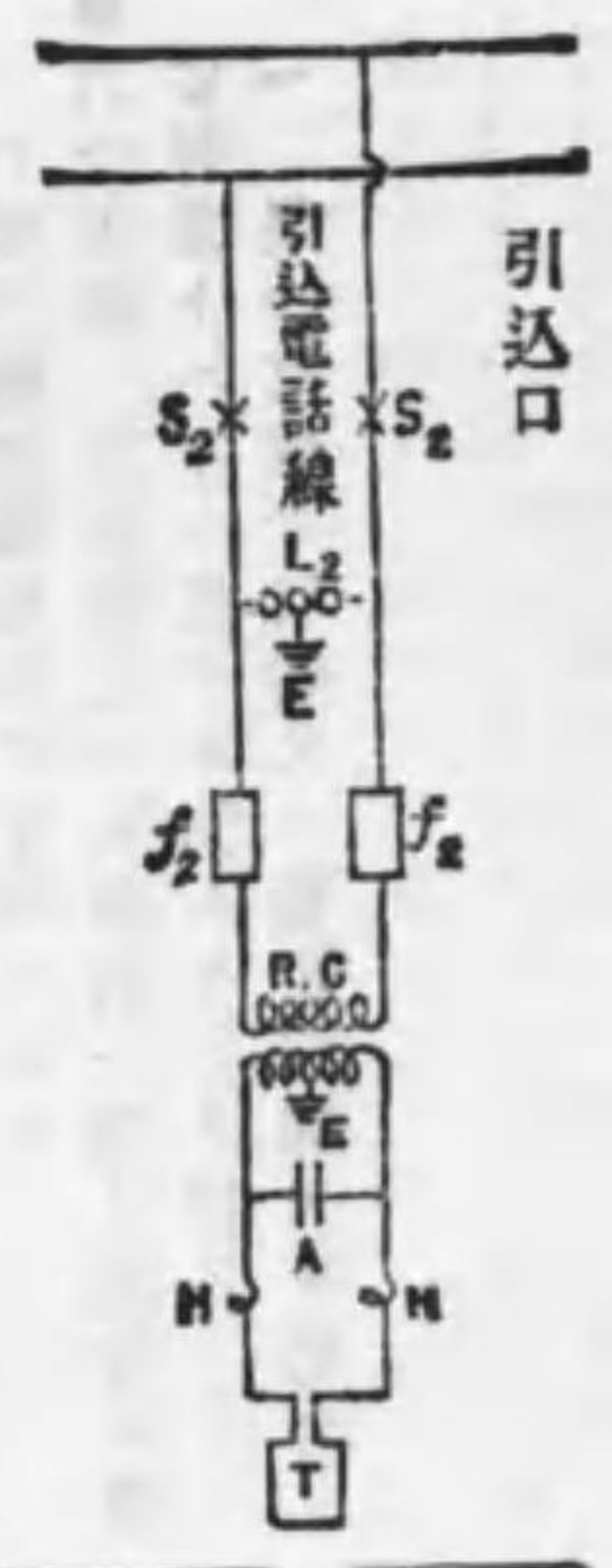
第六十三條 本則第九十五條第二號ノ適當ニ施設ストハ電話線ト他ノ特別高壓架空電線トノ間ニ他ノ金屬線介在セザル場合ニ於テ電話線ニ五耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サ



二 架空電線ガ特別高壓電線ナル場合
甲種保安裝置

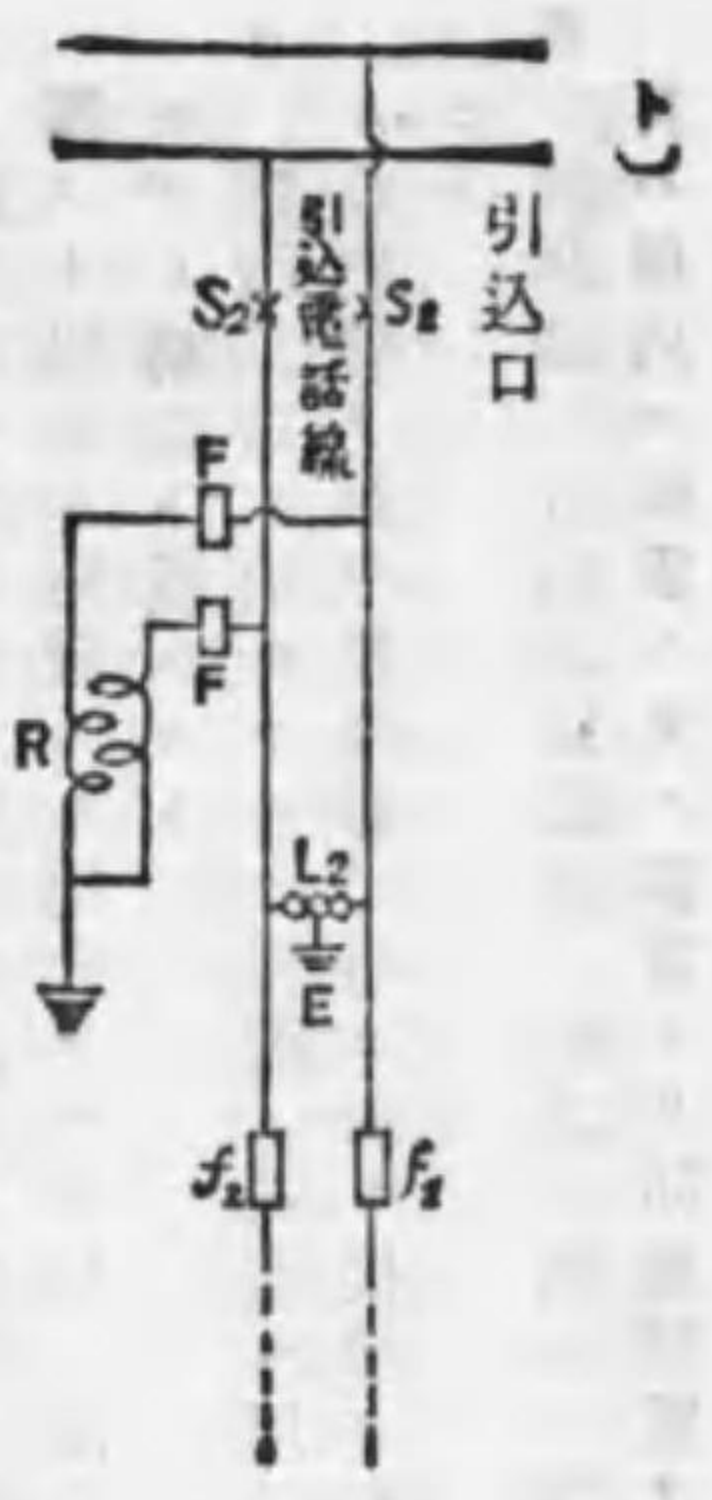


乙種保安裝置



- 引込口
- 引込電話線
- S₂ ハ交流三千「ヴォルト」ニテ動作スル避雷器
- f₂ ハ一「アマペア」包装可熔遮断器
- f₁ ハ交流千「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器
- S₁ ハ引込用高壓開閉器
- R.C. ハ中繼線輪(一次二次線輪間ノ絶縁耐力ハ交流三千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモナルコト)
- A ハ交流三百「ヴォルト」以下ニテ動作スル放電間隙
- H ハ二百五十「ミリアマペア」以下ニテ動作スル熱線輪
- L₂ ハ交流三百「ヴォルト」ニテ動作スル避雷器
- E ハ接地
- f₁ ハ五「アマペア」可熔遮断器
- Q ハ交流三千「ヴォルト」ニ耐フル電話機

- 使用者ノ絶縁用踏臺
- A ハ交流三百「ヴォルト」以下ニテ動作スル放電間隙
- f₁ ハ一「アマペア」包装可熔遮断器
- f₂ ハ交流千「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器
- S₁ ハ引込用高壓開閉器
- R.C. ハ中繼線輪(一次二次線輪間ノ絶縁耐力ハ交流三千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモナルコト)
- H ハ二百五十「ミリアマペア」以下ニテ動作スル熱線輪
- L₂ ハ交流三百「ヴォルト」ニテ動作スル避雷器
- E ハ接地
- f₁ ハ五「アマペア」可熔遮断器
- Q ハ交流三千「ヴォルト」ニ耐フル電話機



- 引込口
- 引込電話線
- S₂ ハ交流三千「ヴォルト」ニテ動作スル避雷器
- F ハ排流線輪(各端子ト中點ノ間ニ交流二千「ヴォルト」ノ電壓ヲ加ヘ一分間之ニ耐フルモノナルコト)
- S₁ ハ引込用高壓開閉器
- R.C. ハ中繼線輪(一次二次線輪間ノ絶縁耐力ハ交流三千「ヴォルト」ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモナルコト)
- A ハ交流三百「ヴォルト」以下ニテ動作スル放電間隙
- H ハ二百五十「ミリアマペア」以下ニテ動作スル熱線輪
- L₂ ハ交流三百「ヴォルト」ニテ動作スル避雷器
- E ハ接地
- f₁ ハ五「アマペア」可熔遮断器
- Q ハ交流三千「ヴォルト」ニ耐フル電話機

- 第六十七條 本則第百二條第一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準シ施設スルヲ謂フ
 - 一 碍子引工事ニ依ルトキハ工事ノ上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外造管材ノ側面又ハ下面ニ取付ケ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下トシ且電線ノ種類及取付場所ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電線相互間及電線ト造管材トヲ離隔スルコト
 - (イ) 雨露ニ曝露セザル場所ニ施設スル場合
 - 電線ノ種類 電線相互間ノ距離
 - 六種以上 三種以上
 - 三種絶縁電線 六種以上 三種以上
 - 三種絶縁電線 三種以上 六種以上
 - 雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合
 - 電線ノ種類 電線相互間ノ距離
 - 十五種以上 十種以上
 - (ロ) 雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合
 - 電線ノ種類 電線相互間ノ距離
 - 十五種以上 十種以上

- 第三種絶縁電線 十種以上 六種以上
- 第四種絶縁電線 六種以上 三種以上
- 使用電壓二百五十「ヴォルト」以下ノ電線ニ
二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太
サヲ有スルモノヲ使用シ電線ト造管材トガ
接觸ノ虞ナキ様充分離隔スル場合ニ限り第
一種絶縁電線ヲ使用シ且支持點間ノ距離ヲ
一米以上ト爲スコトヲ得
- 二 金屬管工事ニ依ルトキハ本則第二百二十條
及細則第七十九條ニ準ジ施設シ且雨露ニ曝
露スル場所ニ施設スル場合ニハ水分ノ浸入
セザル構造ト爲スコト
- 三 電纜工事ニ依ルトキハ電纜ノ被覆ニ用フ
ル金屬體ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スル
コト
- 四 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器
具ハ屋内ニ裝置シ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ

- 五 施スコト
五 家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トス
ル電路ハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ
外「キロワット」以下毎ニ分岐シ且分岐點
ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路毎ニ各種ニ開
閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコト
- 六 前號ノ開閉器及自動遮斷器ハ専用ノモノ
トシ屋内電路用ノモノト兼用セザルコト
- 七 電球承口其ノ他ノ承口ニハ陶器又ハ絶縁
性耐火質物ヲ以テ製作シタル防水型ノモノ
ヲ使用スルコト
- 第六十八條 本則第二百三條ノ適當ニ施設ストハ
左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
一 展開セル場所ニ電線ヲ施設スルトキハ工
事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外造管材ノ
側面又ハ下面ニ取付ケ電線支持點間ノ距離
ヲ一米以下、電線相互間ノ距離ヲ六種以上

- 電線ト造管材トノ距離ヲ三種以上ト爲スコ
ト
- 二 金屬管工事ニ依ルトキハ本則第二百二十條
及細則第七十九條ニ準ジ施設シ且雨露ニ曝
露スル場所ニ施設スル場合ニハ水分ノ浸入
セザル構造ト爲スコト
- 三 管極間ノ短小ナル接續線ニ第二項ニ適合
セザル電線ヲ使用スルトキハ造管材ト接觸
セザル様充分離隔シ且堅固ニ取付クルコト
- 四 電線又ハ管極ガ造管材又ハ函壁ヲ貫通ス
ル部分ハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外
之ヲ導管内ニ藏ムルコト
- 五 管燈ハ人ノ容易ニ觸レザル様且造管材ト
直接接觸セザル様施設スルコト
- 六 電線及管燈ハ他ノ電線、弱電流電線、水
管又ハ瓦斯管ト十五種以上離隔スル場合ヲ
除クノ外其ノ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絶

- 七 線性ノ隔壁ヲ設クルコト
七 管燈用變壓器ノ一次側回路ニハ各種ニ專
用ノ開閉器又ハ挿込型接續器ヲ裝置スルコ
ト
- 八 管燈用變壓器ノ外面、變壓器ヲ藏ムル金
屬函、「キヤビネット」ノ金屬部分及金屬管
ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
- 九 「キヤビネット」ハ堅牢ナル不可燃質物ヲ
以テ製作シ又ハ不可燃質物ヲ内面全部ニ張
リタルモノトシ且防水構造ノモノト爲スコ
ト
- 本則第二百三條ノ特殊ノ絶縁耐力ヲ有スル電線
トハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後當該管燈
專用變壓器二次無負荷電壓ノ一・五倍ノ交流
電壓ヲ以テ絶縁耐力ヲ試験シ十分間以上之ニ
耐フルモノヲ謂フ
- 第六十九條 本則第二百四條第一項ノ適當ニ施設

- ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 配電線路ヨリ分岐スル點ニ近ク専用ノ開閉器ヲ裝置スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得
- 二 開閉器其ノ他之ニ類スル器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト
- 三 電線及電燈ヲ吊架スル金屬線ニハ四耗以上ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト
- 四 電線ヲ吊架スル金屬線ニハ電線ヨリ六十糎以內ノ箇所ニ碍子ヲ挿入スルコト但シ電線ノ支持ニ碍子ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二節 屋内工事

第七十條 本則第六條第一項ノ特殊ノ工事方法トハ左ノ各號ニ準ズルモノヲ謂フ

- 一 直流五百「ヴォルト」交流二百五十「ヴォ

- ルト」ヲ超過スル低壓屋内配線ヲ土間又ハ濕氣アル床上ヨリ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ハ電纜工事又ハ金屬管工事(細第七十九條)ニ依リ之ヲ施設スルコト
- 二 高壓屋内配線ハ左記ニ依リ施設スルコト
 - (イ) 電纜工事
 - (ロ) 六百「ヴォルト」以下ノ交流屋内配線ハ金屬管工事(細第七十九條)
 - (ハ) 人ノ觸ルル虞ナキ乾燥シタル展開場所ニ於テハ碍子引工事
- 前項第二號(ハ)ノ碍子引工事ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
 - 一 電線ニハ二・六耗以上ノ第四種絕緣軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト
 - 二 電線支持點間ノ距離ヲ五米以下ト爲スコト但シ造管材ノ面ニ沿ヒテ施設スルトキハ

此ノ距離ヲ一米以下ニ保持スルコト

- 三 電線相互間ノ距離及電線ト造管材トノ距離ハ左記ニ依ルコト但シ六百「ヴォルト」ヲ超過スル電線ニ在リテハ其ノ上部ニアル造管材トハ常ニ二十五糎以上離隔スルコト

最大使用電壓	支持點間ノ距離	電線相互間ノ距離	電線ト造管材トノ距離
--------	---------	----------	------------

- 六百「ヴォルト」以下ノモノ
 - 一米以下ノモノ
 - 一米以上十糎以上ノモノ
 - 十糎以上二十糎以上ノモノ
 - 二十糎以上三十糎以上ノモノ
 - 三十糎以上六十糎以上ノモノ
 - 六十糎以上ノモノ
- 六百「ヴォルト」ヲ超過スルモノ
 - 一米以下ノモノ
 - 一米以上十糎以上ノモノ
 - 十糎以上二十糎以上ノモノ
 - 二十糎以上三十糎以上ノモノ
 - 三十糎以上六十糎以上ノモノ
 - 六十糎以上ノモノ
- 四 電線ノ造管材ヲ貫通スル部分ハ之ヲ充分ナル長サノ高壓用碍管內ニ藏ムルコト
- 五 高壓電線ハ低壓電線ト三十糎以上ノ距離ヲ保持シ且兩回路ハ容易ニ識別シ得ル

- 樣施設スルコト但シ電線ノ支持點間ノ距離ヲ一米以下ニ保持スルトキハ此ノ距離ヲ十糎迄ニ短縮スルコトヲ得
- 六 電線ハ弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ト三十糎以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコト
- 七 電線ト大地トノ間ノ絕緣耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルモノタルコト
- 本則第十條第二項、第一百一條、第一百二十條、第一百二十五條第二號、第一百二十六條第三號、第一百二十七條第一項、第一百二十八條第三號及細則第八十八條第二號及第五號ノ規定ハ之ヲ第一項第二號ノ高壓屋内配線工事ニ準用ス
- 第一項第二號ニ依ル工事ノ絕緣耐力ニ付テハ金屬管工事ニ依リ施設スル場合ハ第二項第七

號ノ規定ヲ、電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ本則第八十七條第一項第二號ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 本則第六十六條第二項ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電動機配電盤ノ表示燈又ハ電車線電壓ノ表示燈

二 電氣鐵道ノ車庫、驛舎、保線係員詰所其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スル低壓ノ直列式電燈

前項第二號ノ場合ニ於テハ左記各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 碍子引工事ニ依ルトキハ電線ニ一・六耗以上ノ第四種絶緣軟銅線ヲ使用シ造管材ト三種以上離隔スルコト

二 電球承口ニハ無鍵ノモノヲ使用スルコト

三 電線及電燈器具ハ人ノ容易ニ觸レザル箇所ニ施設スルコト

第七十二條 本則第八十八條ノ技術上已ムヲ得ザルモノトハ左ニ掲グル如キモノヲ謂フ

一 電氣爐用電線

二 移動起重機用接電電線及之ニ類スル接觸電線

三 電線ノ被覆絶緣物ヲ腐蝕スル場所ニ使用スル電線

第七十三條 本則第九十九條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電燈吊管、電燈腕管其ノ他之ニ類スル短小ナル金屬管内ニ電線ヲ藏ムル場合

二 金屬管工事、金屬線樋工事又ハ電纜工事ニ依ル百五十「ヴォルト」以下ノ電氣信號專用電線ニシテ一・二耗以上ノ軟銅線ヲ使用スル場合

第七十四條 屋内ニ施設スル開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ充電部分ガ露

出セザル様之ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ取扱者ノ外出入セザル場所ニ裝置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

屋内ニ施設スル可熔片ハ耐火質物ノ函又ハ管内ニ裝置スルコトヲ要ス

第七十五條 本則第一百三十三條第三項ノ特殊ノ場合トハ中性點ヲ接地セル多線式屋内配線ノ配電盤内ニ於テ電源側各極ニ開閉器ヲ裝置シ且之ヨリ二線式電路ノミヲ分岐スル場合ニ於テ

三「キロワット」以下ノ分岐回路ニ限リ其ノ中性線ニ接続スル電線ノ開閉器及自動遮斷器ヲ省略スル如キ場合ヲ謂フ

第七十六條 本則第二百二條第一項及第百十五條

第一項ノ點檢シ得ル遮蔽場所トハ點檢口ヲ有スル小屋裏、戸棚、押入ノ如ク容易ニ電氣工作物ニ接近シ又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ得ル遮蔽場所ヲ謂ヒ、本則第一百五條第一項及第

百十八條ノ點檢シ能ハザル遮蔽場所トハ天井、壁内、「コンクリート」床内ノ如ク破壊的動作ヲ爲スニ非ザレバ電氣工作物ニ接近シ又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ能ハザル場所ヲ謂フ

第七十七條 屋内ニ使用スル導管ハ絶緣性耐火質物ヨリ成リ且其ノ端口ハ電線ノ被覆ヲ損傷セザル圓滑ノモノナルコトヲ要ス

第七十八條 木製線樋工事ニ用フル線樋ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 乾燥シタル堅緻ノ木材ヲ以テ製作シタルモノナルコト

二 線樋ノ内外面ニ耐水質ノ塗料ヲ施シタルモノナルコト

三 電線ヲ押壓セザル様溝ノ大サヲ充分ナラシムルコト

第七十九條 金屬管工事ニ用フル金屬管ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

電氣工作物規程 細則 電氣使用場所ニ於ケル工事

- 一 管ハ鐵、眞鍮又ハ銅ノ如キ金屬ヲ以テ壓
牢ニ製作シタルモノナルコト
- 二 管ハ引拔、銲接又ハ熔接シテ製作シタル
モノナルコト但シ厚サ一耗未滿ノモノハ此
ノ限ニ在ラズ
- 三 管ノ厚サハ左ノ制限ニ依ルコト
 - (イ) 「コンクリート」ニ埋込ムモノハ二耗以
上
 - (ロ) 以外ノモノハ一耗以上但シ接手ナキ
短小ナルモノ及乾燥セル展開場所ニ施設
スルモノニ限り〇・五耗以上ノモノナル
コトヲ得
- 四 管ノ内面、屈曲箇所及其ノ端口ハ平滑ニ
シテ敷線又ハ電線ノ引換ニ當リ其ノ被覆ヲ
損傷セザルモノナルコト
- 五 鐵製ノ管ハ酸化作用ヲ防止スル爲ニ亜鉛鍍
メヲ施シ又ハ「エナメル」等ニテ被覆スルコト

- 六 管ノ接續ハ堅牢ナラシメ且厚サ一耗以上
ノモノニ在リテハ「ネジ」接續其ノ他之ト同
等以上ノ耐力ヲ有スル方法ニ依ルコト
- 七 濕氣アル場所若ハ壁内ニ施設シ又ハ「コ
ンクリート」ニ埋込ム金屬管工事ニハ其ノ
接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ
施スコト
- 第八十條 金屬線繩工事ニ用フル線繩ハ前條第
一號、第四號及第五號ニ適合シ且其ノ厚サハ
〇・五耗以上ノモノナルコトヲ要ス
- 第八十一條 本則第二百二十四條ノ適當ニ施設ス
トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
 - 一 電線ト屋内配線トノ接續點ニ於テハ電
球及附屬器具ノ重量ヲ屋内配線ニ支持セシ
メザルコト
 - 二 可撓紐線ト屋内配線トノ接續ハ鐵着其ノ
他ノ方法ニ依リ完全ニ之ヲ爲ス場合ヲ除ク

- ノ外紐線吊、挿込型接續器其ノ他之ニ類ス
ルモノヲ以テ之ヲ爲スコト
 - 三 可撓紐線相互ノ接續ハ適當ナル構造ヲ有
スル紐線接續器ニ依リテ之ヲ爲スコト
 - 四 可撓紐線ト家庭用電氣器具トノ接續ハ人
ノ容易ニ觸レザル様施設シタル端子金物ニ
可撓紐線ヲ完全ニ捻止スル場合ヲ除クノ外
挿込型接續器其ノ他之ニ類スルモノニ依リ
テ之ヲ爲スコト
- 第八十二條 飾窓又ハ飾面内ニ可撓紐線ヲ取付
クル場合ハ左記ニ準ジ施設スルコトヲ要ス
- 一 第二種可撓紐線ヲ使用スルコト
 - 二 可撓紐線ニハ分岐點ヲ設ケザルコト但シ
適當ナル接續器具ヲ用フルトキハ此ノ限ニ
在ラズ
 - 三 可撓紐線ハ留革ノ類ヲ以テ適當ニ取付タ
ルコト

- 第八十三條 本則第二百二十三條及第二百二十五條
ノ濕氣アル場所トハ風呂場、床下、酒醬油等
ノ醸造場若ハ貯藏場、料理店ノ庖厨、魚屋、
八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間若ハ洗場、又ハ蓄
麥屋、糧餉屋等ノ釜場ノ如ク水蒸氣ヲ發散ス
ル場所ノ如キヲ謂フ
- 第八十四條 本則第二百二十六條ノ塵埃アル場所
トハ精米、紡績、摺絲、製紙、製粉、碎礦等
ノ工場又ハ織絲、綿絲、綿「ネル」、帆布、「モ
スリン」、「セメント」、炭炭等ノ製造場ノ如
キヲ謂フ
- 第八十五條 本則第二百二十六條ノ適當ニ施設ス
トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 自動遮斷器ヲ藏ムル面ハ其ノ内部ニ塵埃
ノ侵入セザル様裝置シ且其ノ蓋ハ堅牢ナル
絶緣性不可燃質物ヲ以テ製作シ又ハ不可燃
質物ヲ面ノ内面全部ニ張りタルモノヲ使用

スルコト

二 紐線吊ハ堅牢ナル絶縁性不可燃質物ヲ以テ製作シタルモノニシテ震動ニ因リ其ノ蓋ノ弛緩セザル構造ノモノナルコト

三 紐線吊内ニ可熔片ヲ装置セザルコト

第八十六條 本則第二百二十七條ノ腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所トハ酸類、「アルカリ」、鹽素酸「カリ」、晒粉、染料若ハ人造肥料ノ製造工場、銅、亞鉛等ノ精鍊所、電氣分銅所、電鍍工場、蓄電池室等ヲ謂フ

第八十七條 本則第二百二十八條ノ爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所トハ火藥類、「セルロイド」、燐寸、石油、「アルコール」、「エーテル」、燒酎類等ヲ製造若ハ貯藏スル場所、引火點攝氏四十度以下ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所又ハ爆發性ノ瓦斯若ハ微粉ノ發生シ又ハ充滿スル虞アル

ル場所ノ如キヲ謂フ

第八十八條 本則第二百二十八條ノ適當ニ施設ス

トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 金屬線種又ハ金屬管ハ厚サ一耗以上ノモノナルコト

二 電線及機械器具相互ノ接續ハ電氣的完全ナラシメ且震動ニ因リ弛緩セザル様堅固ニ取付クルコト

三 電燈ハ造管材ニ直接取付クル場合ヲ除クノ外電燈吊管、電燈腕管ノ類ヲ以テ之ヲ施設スルコト

四 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外装ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ特ニ適當ナル保護裝置ヲ施シタルモノヲ使用スルコト

六 發熱要素ノ露出シタル電熱器ヲ使用セザ

ルコト

第八十九條 本則第三百三十條ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 舞臺、奈落、音樂室、映寫室及道具類又

ハ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ニシテ碍子引工事ニ依ルモノニハ第四種絶縁電線ヲ使用シ且外物ノ接觸ニ因ル損傷ヲ防止スル様適當ノ裝置ヲ爲スコト

一 「ボーダーライト」ト屋内配線トノ接續線

ニハ第二種可撓紐線ヲ使用シ且之ヲ皮革又ハ「ズツク」ノ類ヲ以テ外装スルコト但「ボーダーライト」ヲ移動セザル様裝置シタル

場合ニ在リテハ電線ニ一、六耗以上ノ第四種絶縁軟銅撚線ヲ束ネタルモノヲ使用スルコトヲ得

三 第一號ノ場所ニ使用スル電球線ニハ奈落

ニ在リテハ第三種乙可撓紐線其ノ他ノ場所

ニ在リテハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコト

第九十條 本則第三百三十一條ノ適當ノ構造及施設トハ左記ノ如キヲ謂フ

四 第一號ノ場所ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但

シ床上ヲ引摺リ又ハ外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管、「ゴム」管ニ藏メ若ハ皮革、「ズツク」ノ類ヲ以テ外装シ又ハ麻絲其ノ他強韌ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノヲ使用スルコト

五 舞臺、奈落、音樂室及映寫室ノ電路ニハ他ノ屋内配線ト獨立ニ之ヲ遮斷シ得ル様開閉器及自動遮斷器ヲ適當ナル箇所ニ裝置スルコト

六 電球、抵抗器其ノ他温度過昇ノ虞アル器具類ハ可燃質物ト容易ニ接觸セザル様適當ニ施設スルコト

第九十條 本則第三百三十一條ノ適當ノ構造及施設トハ左記ノ如キヲ謂フ

四 第一號ノ場所ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ床上ヲ引摺リ又ハ外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管、「ゴム」管ニ藏メ若ハ皮革、「ズツク」ノ類ヲ以テ外装シ又ハ麻絲其ノ他強韌ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノヲ使用スルコト

五 舞臺、奈落、音樂室及映寫室ノ電路ニハ他ノ屋内配線ト獨立ニ之ヲ遮斷シ得ル様開閉器及自動遮斷器ヲ適當ナル箇所ニ裝置スルコト

六 電球、抵抗器其ノ他温度過昇ノ虞アル器具類ハ可燃質物ト容易ニ接觸セザル様適當ニ施設スルコト

第九十條 本則第三百三十一條ノ適當ノ構造及施設トハ左記ノ如キヲ謂フ

四 第一號ノ場所ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ床上ヲ引摺リ又ハ外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管、「ゴム」管ニ藏メ若ハ皮革、「ズツク」ノ類ヲ以テ外装シ又ハ麻絲其ノ他強韌ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノヲ使用スルコト

五 舞臺、奈落、音樂室及映寫室ノ電路ニハ他ノ屋内配線ト獨立ニ之ヲ遮斷シ得ル様開閉器及自動遮斷器ヲ適當ナル箇所ニ裝置スルコト

六 電球、抵抗器其ノ他温度過昇ノ虞アル器具類ハ可燃質物ト容易ニ接觸セザル様適當ニ施設スルコト

第九十條 本則第三百三十一條ノ適當ノ構造及施設トハ左記ノ如キヲ謂フ

四 第一號ノ場所ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ床上ヲ引摺リ又ハ外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管、「ゴム」管ニ藏メ若ハ皮革、「ズツク」ノ類ヲ以テ外装シ又ハ麻絲其ノ他強韌ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノヲ使用スルコト

- 一 電熱器ハ左記ニ依ルコト
- (イ) 交流一「キロワット」、直流五百「ワット」ヲ超過スル電熱器又ハ之ニ接近シテ各極ニ適當ナル閉閉器ヲ裝置スルコト但シ電熱器ニ接續スル電線又ハ可撓紐線ニ挿込型接續器ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- (ロ) 電熱器ト電線又ハ可撓紐線トノ接續部分ハ熱ノ爲電線又ハ可撓紐線ヲ損傷セザル構造ト爲スコト但シ接續部分ニ於テ溫度過昇ノ虞アル場合ハ電熱器ニ接續スル電線又ハ可撓紐線ニハ耐熱構造ノモノヲ使用スルコト
- (ハ) 固定セル電熱器ハ周圍ノ可燃質物ト適當ニ離隔シ又ハ適當ナル耐熱裝置ヲ施スコト
- (ニ) 百五十「ヴォルト」以上ノ電熱器ノ金屬

- 製外面ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト但シ使用電壓ガ二百五十「ヴォルト」以下ニシテ中性點ヲ接地シタル電路ニ接續シテ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- (ホ) 前號(ニ)ノ接地線ヲ可撓紐線内ニ編込ム場合ニ於テハ其ノ部分ノ接地線ニハ一耗以上ノ軟銅撚線ヲ使用スルコトヲ得
- (ヘ) 保溫電熱器(座蒲團、炬燵、足温器等)ニハ危險ナル程度ノ溫度上昇ヲ爲サザル様自働的ニ溫度ヲ制限シ又ハ電流ヲ遮斷スル裝置ヲ施スコト
- (ト) 電熱器ニハ其ノ使用電壓、「ワット」數(又ハ電流)及製造者名ヲ表示スルコト
- 二 電鈴、豆電球等ニ使用スル豆變壓器ハ左記ニ依ルコト
- (イ) 單捲變壓器ヲ使用セザルコト

- (ロ) 變壓器ハ一次電壓百五十「ヴォルト」以下、二次電壓十「ヴォルト」以下、二次短絡電流三「アムペア」以下ノモノナルコト
- (ハ) 變壓器ハ其ノ一次側端子ノ充電部分ニ人ノ容易ニ觸レザル様施設スルコト
- (ニ) 變壓器ニハ其ノ一次側及二次側端子ヲ容易ニ識別シ得ル様適當ノ記號ヲ附スルコト
- (ホ) 變壓器ノ一次側ニハ適當ノ場所ニ自動遮斷器ヲ裝置スルコト
- (ヘ) 變壓器ニハ一次電壓、二次電壓、二次短絡電流及製造者名ヲ表示スルコト

第四章 電氣鐵道

第一節 通 則

第九十一條 本則第四十一條第三項及第四百四十七條第二項ノ適當ニ施設ストハ左ノ如ク施設

電氣工作物規程 細則 電氣鐵道

- スルヲ謂フ
- 一 架空電線ト架空弱電流電線トノ離隔距離ヲ增加スルコト
- 二 直流電源ノ電壓波形ヲ平滑ナラシムル裝置ヲ爲スコト
- 三 歸線ノ不絕緣部分及大地ニ通ズル電流ヲ減少セシムルコト
- 四 弱電流電線ノ地板ト電氣鐵道ノ歸線トノ距離ヲ增加スルコト
- 第二節 電車線路及第三軌條
- 第九十二條 高壓電車線ガ道路ヲ横斷スル箇所ニ於テハ公衆ヲシテ注意ヲ爲サシムル様適當ナル施設ヲ爲スコトヲ要ス
- 第九十三條 本則第一百五十五條ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 電車線及之ニ接續スル吊架用線ト弱電流電線トガ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ

又ハ水平距離低壓ニ在リテハ二・五米以下
 高壓ニ在リテハ四米以下ニ於テ並行スルト
 キハ電車線又ハ吊架用線ノ上部ニ細則第四
 十八條ニ規定スル保護網ヲ設クルコト但シ
 水平距離低壓ニ在リテハ一・二米以上、高
 壓ニ在リテハ二米以上ニシテ垂直距離各其
 ノ一・五倍以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 電車線及之ニ接続スル吊架用線ト弱電流
 電線トガ四十五度ヲ超過スル角度ヲ以テ交
 又スルトキハ電車線又ハ吊架用線ノ上部ニ
 細則第四十九條ニ規定スル保護線ヲ設クル
 コト

三 保護網又ハ保護線ト電車線若ハ之ニ接続
 スル吊架用線又ハ弱電流電線トノ垂直距離
 ヲ低壓ニ在リテハ六十糎以上、高壓ニ在リ
 テハ一・二米以上ト爲スコト但シ保護網ト
 弱電流電線トノ垂直距離ハ弱電流電線路管

理者ノ承諾ヲ得タルトキハ三十糎迄ニ短縮
 スルコトヲ得

弱電流電線ニ第四種絶緣電線若ハ五耗ノ硬銅
 線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電
 線ヲ使用スルトキハ前項ノ裝置ヲ省略スルコ
 トヲ得

第九十四條 本則第五十六條第二項ノ特殊ノ
 事由アル場合トハ架空單線式電氣鐵道ノ半徑
 小ナル軌道曲線部分ニ於テ電車桿ノ離脱ニ因
 リ障害ヲ生ズル虞アル如キ場合ヲ謂フ
 前項ノ場合ニ於テハ張線ノ不接地部分ノ長サ
 ヲ電車線ヨリ一・五米迄ニ増加スルコトヲ得

第三節 歸 線

第九十五條 本則第六十四條第一項ノ特殊ノ
 施設トハ歸線ノ不絶緣部分ト地中管路トノ間
 ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中二米
 以上ヲ通過スルニ非ザレバ兩者間ヲ流通スル

コト能ハザラシムル施設ヲ謂フ

前項ノ不導體ノ離隔物トハ「アスファルト」及
 砂ヨリ成ル厚サ六糎以上ノ絶緣物ヲ「コンク
 リート」其ノ他ノ物質ヲ以テ機械的ニ堅牢ニ
 保護シ龜裂ヲ生ゼザル様施設シタル如キモノ
 ヲ謂フ

第九十六條 本則第六十五條第一項第四號及
 第六十六條第一項第二號ノ計算ハ左記ニ依
 ルモノトス

一 平均電流ハ車輛運轉ニ要スル直流側ニ於
 ケル一年間消費電力量(キロワット時)ヲ八
 千七百六十ニテ除シタルモノヲ基礎トシテ
 計算シタルモノナルコト

二 歸線ノ電流ハ漏洩セザルモノトシテ計算
 スルコト

三 軌條ノ抵抗ハ左式ニ依リ計算シタルモノ
 ヲ標準トスルコト

Rハ接續點ノ抵抗ヲ含ミタル單軌道一杆ノ
 抵抗(オームヲ單位トス)

Wハ軌條一米ノ重量(庇ヲ單位トス)

第九十七條 本則第六十六條第一項第一號ノ
 特殊ノ方法トハ左ノ如キ方法ヲ謂フ

一 「ボンド」ニ切斷面積百五十平方糎以上ノ
 鋼接線ヲ使用シ之ヲ熔接ニ依リ堅固ニ取付
 タルコト

二 獨立セル二箇以上ノ「ボンド」ヲ堅固ニ取
 付ケ前號ト同等以上ノ導電力ヲ有シタル
 コト

第九十八條 本則第六十七條ノ適當ノ施設ト
 ハ左ノ各號ノ一ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 車馬ノ通行スル踏切ニ敷設シタル軌條ハ
 他ノ部分ニ敷設シタル軌條ヨリ電氣的ニ絶

線軌條ト大地トノ間ニ電位差ヲ生ゼシメ
 二、車馬ノ通行スル路切ハ軌條間並ニ軌條ノ
 外側一、五米ニ至リ堅固ナル基礎ヲ施シ且
 其ノ表面ニ相當ノ厚サヲ有スル「アスファ
 ルトコンクリート」ノ如キ絕緣性質物ヲ施
 スコト
 前項第一號ノ施設ヲ爲ス場合ニ於テ軌條ノ接
 續線ニハ第四種絕緣電線ヲ使用シ且之ヲ管又
 ハ管内ニ藏メテ施設スルコトヲ要ス
 附則
 本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ施設シ又ハ施設中ノ電氣工作
 物ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ左ノ區別ニ依リ
 改修スルコトヲ要ス
 一、本則第二十六條第四項、第二十七條第四
 項、第五十二條、第六十八條第一項第四號

第六十九條第二項、第七十條第一項第四號
 第八十八條、第八十九條、第一百一條、第百
 三條、第百四條、第百六條第二項、第三項
 第百二十六條第一號、第百二十八條第一號
 第百三十三條第一項第一號、第百三十四條
 第一號、第百三十八條第二號、第百三十九
 條、第百六十五條第一項第二號又ハ第百六
 十六條第一項、細則第七十條又ハ第九十八
 條第二項ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行
 ノ日ヨリ一年內
 二、本則第十五條、第四十四條第一項第一號
 第七十一條第一項、第七十五條第一項、第
 八十條第一項、第九十七條、第百條第一項
 第八號、第百十三條第三項又ハ第百六十四
 條第二項、細則第三十一條第一項、第三項
 第五十八條第三號、第五十九條第一號ノハ
 第六十條第一項第三號、第四號、第五號、

第六十一條第二號、第八十九條第五號又ハ
 第九十三條ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施
 行ノ日ヨリ三年內
 三、前二號以外ノ規定ニ抵觸スルモノハ改築
 ノ際
 前項第一號及第二號ノ電氣工作物ハ其ノ改修期
 間内ト雖モ改築ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ規定
 ニ依リ施設スルコトヲ要ス

本規程は、電氣工作物の設置、保守、及び修理に關する事項を規定する。凡そ電氣工作物の設置、保守、及び修理に關する事項は、本規程に準じなければならない。但し、本規程に規定する事項以外の事項については、別に規定があるときは、その規定に準ずる。
一、電氣工作物の設置に關する事項
二、電氣工作物の保守に關する事項
三、電氣工作物の修理に關する事項
四、電氣工作物の安全に關する事項
五、電氣工作物の試験に關する事項
六、電氣工作物の記録に關する事項
七、電氣工作物の検査に關する事項
八、電氣工作物の許可に關する事項
九、電氣工作物の罰則に關する事項
十、電氣工作物の附則に關する事項
以上を規定する。
附則
一、電氣工作物の設置に關する事項
二、電氣工作物の保守に關する事項
三、電氣工作物の修理に關する事項
四、電氣工作物の安全に關する事項
五、電氣工作物の試験に關する事項
六、電氣工作物の記録に關する事項
七、電氣工作物の検査に關する事項
八、電氣工作物の許可に關する事項
九、電氣工作物の罰則に關する事項
十、電氣工作物の附則に關する事項
以上を規定する。

電氣工作物規程ニ依リ逓信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會請求ノ件

明治四十四年九月
逓信省告示第五十一號
大正二年六月
逓信省告示第五百五號改正
大正十年五月
逓信省告示第五十一號改正

電氣工作物規程ニ依リ逓信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會ノ請求ヲ爲サントスルトキハ其所轄逓信局長ニ之ヲ爲スヘシ

電氣工作物規程ニ依リ逓信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會請求ノ件

請許業員工の時、職の或る者ハ立寄る者ノ者
請業員の時、職の或る者ハ立寄る者ノ者

此ノ事ハ、凡ソハ其業員ノ請業員ノ者ハ、
請業員ノ時、職の或る者ハ立寄る者ノ者
請業員ノ時、職の或る者ハ立寄る者ノ者

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

二、請業員ノ時、職の或る者ハ立寄る者ノ者

三、請業員ノ時、職の或る者ハ立寄る者ノ者

四、請業員ノ時、職の或る者ハ立寄る者ノ者

電氣用品取締規則……………一

電氣工事人取締規則……………三五

電氣用品取締規則

◎逓信省令第三十號
昭和十年九月三十日

第一章 總則

第一條 本令ハ左ニ揚ゲル電氣用品ニ之ヲ適用ス

- 一 絶緣電線
- 二 可撓紐線
- 三 金屬管及金屬線繩
- 四 可熔器
- 五 開閉器
- 六 點滅器
- 七 接續器
- 八 電熱器
- 九 小型電動機
- 十 小型變壓器

電氣用品取締規則

十一 電流制限器

前項各號ノ電氣用品ノ範圍及細目ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第二條 電氣用品ヲ製造セントスル者ハ前條第一項各號毎ニ第二章ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ

免許ヲ受クベシ

第三條 電氣用品ノ製造者ハ免許ヲ受ケタル電

氣用品ニ付別表ニ定ムル型式ノ別毎ニ第三章ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ型式承認ヲ受クベシ但シ逓信大臣ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 電氣用品ノ輸入者又ハ移入者ハ前條ノ

規定ニ値シ逓信大臣ノ型式承認ヲ受クベシ

第五條 電氣用品ノ製造者又ハ輸入者若ハ移入者ハ逓信大臣ノ型式承認ヲ經ザル電氣用品ヲ販賣シ又ハ使用スルコトヲ得ズ

第二章 製造免許

電氣用品取締規則

二

- 第六條 製造ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ通ヲ具シ申請書(第一號書式)ヲ逓信大臣ニ提出スベシ
- 一 製造所設備ノ概要 圖面ヲ添
 - 二 製品ノ試験方法及試験設備ノ概要 圖面ヲ添
 - 三 製品ノ細目別ニ掲グル品名及一年間ノ製造豫定數量
 - 四 事業資金額
 - 五 技術主任者 履歷書ヲ添
- 第七條 逓信大臣製造ノ免許ヲ爲シタルトキハ電氣用品製造免許證書(第二號書式)ヲ申請者ニ交付ス

- 第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出シテハ關係ノ書類圖面ニ通ヲ、第五號ノ事項ニ關シテハ履歷書ヲ添附スベシ
- 一 製造所ノ名稱又ハ所在地
 - 二 製造所設備
 - 三 製品ノ試験方法及試験設備
 - 四 事業資金額
 - 五 技術主任者
- 第九條 電氣用品製造免許證書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ再交付ヲ逓信大臣ニ申請スベシ
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ電氣用品

品製造免許證書ノ書換ヲ逓信大臣ニ申請スベシ

- 一 氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
 - 二 主タル營業所ノ名稱又ハ所在地ヲ變更シタルトキ
- 相續、營業ノ讓渡又ハ會社ノ合併ニ因リ電氣用品ノ製造者ノ業務ヲ承繼シタル者ハ相續、讓渡又ハ合併ヲ證明スル書類ヲ添ヘ遲滞ナク電氣用品製造免許證書ノ書換ヲ逓信大臣ニ申請スベシ
- 第十一條 電氣用品ノ製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ具シ遲滞ナク電氣用品製造免許證書ヲ逓信大臣ニ返還スベシ
- 一 電氣用品ノ製造ヲ廢止シタルトキ
 - 二 免許ヲ取消サレタルトキ
- 第十二條 逓信大臣電氣用品製造ノ免許ヲ爲シ又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

電氣用品取締規則

三

第三章 型式承認

- 第十三條 型式承認ヲ受ケントスル者ハ申請書(第三號書式)又ハ第四號書式ニ試驗品竝ニ説明書及圖面各二通ヲ添ヘ電氣試驗所ニ提出スベシ
- 電氣試驗所ニ於テ必要アリト認ムルトキハ試驗品ヲ追加提出セシムルコトアルベシ
- 試驗品ノ運搬ニ要スル費用又試驗ニ因テ生ズル損害ハ申請者ノ負擔トス
- 第十四條 逓信大臣型式承認ヲ爲シタルトキハ電氣用品型式承認書(第五號書式)ヲ申請者ニ交付ス
- 逓信大臣型式承認ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス
- 第十五條 型式承認ヲ經タル電氣用品ニハ型式承認番號及製造者ノ氏名又ハ名稱 輸入品又ハ移入品ニ付

電氣用品取締規則

テハ輸入者又ハ移入者ノ他選信大臣ニ於テ必
 者ノ氏名又ハ名稱 商標法ニ依リ登録
 要ト認ムル事項ヲ標示スベシ
 前項ノ氏名又ハ名稱ハ商標シタルモノニ限ル
 ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ
 豫メ當該商標ヲ選信大臣ニ届出ヅベシ
 第十六條 電氣用品ノ輸入者又ハ移入者左ノ各
 號ノ一ニ該當スルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ選
 信大臣ニ届出ヅベシ
 一 氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
 二 主タル營業所ノ名稱又ハ所在地ヲ變更シ
 タルトキ
 三 電氣用品ノ輸入又ハ移入ヲ廢止シタルト
 キ
 相續、營業ノ讓渡又ハ會社ノ合併ニ因リ電氣
 用品ノ輸入者又ハ移入者ノ業務ヲ承繼シタル
 者ハ相續、讓渡又ハ合併ヲ證明スル書類ヲ添

ヘ遲滞ナク其ノ旨ヲ選信大臣ニ届出ヅベシ

第四章 検査

第十七條 選信大臣ハ電氣用品ノ製造者又ハ輸
 入者若ハ移入者ニ對シ製造設備、試験設備及
 電氣用品ニ關シ報告ヲ爲サシメ、試験ノ爲電
 氣用品ヲ提出セシメ又ハ検査吏員ヲ派遣シテ
 検査ヲ爲サシムルコトアルベシ
 選信大臣ハ電氣用品ノ製造者又ハ輸入者若ハ
 移入者ニ對シ製造設備又ハ試験設備ノ改善其
 ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベ
 シ
 第十三條 第三項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ
 電氣用品ノ試験ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條 電氣用品ノ製造者又ハ輸入者若ハ移
 入者ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年中ニ於ケル
 電氣用品ノ製造高又ハ輸入高若ハ移入高統計
 表別記様式ニ依リ
 選信大臣ニ提出スベシ
 表調製スベシ

第十九條

選信大臣ハ左ノ場合ニ於テハ電氣用
 品ノ製造者又ハ輸入者若ハ移入者ニ對シ電氣
 用品ノ製造、販賣若ハ使用ノ停止ヲ命ジ又ハ
 免許若ハ型式承認ヲ取消スコトアルベシ
 一 本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ
 タルトキ
 二 電氣用品ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキ
 第二十條 選信大臣ハ電氣用品ノ實績ニ因リ必
 要アリト認メタルトキハ型式承認ヲ取消スコ
 トアルベシ

第五章 手数料

第二十一條 製造ノ免許ヲ申請セントスル者ハ
 手数料七十五圓ヲ納付スベシ
 電氣用品製造免許證書ノ再交付又ハ書換ヲ申
 請セントスル者ハ證書一通ニ付手数料二十圓
 ヲ納付スベシ
 第二十二條 型式承認ヲ申請セントスル者ハ別

電氣用品取締規則

表ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

第二十三條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入

印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第六章 罰則

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十五條ノ規定ニ違反シ又ハ同條ノ標示

ニ關シ不正ノ所爲アリタル者

三 正當ノ事由ナクシテ第十七條ノ規定ニ依

ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ

爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ、其ノ他選信

大臣ノ命ジタル事項ヲ爲サザル者

四 第十九條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル

者

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料

ニ處ス

電氣用品取締規則

- 一 本令ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者
- 二 電氣用品製造免許證書換ノ申請ヲ怠リタル者
- 三 正當ノ事由ナクシテ電氣用品製造免許證書ノ返還ヲ怠リタル者
- 四 第十八條ノ規定ニ違反シタル者
- 第二十六條 電氣用品ノ製造者又ハ輸入者若ハ移入者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第二十七條 本章ノ規定ニ依リ處罰セラルベキ者法人ナルトキハ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニハ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同

- 一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 附 則
- 第二十八條 本令ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十九條 本令施行ノ際現ニ電氣用品ノ製造又ハ輸入若ハ移入ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ一年内ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラズ仍其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得
- 前項ノ期間經過後ニ於テ引續キ業務ヲ繼續セントスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ本令ノ規定ニ依ル免許又ハ型式承認ヲ申請スベシ
- 通信大臣ハ前項ノ申請ニ對スル免許又ハ型式承認ニ有効期間ヲ附スルコトヲ得
- 第三十條 第二十一條第一項又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル手数料ハ前條第三項ノ規定ニ依リ附セラレタル有効期間ノ滿了ニ因リ免許又ハ

型式承認ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ徵收一セズ
第一號書式

電氣用品製造免許申請書

収入
印紙

貼附シタル収入印紙ノ額

金 何 四

- 一 電氣用品ノ種別 第一條第一項各號ノ別ニ依ル
- 二 製造所ノ名稱及所在地

右電氣用品取締規則第二條ニ依リ電氣用品製造免許申請候也

年 月 日

主タル營業所

申請者 氏名又ハ名稱 印

(法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ附記スベシ)

通信大臣宛

電氣用品取締規則

電氣用品取締規則

第二號書式

第 號

電氣用品製造免許證書

主タル營業所

氏名又ハ名稱

電氣用品ノ種別

右電氣用品取締規則ニ依リ製造ヲ免許ス

年 月 日

逓信大臣 氏

名 印

第三號書式

電氣用品型式承認申請書

收入
印紙

貼附シタル收入印紙ノ額

金 何 圓

一 電氣用品名

二 型

三 製造免許番號

四 製造所ノ名稱及所在地

右電氣用品取締規則第三條ニ依リ電氣用品型式承認申請候也

年 月 日

主タル營業所

申請者 氏名又ハ名稱 印

逓信大臣宛

電氣用品取締規則

電氣用品取締規則

第四號書式

輸入(又ハ移入)電氣用品型式承認申請書

收入
印紙

貼附シタル收入印紙ノ額

金何圓

- 一 電氣用品名
- 二 型
- 三 產地及製造者

右電氣用品取締規則第四條ニ依リ電氣用品型式承認申請候也

年 月 日

主タル營業所

申請者 氏名又ハ名稱印

(法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ附記スベシ)

逓信大臣宛

第五號書式

電氣用品型式承認書

申請者名

- 一 電氣用品名
- 二 型
- 三 試驗成績 別紙ノ通

右試驗ノ結果其ノ成績所定ノ規準ニ適合スルコトヲ證明ス

電氣試驗所長名印

右電氣試驗所長ノ證明ニ依リ承認番號 **下** 第

號ヲ附シ型式ヲ承認ス

年 月 日

逓信大臣 氏

名印

電氣用品取締規則

電氣用品取締規則

別記様式

年度製造
移入高統計表

種別	品名	型式番號	製造(輸入又ハ移入)者名	製造免許番號	工場及營業所所在地 (輸入又ハ移入ノ場合 ニ於テハ營業所所在地 ノミチ記載スベシ)		備考
					從業者數	開業年月日	

電氣用品取締規則

種別	品名	型式番號	製造(輸入又ハ移入)者名	製造免許番號	工場及營業所所在地 (輸入又ハ移入ノ場合 ニ於テハ營業所所在地 ノミチ記載スベシ)	從業者數	開業年月日	備考

(別表)

第一號表 絕緣電線

導體ノ太サ單線ニ在リテハ直徑十二耗以下、撚線ニ在リテハ切斷面積百平方耗以下ノモノニ限ル

細別品目名		型式ノ別	試驗品提出數量	手數料	主要試驗事項
絕木 緣電 線綿	絕第 絕第 緣 緣 二 一 電 電 線種 線種	(一) 導體ノ材料 (二) 導體ノ太サ (三) 導體ノ單線撚線ノ別	一卷(五〇米以 上) 撚線ノ場合ハ 撚合セ前ノ素 附線一五米ヲ添	一五・〇〇	撚線ノ構造試驗 撚線ノ試驗
絶ゴ 緣電 線ム	絶第 絶第 緣 緣 四 三 電 電 線種 線種	同	同	二〇・〇〇	撚線ノ構造試驗 撚線ノ試驗

絶特 緣電 線殊		キヤブ 六〇 以下 ノニ 使用	鉛 被 絶 緣 電 線	(一) 電 壓	試驗品提出數量	手數料	主要試驗事項
管ネ 燈用 電線	同	同	(一) 被衝ノ材料及構成 (二) 導體ノ材料 (三) 導體ノ太サ (四) 導體ノ單線撚線ノ別 (五) 導體ノ單線撚線ノ別 (六) 線心數	一卷(三〇米以 上) 撚線ノ場合ハ 撚合セ前ノ素 附線一五米ヲ添	二五・〇〇	同	撚線ノ構造試驗 撚線ノ試驗
同	同	同	同	同	二五・〇〇	同	撚線ノ構造試驗 撚線ノ試驗
同	同	同	同	同	二五・〇〇	同	撚線ノ構造試驗 撚線ノ試驗

電氣用品取締規則

	(五) 導體ノ單線撚線ノ別
--	---------------

備考

一、同一品名ニ付導體ノ太サノミヲ異ニスルニ型式以上ヲ同時ニ申請スル場合ハ一型式ハ本表ノ手數料トシ其ノ他ハ一型式ニ付本表手數料ノ二割トス

第二號表 可撚紐線

導體ノ切斷面積五十平方耗以下ノモノニ限ル

細別	品名	型式ノ別	試驗品提出數量	手數料	主要試驗事項
可撚紐線	第一種可撚紐線	(一) 導體ノ材料	一卷(五〇米以上) 總合セ前ノ素線一五米ヲ添付スルコト	二〇・〇〇	構造試驗 導體抵抗試驗 絕緣耐力試驗 絕緣機械的性能試驗
可撚紐線	第二種可撚紐線	(二) 導體ノ切斷面積			
可撚紐線	第三種可撚紐線	(三) 線心數			
可撚紐線	第四種可撚紐線	(四) 線心數			

特種	電熱器用	小型器具用	被覆ノ材料及構成	試驗事項
可撚紐線	可撚紐線	(含ム金絲コードヲ)	(一) 被覆ノ材料及構成 (二) 導體ノ材料 (三) 導體ノ切斷面積 (四) 線心數	一般可撚紐線ノ試驗事項ニ左ノ耐熱試驗
可撚紐線	屋外用可撚紐線		(一) 被覆ノ材料及構成 (二) 導體ノ材料 (三) 導體ノ切斷面積	一般可撚紐線ニ同シ

備考

一、同一品名ニ付導體ノ切斷面積ノミヲ異ニスルニ型式以上ヲ同時ニ申請スル場合ハ一型式ハ本表ノ手數料トシ其ノ他ハ一型式ニ付本表手數料ノ二割トス

電氣用品取締規則

電氣用品取締規則

第三號表 金屬管及金屬線種

鋼又ハ鐵製ノモノニ限ル

細別	品名	型式ノ別	試驗品提出數量	手数料	主要試驗事項
金屬管及附屬品	金屬管	(一)材質 (二)形狀及寸法 (三)継目ノ接合方法 (四)防銹方法 (五)接續方法	三本	但シ屈曲試驗ヲ行フモノハ一〇圓トス	防銹試驗 屈曲試驗
	金屬管接合用手 金屬管接合用ス	(一)材質 (二)形狀及主要寸法 (三)防銹方法 (四)接續方法	三箇	五・〇〇	防銹試驗

第四號表 可熔器

定格電壓百ボルト以上ノ低壓ニシテ
定格電流百アンペア以下ノモノニ限ル

金屬線種及附屬品	金屬線種	金屬線種接合用手	型式ノ別	試驗品提出數量	手数料	主要試驗事項
	(一)材質 (二)形狀及主要寸法 (三)防銹方法	(一)材質 (二)形狀及主要寸法 (三)防銹方法		三組	七・〇〇	同
		同		三箇	五・〇〇	同

可熔器	可熔器	可熔器	可熔器	可熔器	可熔器
可熔器	可熔器	可熔器	可熔器	可熔器	可熔器
		(一)定格電壓 (二)定格電流 (三)主要部分ノ構造、寸法及材料	試驗品提出數量	手数料	主要試驗事項
			五箇	一五・〇〇	特性試驗 短絡試驗 溫度抵抗試驗 絕緣耐力試驗

電氣用品取締規則

捻込接続器	
捻込 込 栓 受栓	分岐ソケット アダプタ カレント アダプタ
(一) 定格電圧 (二) 定格電流 (三) 主要部分ノ構造、 寸法及材料	(一) 定格電圧 (二) 定格電流 (三) 主要部分ノ構造、 寸法及材料
同	同
(一) 定格電流 以下 ベア 五・〇〇 超過	(一) 定格電流 以下 ベア 五・〇〇 超過
温度抵抗試験 絶縁力試験 絶縁耐熱試験 荷重試験	温度閉路試験 絶縁抵抗試験 絶縁耐熱試験 荷重試験

電球受口	
紐線吊	キーレスソケット 防水ソケット
キーレスソケット 防水ソケット	キーレスソケット 押しピンソケット
同	同
同	同
(一) 定格電流 以下 ベア 五・〇〇 超過	(一) 定格電流 以下 ベア 五・〇〇 超過
温度抵抗試験 絶縁力試験 絶縁耐熱試験 荷重試験	温度閉路試験 絶縁抵抗試験 絶縁耐熱試験 荷重試験

電氣用品取締規則

三〇

電氣半田銀	電氣變銀		モノハ一五	點減裝置ヲ有
其他電熱器	毛髮乾燥器	一定格電壓	〇・〇〇	同
煙草點火器	煙草點火器	(二)消費電力	但シ附屬變	同
		(三)主要部分ノ構造、寸法及材料	器ヲ有ス	但シ附屬變
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス
			トスハ一五圓	器ヲ有ス

備考

- 一、二段以上ニ切換使用スルモノニ在リテハ手数料五圓ヲ加フ
- 二、自動裝置ヲ有スルモノニ在リテハ手数料五圓ヲ加フ
- 三、型式承認ヲ受ケザル電氣用品ヲ附屬シタル電熱器ニ在リテハ當該附屬品ニ對スル手数料ヲ加算ス

第九號表 小型電動機

- 一、定格電壓百ヴオルト以上ノ低壓ニシテ定型出力一キロワット以下ノモノニ限ル
- 二、器具ノ部分品トシテ組立テラレタルモノハ之ヲ含マズ

細別	品名	型式ノ別	試験品提出數量	手数料	主要試験事項
小型三相電動機	分相起動誘導電動機	(一)一定格電壓	三箇	二五・〇〇	特性試驗
	反發起動誘導電動機	(二)定格出力(又ハ入力)			起動性試驗
	反發誘導電動機	(三)定格周波數			溫度試驗
	蓄電池電動機	(四)極數			絕緣抵抗試驗
	整流子電動機	(五)主要部分ノ構造、寸法及材料			絕緣耐力試驗

電氣用品取締規則

三一

電氣用品取締規則

電氣 (通風用ヲ含ム)	
(一) 定格電壓	同
(二) 消費電力	同
(三) 定格周波數	同
(四) 極數	同
(五) 起動方式	同
(六) 主要部分ノ構造、寸法及材料	同

備考

- 一、定格電壓二種類以上ノモノニ在リテハ一種類ヲ増ス毎ニ本表手數料ノ五割ヲ加フ
- 二、定格周波數二種類以上ノモノニ在リテハ一種類ヲ増ス毎ニ本表手數料ノ五割ヲ加フ
- 三、型式承認ヲ受ケザル電氣用品ヲ附屬シタル電動機ニ在リテハ當該附屬品ニ對スル手數料ヲ加算ス

第十號表 小型變壓器

定格一次電壓百ヴォルト以上ノ低壓用ノモノニ限ル

細別品名	型式ノ別	試驗品提出數量	手數料	主要試驗事項
呼鈴用變壓器 玩具用變壓器 小型變壓器 表示器用變壓器	(一) 定格電壓 (二) 定格容量 (三) 定格周波數 (四) 主要部分ノ構造、寸法及材料	三箇	一五・〇〇	溫度試驗 特性試驗 絕緣抵抗試驗 絕緣耐力試驗
ネオン管燈用變壓器	同	同	二〇・〇〇	同

備考

- 一、中間口出ヲ有スルモノニ在リテハ手數料五割ヲ加フ
- 二、定格周波數二種類以上ノモノニ在リテハ二種類ヲ増ス毎ニ本表手數料ノ五割ヲ加フ
- 三、型式承認ヲ受ケザル電氣用品ヲ附屬シタル變壓器ニ在リテハ當該附屬品ニ對スル手數料ヲ加算ス

電氣用品取締規則

電氣用品取締規則

三四

第十一號表 電流制限器
 定格電壓百ボルト以上ノ低壓ニシテ最
 大動作電流百アンペア以下ノモノニ限ル

細別品名	型式ノ別	試験品提出數量	手数料	主要試験事項
電流制限器	(一) 定格電壓 (二) 最大動作電流 (三) 定格周波數 (四) 相及線式 (五) 極數及素子數 (六) 動作方式 (七) 主要部分ノ構造、寸法及材料	五箇	三〇・四〇	動作試驗 溫度試驗 絕緣抵抗試驗 絕緣耐流試驗 過電流試驗 耐電流試驗 特性試驗 電壓降下試驗

備考

一、最大動作電流ノミヲ異ニスルニ型式以上ヲ同時ニ申請スル場合ハ一型式ハ本表ノ手数料トシ其ノ他ハ一型式ニ付手数料十圓トス

電氣工事人取締規則

逓信省令第三十一號
 昭和十年九月三十日

第一條 屋内及家屋ノ外面ニ於ケル電氣工事
 (看板、廣告塔等ノ電氣工事ヲ含ム)ニ從事セ
 ントスル者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ逓信局長
 ノ免許ヲ受クベシ

第二條 免許ノ有効期間ハ十年トス
 免許ハ甲種及乙種ノ區別ニ從ヒ試験ニ依リ之
 ヲ爲ス

免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者其ノ他
 逓信局長ニ於テ不適當ト認メタル者ニ付テハ
 免許ヲ爲サザルコトアルベシ

第三條 試験ハ左ノ事項ニ付之ヲ行フ但シ必要
 アリト認メタルトキハ簡單ナル實地作業ニ付
 テモ試験ヲ行フコトアルベシ

電氣工事人取締規則

三五

- 一 配電(一般電氣工作物規程ヲ含ム)
- 二 電氣工事材料及機械器具一般
- 三 電氣工事施行方法及電氣工作物試験
 四 配線圖
- 第四條 甲種免許ヲ受ケントスル者左ノ各號ノ
 一ニ該當スルトキハ前條ノ試験ノ全部又ハ一
 部ヲ省略スルコトヲ得
 一 甲種免許ノ有効期間滿了ニ因リ免許ヲ申
 請シタル者
 二 電氣事業主任技術者ノ資格ヲ有スル者及
 第二種自家用電氣工作物主任技術者ノ經歷
 ヲ有スル者
 三 修業年限二年以上ノ學校ニ於テ電氣工學
 ヲ專修シ其ノ學校ヲ卒業シタル者
 乙種免許ヲ受ケントスル者左ノ各號ノ一ニ該
 當スルトキ亦前項ニ同ジ
 一 免許ノ有効期間滿了ニ因リ免許ヲ申請シ

タル者

二 前項第二號及第三號ニ掲グル者
三 講習其ノ他ノ方法ニ依リ電氣及電氣工事ニ關スル知識ヲ修得シタル者

第五條 免許ヲ受ケントスル者ハ履歷書(第二號書式)履歷ニ關スル證明、戶籍ノ抄本及寫眞書ヲ添附スベシ
申請前六月以内ニ撮影シタル名刺版、脱帽正面半身、無蓋紙ノモノニシテ裏面ニ撮影年月日及氏名ヲ記載セルモノヲ添へ申請書(第一號書式)ヲ其ノ主タル營業地若ハ勤務地又ハ住所ヲ管轄スル逓信局長ニ提出スベシ
第六條 免註ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ

甲種 四回
乙種 三四
前項ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙

ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第七條 逓信局長免許ヲ爲シタルトキハ免許證(第三號書式)ヲ申請者ニ附與ス
第八條 不正ノ方法ニ依リ免許ヲ受ケタルコト判明シタルトキハ其ノ免許ハ無効トス

第九條 免許ヲ受ケタル者(以下電氣工事人ト稱ス)其ノ業務ニ從事スルニ至リタルトキハ十日以内ニ届書(第四號書式)ヲ其ノ營業地又ハ勤務地ヲ管轄スル逓信局長ニ提出スベシ營業地、勤務地又ハ勤務先ヲ變更シタルトキ亦同ジ
前項ノ届書ニハ免許證ノ寫ヲ添附スベシ但シ免許ヲ爲シタル逓信局長ニ届出ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十條 甲種免許ヲ受ケタル電氣工事人ニ非ザレバ左ノ工事ヲ爲スコトヲ得ズ

一 高壓電氣工事及「ネオン」管燈工事

二 電氣工作物規程本則第二百二十七條乃至第三百三十條ニ規定スル電氣工事

三 電纜工事、金屬管工事又ハ金屬線繩工事はシテ長サ十米ヲ超ユルモノ

四 電燈ノ受口五十箇、家庭用電氣器具ノ受口十箇又ハ電動機其ノ他ノ電力裝置三箇以上ヲ施設スル場所ニ於ケル電氣工事

第十一條 電氣工事人ハ電氣工作物規程其ノ他電氣ニ關スル法令ノ定ムル所ニ從ヒ工事ヲ爲スベシ

電氣工事人ハ電氣用品取締規則ニ違反スル電氣用品ヲ工事ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第十二條 電氣工事人同一工事ニ從事スル電氣リテハ主任ノハ工事着手前配線圖ヲ添へ工事電氣工事人ハ工事着手前配線圖ヲ添へ工事ノ概要ヲ關係電氣事業者ニ通知スベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ關係電氣事業者ノ設計ニ基キ其ノ指揮又ハ委託ニ依リ工事ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 電氣工事人ハ検査吏員、警察官吏、工事依頼者又ハ關係電氣事業者ノ請求アリタルトキハ免許證ヲ呈示スベシ

第十四條 電氣工事人免許證ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ再交付ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ免許證 毀損ノ場及寫眞ヲ添へ申請書(第五號書式)ヲ免許ヲ爲シタル逓信局長ニ提出スベシ

電氣工事人其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク免許證ノ書換ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ免許證ヲ添へ申請書(第六號書式)ヲ免許ヲ爲シタル逓信局長ニ提出スベシ
電氣工事人免許證ノ書換ヲ受ケタルトキハ遲

電氣工事人取締規則

三八

滞ナク届書(第七號書式)ヲ營業地又ハ勤務地
ヲ管轄スル選信局長 書換ヲ爲シタル
選信局長ヲ除クニ提出ス
ベシ

第十五條 免許證ノ再交付又ハ書換ヲ申請セン
トスル者ハ手数料二十錢ヲ納付スベシ
前項ノ手数料ノ納付ニ付テハ第六條第二項ノ
規定ヲ準用ス

第十六條 選信局長ハ電氣工事人ノ爲ス電氣工
事ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ検査吏員ヲ派遣
シテ検査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第十七條 電氣工事人左ノ各號ノ一ニ該當スル
トキハ其ノ旨ヲ具シ遲滞ナク免許證ヲ免許ヲ
爲シタル選信局長ニ返還スベシ

- 一 電氣工事人其ノ業務ヲ廢止シタルトキ
- 二 免許ヲ取消サレタルトキ
- 三 免許ノ有効期間滿了シタルトキ

四 第八條ノ規定ニ依リ免許無効ト爲リタル
トキ

電氣工事人死亡シタルトキハ免許證ノ保管者
ハ前項ノ規定ニ準ジ當該免許證ヲ返還スベシ

第十八條 選信局長ハ電氣工事人本令又ハ本令
ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ電氣
工事ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ業務ノ
停止ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消スコトアルベシ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以
下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 免許ヲ受ケズシテ第一條ノ電氣工事ニ從
事シタル者
- 二 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル
者
- 三 正當ノ事由ナクシテ第十六條ノ規定ニ依
ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ
検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

四 前條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ
處ス

- 一 正當ノ事由ナクシテ免許證ノ呈示ヲ拒ミ
タル者
- 二 正當ノ事由ナクシテ免許證ノ返還ヲ怠リ
タル者
- 三 本令ノ規定ニ依ル届出又ハ通知ヲ怠リタ
ル者

(第一號書式)

電氣工事人免許申請書

収入
印紙

免許ノ種別 甲種
乙種

電氣工事人取締規則

附 則

本令ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ電氣工事人ノ業務ニ從事スル
者ハ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限り免許ヲ受ケズ
シテ仍其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得
前項ノ電氣工事従事者ハ本令施行ノ日ヨリ六月
内ニ履歴書(第二號書式)及戸籍ノ抄本ヲ其ノ主
タル營業地又ハ勤務地ヲ管轄スル選信局長ニ提
出スベシ

氏 名
年 月 日生

三九

電氣工事人取締規則

私儀電氣工事人取締規則ニ依リ前記種別ノ免許相受度申請候也
年 月 日

四〇

逓信局長宛

(第二號書式)
履 歷 書

住 所
氏 名 印

本 籍
現 住 所

氏 名 生
年 月 日

一、何年何月何日	何學校何科ニ入學
何年何月何日	何學校何科修業、卒業又ハ退學
何年何月何日	何試驗合格
何年何月何日	何官廳(官職名記載)、何會社又ハ何商店ニ於テ何々ノ職務ニ從事
賞 罰	

一、何年何月何日何々
右之通相違無之候也
年 月 日

右 氏 名 印

(第三號書式)

縱約十一
横約十三
外 面

裏

事	記

電氣工事人取締規則

四一

折目

表

第 號

何種電氣工事人免許證

(備考) 番號ノ上ニハ選信局名ノ頭字ヲ冠ス

内 面

氏
年 月 日生

表側

折目

裏側

- 一 免許ノ種別 甲種
- 二 免許ノ有効期限 年 月 日

選信局長印

寫

眞

局選
印長信

電氣工事人取締規則

四四

(第四號書式)

就業(變更)届

何種免許電氣工事人

氏

年 月 日生

名

一 免許ノ年月日及番號

二 營業地又ハ勤務地及勤務先

(變更ノ場合ニ於テハ新舊ノ營業地又ハ勤務地若ハ勤務先)

三 就業(變更)年月日

右電氣工事人取締規則第九條ノ規定ニ依リ届出候也

年 月 日

住所

氏

名印

逓信局長宛

(注意) 營業地及勤務地ハ市區町村別ニ記載スベシ

(第五號書式)

電氣工事人免許證再交付申請書

收入
印紙

一 免許ノ種類

二 免許ノ年月日及番號

三 再交付申請ノ事由
由亡失又ハ毀損ノ事
由ヲ記載スベシ

右電氣工事人取締規則第十四條第一項ノ規定ニ依リ申請候也

年 月 日

住所

氏

名印

逓信局長宛

(第六號書式)

電氣工事人免許證書換申請書

收入
印紙

電氣工事人取締規則

四五

電氣工事人取締規則

四六

一 新氏名
二 舊氏名
右電氣工事人取締規則第十四條第二項ノ規定ニ依リ申請候也
年 月 日

逓信局長宛

住所
氏名
氏印

(第七號書式)

電氣工事人免許證書換屆

何種免許電氣工事人
氏名

一 營業地又ハ勤務地及勤務先
二 免許ノ年月日及番號
三 舊氏名
右電氣工事人取締規則第十四條第三項ノ規定ニ依リ届出候也
年 月 日

住所
氏名
氏印

逓信局長宛

(注意) 營業地及勤務地ハ市區町村別ニ記載スベシ

大正八年十月三十日第一版發行

改正電氣工作物規程

昭和十年十月廿四日改正第八十版印刷

定價 金貳拾五錢

昭和十年十月廿八日改正第八十版發行

不許
複製

編輯者 兼 合資會社 電氣之友社
代表者 加藤 木重 教

東京市芝區濱松町一丁目十五番地

印刷者 齋藤 千吉

印刷所 芝 印刷所

發行所 合資會社 電氣之友社

東京市京橋區 電話銀座二五二五
銀座通(新橋際) 振替東京二二〇三
大阪市北區堂島 電話北一九〇六
中二丁目四十番地 振替大阪二〇六五

電氣之友社編纂

改正 電氣事業法并施行規則

附 自家用電氣工作物規程、電氣主任技術者檢定規則

小型(三六判) 並製定價二十五錢 送料四錢

本書は昭和七年十一月改正、同十二月より施行さるゝもの、校正嚴密、紙質選良、印刷製本等「電氣法令は電氣之友社」との定評に背かぬ至便なる携帶用の法令なり

電氣之友社編纂

改正 電氣法令全書

電燈・電力の部 別冊 大判 諸様式集 紙數九六枚

小形(三六判)洋裝 紙數七百頁 定價一圓二十錢 送料十五錢

昭和七年末現行電燈電力に關する法令全部を網羅し且つ參考法令として土地收用法、道路法、私設電信規則其他數項を卷尾に附す。本書の内容、紙質、製本等については既に定評あり、今回電氣事業法其他の改正と共に全部版を新にして刊行せり。別冊諸様式集は大好評を博す

社會電氣友社
發售行電氣書

工學博士 大竹太郎氏著

增補 技術者用高等數學

九州帝國大學教授 工學博士 森兵吾氏著

交流 流理論

東京工業大學教授 理學博士 山本勇氏著

最新 電氣磁氣學

理學博士 山本勇氏編

直流 電氣機械實驗法

濱松高等工業學校教授 中島友正氏著

新編實用電氣磁氣

濱松高等工業學校教授 中島友正氏著

新編實用電氣機械

定價金四圓八拾錢

送料 貳拾七錢

定價金參圓五拾錢

送料 貳拾七錢

定價金參圓

送料 貳拾四錢

定價金參圓五拾錢

送料 金拾八錢

定價金壹圓八拾錢

送料 貳拾壹錢

前編 定價金貳圓

後編 定價金壹圓九拾錢

送料各 貳拾壹錢

社會電氣友社
發售行電氣書

通信技師 鈴木壽傳次氏著

電氣測定

工學士 藤田經定氏 工學士 各務米次郎氏共著

送電及配電前編

同

送電及配電後編

田中 茂氏著

水車及調速機の故障と取扱法

工學士 各務米次郎氏著

實用電氣機器と其取扱

東京帝國大學助教授 工學博士 星合正洋氏述

強電流工學と電子裝置

定價金貳圓八拾錢

送料 拾八錢

定價金參圓九拾錢

送料 貳拾七錢

定價金貳圓貳拾錢

送料 各 拾八錢

定價金壹圓七拾錢

送料 拾六錢

定價金壹圓七拾錢

送料 拾八錢

定價 八十錢

送料 六錢

合會 資社
電氣之友社
發行 電氣書

伊藤義太郎氏著

地中送電線の理論と實際

工學士 福田豊氏著

再訂 電燈及照明

工學士 福田豊氏著

簡易電燈及照明

照明學會 編

照明及電熱講演集

照明學會關西支部編

最新電氣講座

早大工學士 横尾榮氏著

蓄電池取扱並應用

工學士 小宅千次郎氏著

簡易電氣工學

品切

全三卷 定價各 金四圓
送料各 貳拾七錢

品切

定價金 五圓八拾錢
送料 貳拾七錢

前編 定價金 參圓八拾錢
後編 定價金 參圓八拾錢
送料各 貳拾七錢

定價金 壹圓八拾錢
送料 拾八錢

增訂 定價金 壹圓五拾錢
送料 拾六錢

合會 資社
電氣之友社
發行 電氣書

通信技師 工學士 道田貞治氏著

最新電話

工學士 若目田利助氏 工學士 志田文雄氏共著

交換機動作及障礙修理法

工學博士 箕原勉氏著

ラヂオとは斯んなものさ

東京工業大學教授 理學博士 山本勇氏共著
工學士 關英男氏共著

無線工學

青柳有美氏 工學士 佐藤雅氏共著

電氣技工員講習錄上卷 電氣修身電氣學大意

同中卷 外線工事一班と電燈照明
同下卷 内線工事一班と電燈照明

前編 定價金 貳圓八拾錢
中編 定價金 參圓貳拾錢
後編 定價金 參圓貳拾錢
送料各 貳拾四錢

贈圖 共定價金 壹圓九拾錢
送料 拾八錢

品切

定價金 壹圓八拾錢
送料 拾八錢

品切

品切